

学校評価ガイドブック（実践編）

学校評価実践事例集

—実りある学校評価に向けて—



平成17年3月

山口県教育委員会

はじめに

山口県教育委員会では、平成14年度から山口県における学校評価システムの在り方について調査研究を進めてきましたが、平成16年11月に「学校の評価システムに関する調査研究会議」から、これまでの研究の成果を取りまとめた報告書が提出されました。

この報告書では、学校評価は、学校間の優劣を比較するものではなく、教職員と保護者や地域の方々が、共によりよい学校づくりをめざして取り組む「学校改善のためのシステム」と位置付けております。また、各学校において、特に力を入れて取り組もうとする「重点目標」と、その実現に向けた「具体的方策」の達成状況について「自己評価」を実施するとともに、児童生徒や保護者等による「外部評価」を積極的に導入することなどが提言されております。

県教委では、この報告書を受けて、各学校において学校評価を具体的に進めるためのガイドラインを示した学校評価ガイドブック「よりよい学校づくりに向けて」を作成し、各学校に配付したところですが、このたび、3年間にわたる調査研究の中で、後半の2年間を実践協力校として取り組んできた9校の取組みの概要とその成果をまとめた「学校評価実践事例集」を発行することといたしました。

この実践事例集は、各実践協力校が山口県としての学校評価システムの導入や確立に向けて、様々な視点から取組みを行った内容をとりまとめたものであり、最終報告書で提言されたものとは異なる形態のものもありますが、学校全体としての取組みとして参考になるものも数多く含まれております。

各学校におきましては、本実践事例集を御活用いただき、教職員による自己評価だけでなく、児童生徒や保護者、地域住民等による外部評価も取り入れた学校評価システムの構築を積極的に推進されるようお願いいたします。

目 次

小学校実践事例 4

よりよい学校づくりをめざす評価の在り方	4
下関市立長府小学校 下関市立吉田小学校 豊浦町立小串小学校	
1 評価体制	4
(1) 学校評価委員会等の体制の整備	
(2) 保護者や地域社会との連携	
2 学校評価計画の作成	9
3 具体的評価活動	11
(1) 年度末における評価	
(2) 年度途中における評価	
4 評価基準の設定	31
(1) 教育活動の的確な評価	
(2) 具体的数値目標	
5 評価結果の公表	33
(1) 評価結果の公表に向けて	
(2) 公表の内容	
6 評価結果に基づいた学校運営の充実・改善	37
(1) 目標の達成状況の診断	
(2) 診断結果を踏まえた学校運営の充実・改善	
(3) 中間評価の実施による計画の改善と修正	
(4) 特別活動(学校行事、児童集会活動等)の充実・改善	
7 学校評価の実施による成果と課題	46
(1) 成果	
(2) 課題	

中学校実践事例 48

外部評価への取り組みを中心にした実践(小野田市立高千帆中学校)	48
1 学校評価の目的	48
2 評価体制	
3 年間評価スケジュール	50
4 評価領域	
5 評価項目の設定	52
6 評価基準の設定	54
7 評価結果の分析・検討から充実・改善へ	
8 成果と課題	57
(1) 成果	
(2) 課題と今後の取り組み	
答えやすく、処理しやすい評価方法の工夫(小野田市立小野田中学校)	73
1 学校独自の評価表	73
2 回収率の高い実施方法	
3 分かりやすいデータ処理	77
4 今後の課題	

評価が学校改善に生きる年間スケジュールの工夫（宇部市立上宇部中学校）	78
1 はじめに	78
2 これまでの取り組み	
（1）自己・外部評価の導入年度と評価の実施時期	
（2）学校評価における年間スケジュール・校内体制の課題	
3 学校評価における年間スケジュールの工夫	79
（1）年間スケジュール立案上の留意点	
（2）学校評価年間スケジュール表	
4 効果的な学校評価年間スケジュールに向けた成果と課題	81
（1）成果	
（2）課題	

高等学校実践事例 83

教職員、生徒、保護者の三者による評価の活用（山口県立德山高等学校）	83
1 取り組みの概要（平成15年～16年）	83
2 評価体制	85
3 評価項目及び評価基準の設定	
4 評価結果の公表・情報提供	86
5 評価結果に基づいた学校運営の充実・改善	
6 学校評価の実施による成果と課題	87
外部評価結果の公表の工夫（山口県立柳井高等学校）	95
1 取り組みの概要	95
（1）評価の実施時期及び評価体制	
（2）評価項目及び評価基準	
（3）評価結果の公表・情報提供	
（4）評価結果に基づいた学校運営の充実・改善	
2 学校評価の実施による成果と課題	97
（1）実施による成果	
（2）これからの課題と改善方針	
授業改善に向けた授業評価の実践（山口県立光丘高等学校）	100
1 授業評価実施に向けて	100
（1）取り組みのきっかけ	
（2）目標の明確化・具体化	
2 具体的な取り組み	102
（1）評価体制	
（2）評価の実施時期	
（3）評価項目	
（4）評価結果	
（5）評価基準	
（6）評価結果の公表・情報提供	
3 授業評価の実施による成果と課題	105
（1）実施による成果	
（2）これからの課題と改善方針	

よりよい学校づくりをめざす評価の在り方

下関市立長府小学校
下関市立吉田小学校
豊浦町立小串小学校

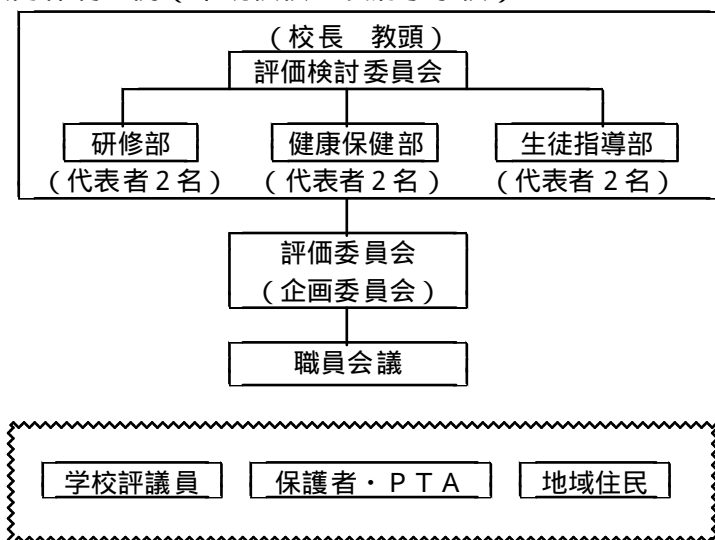
1 評価体制

学校評価を進めていくには、校長のリーダーシップの下、全教職員で取り組む校内体制をつくり、評価項目や評価基準の設定、評価結果の分析等を行うとともに、地域環境を含めた学校教育全体のあらゆる角度からの意見が集約できるように組織化する必要がある。

また、組織・体制づくりをしていく際には、学校規模や地域環境等の学校の実情に応じた機能性、実効性のあるものをつくるのが大切となる。そのためには、常日頃からの効果的な情報公開、情報発信が欠かせないものとなってくる。

(1) 学校評価委員会等の体制の整備

ア 校内体制の例（中規模校：長府小学校）



評価検討委員会

3つの部の代表者各2名と校長、教頭の8名で構成し、学校評価の評価項目や基準の設定、結果の分析、改善の取組み等の原案を作成する。

各部会（3部会）

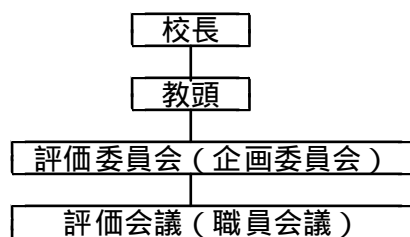
知・徳・体の3領域に関わりのある分野の話し合い活動、提案・実践の中核となる。

評価委員会（企画委員会）

学校評価に関する原案を検討する。

時間の有効利用、機能性ということから考え、場合によっては、評価検討委員会を経ないで直接、評価委員会へ提案し、職員会議で協議することもある。

イ 校内体制の例（小規模校：小串小学校）



評価委員会

校長、教頭、教務主任の3名で原案を作成する。企画委員会を兼ねる。

評価会議

職員会議の中で全教職員が協議し、共通理解を図る。

(2) 保護者や地域社会との連携

ア 情報公開・情報発信の推進

保護者や地域の方々には的確な学校評価を行ってもらうためには、常日頃から学校の情報をしっかり公開し、発信していくことが重要となる。例えば担任が行う連絡帳や電話連絡などから始まり、学校だより、学年通信、学級通信などを使って保護者や地域の方に、学校が行っていることや考え方などをできるだけ具体的に知ってもらうことが大切である。そのためには、学校だよりや生徒指導だよりなどはできるだけ広範囲に配布する努力を惜しんではならないと考えている。

また、従来からある学校要覧を見直し、保護者や地域の方々へ学校の取組みを分かりやすく説明する方策として活用することもできる。

【平成16年度 学校要覧（長府小学校）】



こんな取り組みを行います

（目標達成のための）

学校経営

- 1 学校評価を推進し、保護者や地域、子供たちの意見を生かすように努力します。
- 2 チャレンジ目標達成のために、具体的な方法で取り組みます。
- 3 保護者・地域との連携や情報公開・情報発信を積極的に推進し、開かれた学校づくりに努めます。
- 4 専門教員としての責任と使命を自覚し、教職員の資質の向上・協力体制の確立に努めます。



あいさつ運動

学習指導

- 1 基礎学力の充実に努め、自ら学ぶ力を育てることに努めます。
- 2 道徳教育、人権教育、ボランティア教育、図書館教育などを充実させ、自他の思いを大切にすることを育成します。
- 3 少人数指導や教科担任制などを実施し、個性に応じた教育を展開します。
- 4 コンピューターなどを活用したり、外国の指導助手を招いたりして、情報化・国際化に対応した教育を推進します。



みどり園訪問

生徒指導・教育相談

- 1 自分の力で成長する自己教育力を身に付ける指導を行います。
- 2 教育相談担当を中心にいじめなどの心の悩みを解消し、温かく、安心して学べる学校を目指します。



緑珠祭（開校記念行事）

保健・体育指導

- 1 体育の指導や休み時間の外遊び等を通して、日常的な運動の習慣化を目指します。
- 2 食に関する指導に積極的に取り組みます。



なでなで運動会

教育環境等

- 1 豊かでうるおいのある教育環境の整備・充実に努めます。
- 2 自分たちの学校を誇りに思い、進んで清掃や作業に取り組む児童を育てます。

イ 教育モニター制の導入

児童の生活実態の的確な把握のためには、学校生活のみならず家庭や地域社会における生活の状況を知ることが大切である。しかし、家庭や地域社会における生活実態については、教職員がすべてを把握することには限界がある。

そこで、小串小学校では年度はじめのPTA常任委員会において、各自治会委員に教育モニターを依頼し、実態の把握に努めている。

具体的には、12名の委員に各観点ごとの評価と自由記述により児童の生活実態を記入した「モニター用紙」を提出してもらっている。届けられた情報は生徒指導主任を中心に分析し、教職員全員で共通理解するとともに諸課題への対応を図っている。

入手した情報や分析結果については、個人のプライバシーに十分配慮した上で、学校だより等により全世帯に公表している。公表することにより、「子どもたちをみんなで育てる」という意識を学校・家庭・地域社会全体で共有しようとしている。

【学校だよりでの「教育モニター」結果の公表】

地域の申で育つ子どもたち

「小串小学校 交通安全・生徒指導連絡協議会」開催

7月14日(水) 警察署、交通安全協会、公民館、自治会連合会、育成町民会議、幼稚園、育友会、自治会委員の方々をお招きして行いました。夏休みを前に、子どもたちの地域での様子・交通安全などについて話し合いました。毎月の教育モニターでも意見が出ているように、自転車の乗り方、飛び出し、遊び場所についての意見が出ました。小串地域のだれもが願っていること、それは子どもたちの安全であることを大変強く感じました。

これから長い夏休みになります。海水浴場もあり、また国道の交通量も増えてきます。路地から飛び出さずにしっかりと安全確認をすること、自転車の正しい乗り方をすることなど親子で話し合いをしてください。

教育モニター より

(……よい ……あまりよくない)

学校外生活		4月		5月		6月		計	
地区での生活	危険な遊び	1	3	3	1	5	2	9	6
	あいさつ	1	0	4	1	5	2	10	3
	自転車の乗り方	1	4	2	2	3	2	6	8
	帰宅時刻	0	2	3	3	6	2	9	7

この表は、毎月の教育モニター「小串っ子」の中から、「地区での生活」について報告していただいたものをまとめたものです。自転車の乗り方について一番危惧しておられることが伝わってきます。

教育モニター より

登下校時、だれにでもきちんとあいさつができています。
新1年生の歓迎会をしました。子どもが減って寂しいですが、とてもよい会でした。
明るくなってきて、6時すぎ、7時頃まで遊んでいる姿を見かけます。

6時には家に帰っているよう、もう一度指導しました。

【教育モニター依頼文】

教育モニターについて（依頼）

新緑の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素より本校の教育振興にご支援・ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、皆様におかれましては、平成16年度の育友会自治会委員として活動いただくことになりました。子どもたちの生活について、地域・育友会・学校が連携して指導にあたるためにも皆様方のお力添えをいただきたいと考えます。

学校としましては、子どもたちの地域での様子を把握し、適時指導することが大切だと考え、平成12年度より教育モニター委員による連携指導を取り入れることにしました。問題点だけでなく、子どもたちのよい面や地域での様子などについて情報をいただきたいと思います。

学校・家庭・地域社会との連携を一層強化し、子どもたちを取り巻く環境の浄化に努めたいと考えます。育友会自治会委員の皆様には、下記の要領で教育モニターをお願いいたします。趣旨をご理解の上、ご協力をお願いいたします。

記

- 1 教育モニター「小串っ子」の提出
 - ・月末に配布しますので、ご記入の上、配布しました封筒に入れお子様を通じて学校へご提出ください。
 - ・FAXでの提出でもかまいません。 FAX
- 2 「小串っ子」の内容
 - 地域での子どもたちの生活の様子について記入してください。
 - ・いじめを含めた問題行動 ・登下校の様子 ・善行 ・学校への要望 他

【教育モニター記入用紙】

教育モニター「小串っ子」 () 月分

教育モニター委員氏名	自治会名

分かる範囲で、 、 をご記入ください。

学校外生活 (……よい ……あまりよくない)					
登校の様子	集合時刻		仲良く集団登校		あいさつ
下校の様子	交通ルール		決まった通学路		あいさつ
地区での生活	危険な遊び		自転車の乗り方		あいさつ
	帰宅時刻				

月	日	子どもの様子 子ども会活動での様子、善行、問題行動、不安なことや気になることなどを記入してください。

* 登校時や下校時の様子など、学校では把握できにくい児童の様子をお知らせください。
また、学校への要望がありましたら、具体的にご記入ください。 FAX

2 学校評価計画の作成

学校評価推進のために、評価に関する会議、評価の実施、評価結果の公表や改善等の年間スケジュールを年度当初に示し、全教職員が共通理解するために学校評価年間計画を作成している。

取組みの1年次は学校評価体制を整備していくために、話し合いの割合が多くなるが、具体的な評価活動と並行して進めていくとよい。

【学校評価年間計画表の例】

(1年次) 平成15年度 学校評価計画 下関市立長府小学校

月	推 進 状 況	学 校 評 価 の 実 施
4	<ul style="list-style-type: none"> 本年度学校教育基本構想の提案(校長) 本年度の組織・学校評価計画の提案 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 学校評価を基盤とした取組みの基本 1 学校経営への学校評価を中心としたP D C Aシステムの導入 2 積極的情報公開・情報発信 3 保護者・地域との連携 </div>	
5	<ul style="list-style-type: none"> 学級経営案(評価やスケジュールを組み込んだもの)の提案 	<ul style="list-style-type: none"> 学級経営案の作成
6	<ul style="list-style-type: none"> 県学校評価システム調査研究会議(県の方向性の確認) 	
7	<ul style="list-style-type: none"> 学年末自己評価(教職員用)外部評価(児童用、地域・保護者用)の様式検討 	<ul style="list-style-type: none"> 学級経営案による1学期評価
8	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価の研究 (児童による自己評価、授業評価、来客者アンケート) 	
9	<ul style="list-style-type: none"> 情報公開・情報発信のあり方についての検討 地域や保護者との連携のあり方についての検討 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジ目標達成のための児童の自己評価
10	<ul style="list-style-type: none"> 第1回実践協力校連絡会議 評価を改善策に結びつける方法の検討 (評価数値、自由記述、総合的に) 参観日意見用紙についての検討 	<ul style="list-style-type: none"> 来校者アンケート開始 授業評価(全教員) 考察・改善策の設定
11	<ul style="list-style-type: none"> 学校要覧の検討 先進校視察 P D C Aを組み込んだ行事提案の方法についての研修 	<ul style="list-style-type: none"> 参観日意見用紙使用開始
12	<ul style="list-style-type: none"> 3学期の取組みの確認 (年度末学校評価の実施及びまとめ方等) 第2回実践協力校連絡協議会 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジ目標達成のための児童の自己評価 学級経営案による2学期評価
1	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の学校要覧の検討 来年度の掲示教育の検討 教職員がP T A行事や地域行事の参加度を高めるための検討 	<ul style="list-style-type: none"> 学年末自己評価(教職員) 学年末外部評価(児童、保護者・地域、学校評議員)
2	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの開設、学校紹介ビデオの作成検討 学年末評価の分析・考察、協議による来年度方針の決定 	
3	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価及び来年度の基本方針公開(P T A総会、校報) 	<ul style="list-style-type: none"> 学級経営案による学年末評価

平成16年度 学校評価計画

(2年次)

下関市立長府小学校

月	推 進 予 定	学 校 評 価 の 実 施
4	<ul style="list-style-type: none"> 本年度学校教育基本構想の提案(校長) 本年度の組織・学校評価計画案・取組み重点の提案(職員会議) 	<ul style="list-style-type: none"> 来校者アンケート(年間を通して)
5	<ul style="list-style-type: none"> 学級・専科経営案の検討(検討委員会) 学校要覧の作成・配布 	<ul style="list-style-type: none"> 学級・専科経営案の作成
6	<ul style="list-style-type: none"> 各学校評価についての検討(各部会・検討委) (ねらい、実施方法・時期、項目の適否、効果的な生かし方等) 地域との連絡協議会の開催 中学校との連絡会の開催(1回目) 	
7	<ul style="list-style-type: none"> 年度末学校評価についての検討(各部会) (項目の適否、評価のまとめ方と効果的な生かし方等について) 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価 児童の自己評価 経営案の自己評価
8	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価についての研修(職員会議) 情報公開・情報発信についての研修 保護者・地域との連携についての研修 授業評価の考察・改善策立案(各担任・専科) 経営案の自己評価における考察・改善策立案(各担任・専科) 	
9	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の取組みのまとめと2学期の学校評価の取組みについての確認(職員会議) 地域への公開参観日(緑珠祭) 	
10	<ul style="list-style-type: none"> 年度末学校評価のうち、保護者・地域用の項目についての意見聴取 (PTA常任委員会) 	
11		
12	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価に基づいた考察と改善策立案 経営案の自己評価に基づいた考察と改善策立案(各担任・専科) 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価 児童の自己評価 経営案の自己評価
1	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の学校評価の取組みのまとめと3学期の取組みについての確認(職員会議) 年度末学校評価についての依頼 (保護者、地域住民、学校評議員等) 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末学校評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 教職員、児童 保護者・地域住民 学校評議員等 </div>
2	<ul style="list-style-type: none"> 中学校との連絡協議会(2回目) 年度末学校評価のまとめ ～数値分析・グラフ化・意見の集約・考察～ 学校評価のまとめに基づく来年度の取組み (検討委 評価委 職員会議) 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の自己評価 経営案の自己評価
3	<ul style="list-style-type: none"> 16年度学校評価の公開 (年度末PTA総会、校報「緑珠台」) 	

3 具体的評価活動

(1) 年度末における評価

学校評価活動において、年度末の学校評価は、1年間を振り返り、来年度の方針を決定するための資料となる重要なものである。教職員による自己評価だけでなく、児童や保護者等による外部評価を積極的に導入し、客観性を高めていくことが重要である。

実施時期としては、集計や来年度の方針等について検討する時間を確保するとともに、保護者や地域住民等に対して、評価結果や来年度の方針を公表していくことも考慮しながら計画的に実施することが大切である。

また、質問項目については、先進校の項目を参考にすることも考えられるが、それぞれの学校の実態や教育目標に応じた独自のものを設定していくことが重要である。

ア 教職員による点検

点検項目は全部で61項目、学校の全教育活動を網羅的に設定している。チャレンジ目標などの重点項目に絞って実施する方法もあるが、年度末ということもあり教育活動全般について振り返るようにしている。(P.12~14 教職員用点検表 参照)

イ 児童による評価

児童用については、アンケートの趣旨を学年段階に応じてよく理解させて実施することが大切である。また、低学年の児童には、判断がむずかしい項目については質問項目から外すなどの配慮が必要となる。

項目については、学校生活での自己評価、学校における人的環境(教師や児童)、学校での物的環境に関することが考えられるが、評価表の中で分けておいたことがアンケートを集計・考察する際に大変役立った。(P.15~16 児童用評価表 参照)

ウ 保護者・地域住民等による評価

保護者・地域住民用については、調査対象について校内でよく協議しておく必要がある。小規模の学校では保護者全員からの評価も可能であるが、大きな学校ではPTA役員などの一部を抽出して実施する方法も考えられる。加えて、学校評議員など学校に関わりの深い方あるいは地域で希望する方などにも協力を求め、門戸を開いておくことが大切である。

また、無記名での回答も考えられるが、長府小学校では、責任ある建設的な意見を求めるといふねらいから、記名での回答とした。

質問項目の設定においては、無作為に項目を配列するよりは、教育目標から学校経営、学習指導・評価というように大項目ごとに整理して配列する方が、集計や考察を加えるときに都合がよい。できれば、年度当初に設定したねらいや取り組み内容に沿って配列するのが望ましい。

さらに、自由記述の欄を設けて、高い評価や低い評価の理由、また、具体的な改善案をできるだけ記載してもらい、今後の改善に結びつけることが重要である。

(P.17~18 保護者・地域住民用評価表 参照)

学校運営

A 教育目標

共通理解・共同実践		評価	意見等
1	学校教育目標の共通理解は図れているか。		
2	努力点達成のための取組みを実践しているか。		
3	全体計画・年間計画に基づいた実践ができているか。		
4	教育活動全体に渡って評価を行い、次年度に生かし改善するようになっているか。		

B 指導体制

組織づくり		評価	意見等
5	努力点達成をめざす分掌組織になっているか。		
6	学年・学級相互の連絡が円滑で、学校全体として意欲や力を発揮できる組織になっているか。		
7	職員会議で話し合われたことが教育活動や学校運営に生かされているか。		
8	分掌ごとの話し合いができており、組織が機能しているか。		
危機管理体制			
9	安全点検は計画的に実施し、行き届いた改善がなされているか。		
10	事件・災害・生徒指導に対し、全教職員が意思統一を図り、適切な対応ができているか。		

C 経営組織

環境整備		評価	意見等
11	教室や廊下等、教育環境は計画的に整備されているか。		
12	学級園・学校園等、校地内は美しく整備されているか。		
施設設備・財務関係			
13	施設・設備を、教育の場で、よく活用できているか。		
14	校地・校舎の維持管理について、教職員が協力して実践しているか。		
15	予算の編成・執行等の方法や手続きは適正に行われているか。		

D 研修

校内研修		評価	意見等
16	研修主題(表現力の育成)に沿った校内研修は計画的にできているか。		
17	校内研修の成果は、日常の教育実践の場に生かされているか。		
18	教職員が共に高め合う研修を推進するために意見交換はよくできているか。		
19	授業研究会や同学年研修等を通して、指導力は向上しているか。		
20	自らの研究と修養に努め、活力ある教育活動は展開できているか。		

E 開かれた学校づくり

情報の発信		評価	意見等
21	保護者 や地域への情報発信は十分にできたか。		
22	総合的な学習の時間の目的及び内容は、保護者に理解されるように努めたか。		
保護者・地域との連携			
23	幼・保・中学校との連携を図ることはできたか。		
24	保護者 や地域の人々と接する機会を多くもつとともに意見を十分聞いているか。		
25	地域の施設・人材や地域教材の活用はできたか。		
26	地域行事への参加はできているか。		

教育指導

F 学力の向上

基礎・基本の定着			
27	基礎的・基本的な内容の習熟・徹底は図れたか。		
28	習熟度に応じた指導に努めたか。		
29	体験学習や問題解決的な学習を重視し、指導方法の工夫に努めたか。		
30	自ら進んで課題に取り組む姿勢の育成に努めたか。		
31	指導に生かすために、計画的な評価に努めたか。		
32	学び方を身に付け、学ぶ喜びを実感させる指導に努めたか。		
発展的な学習の推進			
33	朝学の時間を有効に活用できたか。		
34	情報化に対応し、インターネットや各種資料は活用できたか。		
35	備品等の教材教具は、効果的に活用できたか。		
36	自主学習等、学習の習慣化は図れたか。		
37	児童一人ひとりのよさや可能性を大切に、個を生かす教育に努めたか。		

G 心の教育の充実

道徳教育の推進			
38	道徳の時間を確保するように努めたか。		
39	教育活動全般を通して、他教科との関連を図りながら指導の工夫ができたか。		
40	学校や家庭での生活全般を通して、児童自ら進んで「心のノート」を活用するように働きかけたか。		
41	学校だより等で呼びかけるなどして、保護者とともに児童の道徳的実践力の向上に努めたか。		
特別活動の推進			
42	児童が主体的に活動するように努めたか。		
43	クラブ・委員会活動では、児童の意欲を高め、楽しく活動できるよう指導に努めたか。		

生徒指導の充実		評価	意見等
44	進んであいさつをする指導の充実は図れたか。		
45	掃除時間の指導の充実は図れたか。		
46	時間を守る指導の充実が図れたか。		
47	いじめ・不登校・問題行動等の予防に努めたか。		
48	いじめ・不登校・問題行動等への対応は速やかに行えたか。		
49	「心のなやみアンケート」の結果をふまえ、個に応じた教育相談を充実させることに努めたか。		
50	児童についての共通理解は図れたか。		
51	交通安全指導の充実は図れたか。		
52	地域や関係機関との連携は図れたか。		
人権教育の推進			
53	人権に関する問題を正しく理解させ、人権感覚を高める指導に努めたか。		
54	自他の生命や人格を尊重し、みんなと協力してともに伸びていく児童の育成に努めたか。		
55	保護者や地域へのはたらきかけに努めたか。		

H 健康教育の充実

体育学習の充実			
56	運動量を確保し、めあてをもって学習する指導に努めたか。(教科)		
57	児童が主体的に運動に親しむようにはたらきかけたか。		
保健指導の充実			
58	自分の体を知り、健康の自己管理能力が育つよう、保健目標を意識して指導したか。		
59	学校保健委員会の活動や家庭への配布物等を通して保健指導の充実が図れたか。		
性教育の推進			
60	性教育の実践に努めたか。		
給食指導の充実			
61	栄養・偏食・マナー等、食に関する指導の充実が図れたか。		

I その他

--

評価...次の基準によって、評価欄に4, 3, 2, 1を記入する。

- 4...おおむね達成できている。
- 3...具体的な活動がなされており、成果もあらわれてきている。
- 2...具体的な活動がなされているが、成果が出てきていない。
- 1...具体的な活動がなされておらず、成果も出ていない。

数字にアンダーラインがついているものは個人の取組みを考える。

学校生活について

()年()組 名前()

みなさんが通うこの長府小学校をよりよくしていくために、このアンケートを行います。成績には関係ありません。思ったことを正直に書いてください。

	<p style="text-align: center;">質 問</p> <p>そうだと思うところにをつけてください。 1・2年生は数字の黒いものと最後の の質問に答えましょう。 3年生以上は表裏すべてやりましょう。</p>	はい	まあまあ	あまり	いいえ
1	学校に行くのが楽しい。				
2	勉強がわかる。				
3	友達と遊ぶのが楽しい。				
4	先生や友達によくあいさつをしている。				
5	掃除はだまっていっしょうけんめいしている。				
6	学校のきまりや約束ごとをよく守っている。				
7	休み時間は、外でよく遊んでいる。				
8	給食をすききらいなく食べるようにしている。				
9	運動会は楽しい。				
10	学芸会は楽しい。				
11	集会は楽しい。				
12	人の前で自分の考えをよく発表している。				
13	授業中、先生や友達の話をしっかり聞いている。				
14	学校や教室をきれいにしている。				
15	総合的な学習の時間は楽しく自分のためになっている。				
16	こまった時、保健室や教育相談室の先生に相談することができる。				

	質 問	はい	まあまあ	あまり	いいえ
17	ひと への 思いやりや 命 の 大切 さ について よく 学 んでいる。				
18	がっこう で 火事 や 地震 が 起きた 時、 どうしたら よいか 知っている。				
19	あんぜん に 注意 して 登下校 している。				
20	としょしつ や コンピュータ 室 を よく 利用 している。				
21	よりよい 学 級 するため 学 級 の 問題 など について みんな で よく 話し合 っている。				
22	ちやうふしやう の みんな は、 よく あいさつ を している。				
23	せんせい は わかり やすく 教えて くれる。				
24	せんせい は わたしたち の 話 を 聞いて くれる。				
25	せんせい は じぶん が がんばった こと を ほめて くれる。				
26	せんせい は、 いじめ など の 問題 に 真剣 に 取り組んで くれる。				
27	たん にん の せんせい 以外 にも 相談 できる せんせい が いる。				
28	「あゆみ」 に つけて ある ことは、 大体 そうだ と思う。				
29	としょしつ には 読みたい 本 が いっぱい ある。				
30	がっこう の 遊具 や 道具 は、 安全 で すぐ 使える。				

がっこう や せんせい の こと について、「もっと ~ ~ ~ だったら いいなあ。」 と思う ことが あったら 書 きましょう。

記入者()

診 断 内 容	評 定
<長府小教育のめざすもの>	
1 「正しく」「やさしく」「たくましく」は、長府小の校訓であることを知っている。	
2 学校はチャレンジ目標を達成するために、具体的手だてを講じて努力している。	
<学校経営>	
3 学校は、地域の人材や施設などを生かした特色ある教育活動を行っている。	
4 学校は、保護者・地域の願いを受け止める努力をしている。	
5 学校は、保護者・地域の願いに沿った教育を展開している。	
6 学校は、家庭への連絡を積極的に、きめ細かく行っている。	
7 学校は、保護者が授業を参観する機会をよく設けている。	
8 学校が保護者に出す文書・連絡等は、有効・適切である。	
9 学校では、保護者や地域の人々と話をする機会を多くもっている。	
10 先生は、P T A 活動に積極的に参加している。	
11 先生は、保護者や地域住民に誠意をもって接している。	
12 学習の内容や子どもの様子を、懇談や学年(学級)通信などでよく知ることができる。	
13 学校の教職員は責任と使命を自覚し、協力して学校教育に取り組んでいる。	
<学習指導・評価>	
14 子どもは、授業が楽しいと言っている。	
15 学校は、子どもに基礎的な学力が身に付く指導を行っている。	
16 学校は、「総合的な学習」(環境・福祉・国際理解等)の教育を積極的に進めている。	
17 先生は、子どもの能力や努力を適切・公平に評価している。	
18 学校は、全教育活動を通して、優しさや思いやりのある子どもを育てようとしている。	
19 運動会は、子どもたちにとって価値ある活動になっている。	
20 学芸会は、子どもたちにとって価値ある活動になっている。	
21 学校は、学年段階に応じて命の大切さや人権を尊重する意識を育てようとしている。	
22 学校は少人数指導や教科担任制などを実施し個に応じた指導で学力向上を図っている。	

チャレンジ目標...「いつでも どこでも お先にあいさつ」・「考えながら 聞く 話す」
「だまって 静かに 仲よく掃除」

<生徒指導・教育相談>	
23	学校は、社会におけるマナーやルールを守る態度を育てようとしている。
24	学校は、いじめのない学級づくりに取り組んでいる。
25	子どもは、先生や友達と好ましいかわりができている。
26	先生は、子どものことについて適切に相談に応じてくれる。
27	先生は、子どものまちがった行動を厳しく指導してくれる。
28	先生は、子どものよさや気持ちをよく理解してくれている。
<保健・体育指導>	
29	学校は、たくましい子どもに育つよう体力づくりの指導をしている。
30	学校は、健康・体力の保持増進について子どもたちを指導している。
31	学校は、食に関する指導を積極的に導入し、子どもたちの食生活の改善に努めている。
<教育環境・危機管理・安全対策>	
32	地震や火災等の場合、子どもに避難の仕方が知らされている。
33	学校は、不審者の侵入防止及び早期発見のための対策を整えている。
34	学校の施設・設備は、よく整備されていて、有効に活用されている。
35	学校は、事故防止に心がけ、適切な配慮をしている。
36	学校は自分たちの学校を誇りに思い、進んで清掃や作業に取り組む子どもを育てている。

学校教育活動をよりよいものにするために、高い評価の理由や低い評価の理由・改善意見をできるだけお書きください。その際、番号を書いてからお書きください。

ご協力ありがとうございました。

このアンケートは入っていた封筒に入れ、のり付けして、お子さんに持たせ、担任の先生に提出してください。なお、整理の都合上、1月31日(月曜日)までにお願致します。

(2) 年度途中における評価

ア 教職員、児童、保護者や地域住民による評価

小串小学校では、学校評価等年間計画（P.20）に基づいて計画的に学校評価を実施しているが、学校評価委員会・学校評価会議で検討された「小串小教育のふりかえり」アンケートを教職員だけでなく、児童や保護者、学校評議員、地域指導者（地域住民）による外部評価も併せて、1学期末、2学期末に2回実施している。（P.21～25参照）

これまでは、年度末の3学期に行っていたが、次年度への改善・更新について教職員が共通理解を図りながら次年度の教育課程の方針決定を十分に行うことが出来なかった。しかし、年度途中に2回評価を行うことで次のような利点が見えてきた。

長期休業前にアンケートを行うため、結果を分析し、改善・更新策を検討する時間を十分にもつことが出来る。

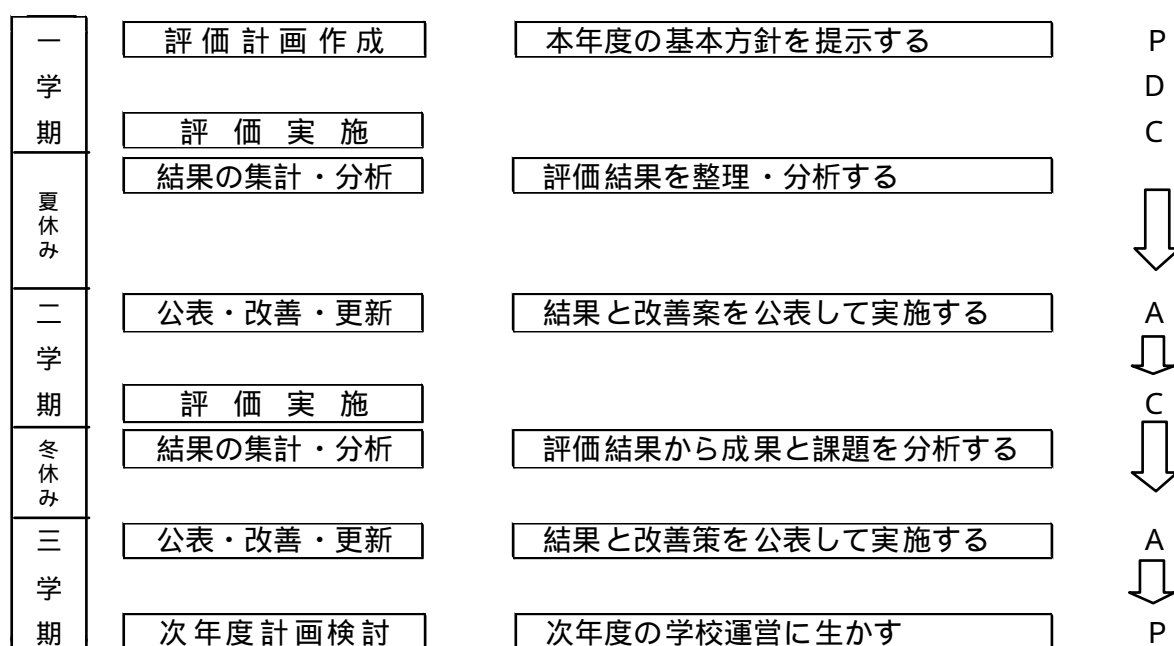
アンケート結果を基にして、学校評価委員会や学校評価会議において今後の教育活動に生かすための改善・更新意見について検討し、教職員が共通理解を図ることができる。

年度末における評価でなく、1学期末・2学期末という短いスパンで行うことによって、変容を見ながら保護者や地域住民が評価することができる。そのため、外部評価を生かした改善・更新が行いやすい。

保護者や学校評議員、地域住民に対して、評価結果の公表内容について十分検討した後に公表することができ、学校評価に対する信頼が増してきた。外部評価が学校運営に生かされていることを伝えることは、保護者や地域住民が学校運営に参画しているという意識が高まる。そして、「子どもが通っている学校」から「自分たちの地域の学校」へと学校に対する意識が変わってきた。

教職員は、2回のふりかえりを踏まえて次年度の学校運営や教育課程の編成に生かすための検討時間を3学期に十分もつことができる。

【小串小学校における学校評価の流れ】



学期	月	内部評価活動	担当	外部評価活動	担当
1	4	委 組織立ち上げ 委 評価項目・評価計画作成	校長 評委		
	5	教 学級経営案作成 児 教育相談アンケート	担任 担任	評 学校評議員会	校長
	6	児 ふりかえりカード 分析 検討	教頭	保 地「小串小教育ふりかえり」 分析	教頭
	7	教 「小串小教育ふりかえり」 分析 検討	評議 教頭	検討 広報	評議 教頭
	8	教 学級経営自己評価&更新	担任		
	9				
	10	児 教育相談アンケート	担任	保 人権教育授業参観アンケート	担当
	11	児 ふりかえりカード 分析 検討	教頭	評 学校評議員会	校長
	12	教 「小串小教育ふりかえり」 分析 検討	評議 教頭	保 地「小串小教育ふりかえり」 分析 検討 広報	教頭 評議 教頭
	1	教 学級経営自己評価&更新 教 小串小教育の反省	担任 教務		
	2	児 教育相談アンケート	担任	評 学校評議員会	校長
	3	教 学級経営自己評価&まとめ 委 外部評価項目の検討	担任 評委		
毎月		教 安全・衛生点検&対応	職員	自 教育モニター & 対応 & 広報	教頭

内部評価活動 委 評価委員会 教 教職員 児 児童
 外部評価活動 評 学校評議員会 保 保護者 地 地域指導者 自 自治会
 担 当 「評委」……評価委員会 「評議」……評価会議

1学期「小串小教育のふりかえり」のお願い

梅雨の候、保護者の皆様にはますますご健勝のことと拝察いたします。平素から、本校教育の推進につきましてご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、保護者の皆様に教育活動に関するアンケートをお願いしたいと思います。皆様のご意見ご感想をもとに、小串小教育の一層の充実を図りたいと考えておりますのでご協力ください。

A = あてはまる B = おおむねあてはまる C = どちらかといえばあてはまらない
D = あてはまらない = よくわからない (該当する記号に をつけてください。)

氏名()

家庭・地域での児童のようす	心の豊かな子	
	元気よく自分からあいさつをする。	A B C D
	登校班の集合時刻に間に合うように自分で支度をして家を出る。	A B C D
	仲のよい友だちがいる。	A B C D
	進んで学ぶ子	
	進んで家庭学習に取り組んでいる。	A B C D
	進んで読書をする。	A B C D
	進んでお手伝いをする。	A B C D
	体の丈夫な子	
	朝、自分で起きる。	A B C D
	朝ご飯を食べて登校する。	A B C D
	帰宅後や休日には、外で元気に遊んでいる。	A B C D
	朝夕、歯みがきをする。	A B C D
	学校の取り組み	家庭・地域との連携
教育方針や子どもの様子が学校・学級だよりや参観日等で分かる。		A B C D
緊急時や問題発生時の対応はよい。		A B C D
学校は、保護者の思いを聞く機会を設けている。		A B C D
学校は、子どものことについて気軽に相談できる。		A B C D
教育活動		
学校はいじめや不登校のない楽しい学級づくりに努めている。		A B C D
学校は楽しくわかる授業づくりに努めている。		A B C D
学習したことが身に付いている。		A B C D
学校は相談に適切に応じ、子どもの理解に努めている。		A B C D
学校は安全・快適な環境づくりに努力している。	A B C D	
学校は保護者が授業を参観する機会を適切に設けている。	A B C D	
21 学校は育友会活動に協力的である。	A B C D	

本校の教育活動や施設・設備などについてのご感想・ご意見を自由にお書きください。

1学期「小串小教育のふりかえり」のお願い

梅雨の候、地域指導者の皆様には、ますますご健勝のことと拝察いたします。平素から、本校教育の推進にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本校では、地域指導者の皆様のご意見・ご感想をもとに、小串小教育の一層の充実を図りたいと考えております。つきましては、ご多用の折とは存じますが、下記アンケートの記入につきましてご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、各自治会長様へのアンケートのお願いにつきましては、連合自治会長様にご了解を得ておりますことを申し添えます。

A = あてはまる B = おおむねあてはまる C = どちらかといえばあてはまらない
D = あてはまらない = よくわからない (該当する記号に をつけてください。)

地域での子どものようす	朝は登校班できちんと登校している。	A B C D
	地域の人に自分から元気よくあいさつをする。	A B C D
	安全に気を付けて下校している。	A B C D
	外で元気に遊んでいる。	A B C D
	安全な自転車の乗り方をしている。	A B C D
	危険な遊びをしていない。	A B C D
	公共のマナーを守って生活している。	A B C D
	進んで地域の行事に参加している。	A B C D
学校の取り組み	学校の教育方針や学習の様子が学校だより等で分かる。	A B C D
	地域との連絡や相談などを適切に行っている。	A B C D
	緊急時の対応について地域と連携が図れる体制ができています。	A B C D
	地域の活動や行事に対する学校の協力体制はよい。	A B C D
	学校の施設・設備などの教育環境は整っている。	A B C D
	授業参観や授業への協力など出かけやすい学校になっている。	A B C D
	電話や来校時の教職員の対応はよい。	A B C D

本校の教育活動、施設・設備などについてのご感想・ご意見を自由にお書きください。

氏名()

返信につきましては、近くの子どもにことづけられるか、FAXで結構です。

小串小学校ふりかえりカード

年 名まえ

1	いま、 ^{がっこう} 学校はたのしいですか。	とても楽しい 楽しい あまり楽しくない 楽しくない
2	^{がくしゅう} 学 ^{べんきょう} 習(勉強)はわかりますか。	よくわかる わかる あまりわからない わからない
3	なかよしの ^{とも} 友だちがいますか。	たくさんいる いる あまりいない いない
4	せんせいと ^{はなし} 話をしますか。	よくする する あまりしない しない
5	せんせいは自分たちのことをわかって ^{じぶん} くれているとおもいますか。	よくわかっている わかっている あまりわかっていない わかっていない
6	すきな ^{がくしゅう} 学 ^{じぶん} 習はなんですか。	こくご しゃかい さんすう りか せいかつ おんがく ずこう かてい たいいく どうとく ふれあい学習
7	^{じぶん} 自分から ^{げんき} 元気よくあいさつをしますか。	いつもする たいいてする あまりしない しない
8	そうじをがんばっていますか。	とてもがんばっている がんばっている あまりがんばっていない がんばっていない
9	「 ^{はし} 走ろう ^{うんどう} 運動」をがんばっていますか。	とてもがんばっている がんばっている あまりがんばっていない がんばっていない
10	せんせい、 ^{とも} 友だちの ^{はなし} 話を ^き 聞いていますか。	よくきいている きいている あまりきいていない きいていない
11	すすんで ^{はっぴょう} 発表していますか。	よくする する あまりしない しない
12	おうちの ^{ひと} 人と ^{がっこう} 学校のことはなしますか。	よくする する あまりしない しない
13	おうちでどれくらい ^{がくしゅう} 学 ^{じぶん} 習しますか。	()ほとんどしない () 10ふん () 20ふん () 30ふん () 40ふん () 50ふん () 60ふん () 60ふんいじょう
14	^{あさ} 朝の ^{どくしょ} 読書で ^{ほん} しっかり ^よ 本を読んでいますか。	しっかりよんでいる よんでいる あまりよまない よまない

平成16年度小串小教育ふりかえりカード

氏名()

A = あてはまる	B = おおむねあてはまる
C = どちらかといえばあてはまらない	D = あてはまらない

1 学級経営目標の設定と学級づくり	
学級経営目標や取組みは、具体的で評価できる内容になっている。	A B C D
人権尊重を基本においた学級経営・教育活動ができています。	A B C D
P D C A のマネジメントサイクルで学級経営に取り組んでいる。	A B C D
教室環境の整備に努めている。	A B C D
特別な配慮を要する児童について、協働して指導に当たっている。	A B C D
いじめや不登校のない学級づくりをめざした取組みができています。	A B C D
学級だよりで、学級の経営方針や児童の様子を保護者に知らせています。	A B C D
保護者の思いや願いを把握する努力をしています。	A B C D
2 授業・教育活動など具体的な指導	
少人数などによるきめ細かな指導に努め、基礎基本の定着を進めている。	A B C D
基礎・基本を明確にして、指導に取り組んでいる。	A B C D
評価規準を明確にして、指導に取り組んでいる。	A B C D
ノート指導などの学習規律・習慣を継続的に指導している。	A B C D
操作活動等の時間を確保し、具体的に考えさせる授業に努めた。	A B C D
意見交換の場を確保し、考えを磨きあう授業を進めている。	A B C D
道徳の授業時数を確保している。	A B C D
コンピュータを活用した授業に取り組んでいる。	A B C D
各教科の時数や進度の自己管理に努めている。	A B C D
ふれあい学習は、培いたい力を明らかにして取り組んでいる。	A B C D
地域の人材や素材を活用した授業を取り入れている。	A B C D
指導計画に基づいて、教材教具を適切に整備・管理・活用している。	A B C D
朝の読書活動は子どもとともに取り組んでいる。	A B C D
3 生徒指導	
子どものよいところを見つけ、ほめている。	A B C D
日々の掃除時間には、子どもとともに活動している。	A B C D
子どもの不安や悩みを理解し、個に応じた指導に取り組んでいる。	A B C D
トラブルを見逃さず、積極的に解決する努力をしています。	A B C D
問題が起こったとき、相談をし、全校体制で取り組んでいる。	A B C D
児童の身体の異状を見逃さないために、日頃から気を付けている。	A B C D
体育や清掃指導後など道具の後始末のみかじめを行っている。	A B C D

4 協働体制・危機管理	
協働のために「報告、連絡、相談」を心がけている。	A B C D
職員会議や職員研修で自分の考えや意見を積極的に述べている。	A B C D
会議は、能率的・建設的に進められている。	A B C D
教職員の相互理解や信頼関係が深まるように努力している。	A B C D
全校で取り組むことには積極的に協力し活動している。	A B C D
危機管理意識を常にもち、緊急時に対応できる体制ができている。	A B C D

5 校内研修	
研修課題を学年の実態に即して具体化して取り組んでいる。	A B C D
参加した研修会の成果を教職員に復伝している。	A B C D

6 服務・規律	
服務規律を遵守するようにしている。	A B C D
教育公務員として自覚ある生活をしている。	A B C D
保護者や地域の方との信頼関係を築く接し方・係わり方に努めている。	A B C D

7 学校運営	
校長は、学校運営についての考えを明らかにしている。	A B C D
学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。	A B C D
教育計画は整備されている。	A B C D
教職員の適性や能力に応じた校務分掌の分担がなされている。	A B C D
教職員の意見を聞き、教育環境の整備に努めている。	A B C D
適切な予算執行ができている。	A B C D

<p>小串小教育の充実・発展にむけて改善点や意見がありましたら記入してください。</p>
--

イ 学級経営案による評価

今年度から、吉田小学校では、学級経営のより一層の充実を図るため、学級経営案に各学期ごとの評価と改善点を明記するようにした。

【学級経営案】

下関市立吉田小学校

目標

教育目標	人間尊重の精神を基盤に、人間性豊かで、自ら学ぶ意欲をもち、未来社会にたくましく対応できる力をもった児童を育成する。		
	よく考え勉強にはげむ子【自主・創造】	しっかりした心と体をつくる子【健康・清純】	だれとでも仲よく助け合う子【協力・責任】
めざす児童像	<ul style="list-style-type: none"> ・話をしっかり聞きとる子。 ・考えや思いをはっきり表現する子。 ・ねばり強く取り組む子。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで運動し、安全に気をつける子。 ・進んで働く子。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人のよさを見つけ、認めることができる子。 ・思いやりをもち、助け合う子。 ・元気よく明るくあいさつができる子。
学年・学級目標・経営方針	<p>【記入例】</p> <p>自ら課題を見つけ、進んで問題を解決しようとする子どもの育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が受け身になって授業に取り組むのではなく、児童が主体性をもって取り組み、自分の考えを発表する。 ・友だちの意見を理解し、自分の考えと対比しながら話すことができる。 		
1学期末評価改善	2	【記入例】	
2学期末評価改善			
3学期末評価改善			

評価... 3 = 成果あり、指導継続 2 = 成果が見えそう、指導継続 1 = 成果なし、改善策必要

努力点		1 学期	2 学期	3 学期			
努力項目（具体的方策）		評価	改善点	評価	改善点	評価	次年度に
学 力 科 等	基礎 基本 ・ 発展 的な 学習 各 教 科 等	【記入例】 ・ 児童が受け身になる授業をするのではなく、児童が主体性をもって取り組めるよう留意していきたい。 ・ 基礎的、基本的な内容は、子どもたちの主の力になるものなので大切に扱いたい。 ・ 授業の中に、絶えず子どもたちの意識を留めさせるために、キーワードを作り、その解明に向かっての取り組みを重視していきたいと思う。	2 【記入例】 ・ 課題研修のテーマになっている発表に関して言うと、四、五人の児童が中心になっているので、もっと児童の主体性を重視した指導をしていきたい。				
心 の 教 育 等	道徳 ・ 生徒 指導 ・ 人権 教育 等						
健 康 教 育 等	体育 ・ 健康 安全 ・ 給食 等						

評価... 3 = 成果あり、指導継続 2 = 成果が見えそう、指導継続 1 = 成果なし。改善策必要

ウ 児童による授業評価

これまで、教員同士による授業研究で、授業技術や研究テーマに基づいた研究をするなど、授業者である教師が授業を評価し、指導に生かしていた。

しかし、学校運営や学級経営の改善を図っていくために、授業の主体者である児童に意見を聞くことはとても重要である。これまで、教師の視点から見るが多かった授業を児童の視点からとらえ、分析し、改善していくことは極めて有効な教育的効果をもたらすと考えられる。(P.29参照)

授業評価を行う際、児童によって、あるいは教師によって、項目のとらえ方が異なると、的確な授業評価とならないことから、授業評価説明用プリント等を準備して共通理解を図ることが大切である。

授業評価によるメリット

自分の授業を分析的に見るようになる。

今まで以上に、児童一人ひとりを大切にしたい授業をしようとする姿勢がうかがえるようになる。

教師と児童との思いのギャップを明確にすることができる。

問題点や課題をはっきりさせ、それに対して具体的方策を立てて改善しようとする意欲と実践が見られるようになる。

個別指導や教育相談の必要性を感じ、対応していくことにより児童理解が深まる。

エ 来校者による評価

年度末の評価は1年という長いスパンで評価していくわけであるが、時期的なことや緊急性を考えると、常日頃から、意見を求める体制づくりが大切だと思われる。そのため的手段として、保護者等が参観日や行事などで来校した際に、その時点での評価や意見を書いていただくようにしている。(P.30参照)

また、学校に初めて来られた方や地域・一般の方にも学校の評価や意見を書いていただくように、玄関に「来校者アンケート用紙」(P.29参照)を置いて、いつでも記入可能な状態にしている。初めて来られた方の客観的な目で、教職員の対応やあいさつの様子や学校環境の様子など、改善意見だけでなく、学校のよい面も明確になり、教職員の自信に結びつくものとなっている。

これらの意見は、学校評価を即座に改善に結びつけたり、年度末の懸案事項として保留にしておき、来年度の検討をする際に生かしたりしている。

このように、日常的に学校が外部に意見を求めることは、開かれた学校を外部の方々に印象づけることにもとても役立っている。



< 三世代交流 門松づくり(長府小学校) >

たのしく学習をすすめるために（１，２年生）

年 組（ ）

	質問（そうだと思うところに をつけてください）	はい	まあまあ	あまり	いいえ
1	先生の声はよく聞き取れる。				
2	先生の黒板の字は、ていねいで読みやすい。				
3	授業は楽しい。				
4	先生はわかりやすく教えてくれる。				
5	授業では、話し合ったり、考えたり、作ったりすることがある。				
6	先生は、授業がきちんとできるようにルールを守らせている。				
7	先生は、授業中、私たちの意見をよく聞いてくれる。				
8	先生は、書いたものや作ったものをきちんと見てくれる。				
9	授業でわからないことは、先生に聞きやすい。				
10	先生は、学習でがんばったことをほめてくれる。				

月 日

アンケート

（あてはまるところに をつけてください）

保護者 来客者 業者 教員 その他

長府小によくそいちゃいました。よりよい学校づくりの参考にしたいと思いますので、お気づきの範囲内で結構ですので、下記のアンケートにご協力ください。

- （ア）～（エ）のうち、あてはまるものに をつけてください。
 - ・子どもたちはあいさつができましたか。
 - （ア）よくした （イ）まあまあ （ウ）あまりしていない （エ）していない
 - ・教職員の対応は適切でしたか。
 - （ア）よい （イ）まあまあ （ウ）あまりよくない （エ）よくない
 - ・学校環境は美しく整備されていましたか。
 - （ア）よい （イ）まあまあ （ウ）あまりよくない （エ）よくない
- お気付きの点があれば遠慮なくお書きください。
 - ・子どもについて ・教職員について ・学校環境について ・その他

- ・いつも長府小学校教育へのご理解・ご協力ありがとうございます。
- ・よりよい学校づくりの参考にさせていただきたいと思います。
- ・お気付きの範囲内で結構ですので、アンケートにご協力ください。

ア ン ケ ー ト

年 組 お名前()

学級について

これまでの参観日や子どもさんとの会話などから、お気付きの点がありましたら遠慮なくお書きください。(授業・子ども間の人間関係・学級の雰囲気など)

(裏面)

学校全体について

- 1 (ア)～(エ)のうち、あてはまるものに をつけてください。
 - ・子どもたちはあいさつをしていますか。
(ア)よくしている (イ)まあまあ (ウ)あまりしていない (エ)していない
 - ・教職員の対応はいかがですか。
(ア)よい (イ)まあまあ (ウ)あまりよくない (エ)よくない
 - ・学校環境は、美しく整備されていると思いますか。
(ア)よい (イ)まあまあ (ウ)あまりよくない (エ)よくない
- 2 お気付きの点があれば、遠慮なくお書きください。
 - ・子どもについて
 - ・教職員について
 - ・学校環境について
 - ・そ の 他

ご協力ありがとうございました。

4 評価基準の設定

(1) 教育活動の的確な評価

学校評価をより客観的に、信頼性を高めていくには、それぞれの評価項目についての評価基準を明確にしておく必要がある。長府小学校では、保護者・地域用評価表では下に示したような4段階の評価基準を用いている。

記入にあたって

この評価は、保護者や地域の方々に学校の教育活動や組織について評価していただき、学校改善のための資料とし、子どもたちの学校生活を生き生きとした楽しいものにするために実施するものです。

それぞれの設問の内容について、以下の基準で評価欄に4, 3, 2, 1を記入してください。

- 4 ... よくあてはまる
- 3 ... ややあてはまる
- 2 ... あまりあてはまらない
- 1 ... まったくあてはまらない

授業参観や学校行事等で来校されたときの様子や学校からの配布物、お子さんから聞かれていることなどをもとに記入してください。

また、判断できない(わからない)場合は、?をお書きください。

また、児童用の授業評価を実施する際には、評価の条件を統一しておく必要があり、各項目に応じた教師用の説明プリントを準備し、同じ条件のもとで評価できるように工夫している。

【「授業評価」説明用プリント(教師用)】

下関市立長府小学校

「授業評価」説明用プリント(1, 2年用)

No.	教師の説明
1	先生の言葉は、はっきりしていて、声の大きさや話す速さもちょうど良くてしっかり聞くことができる。
2	先生の黒板の文字は、ていねいで読みやすい。
3	先生の授業は「どんな学習をするのだろう、早くやりたいなあ」と感じる事が多く「できるようになった、わかった」ということがよくあり、授業が楽しい。
4	先生はわかりやすく教えてくれる。(指導技術面)
5	授業では、話し合ったり、考えたり、作ったりすることがある。
6	先生は授業がきちんとできるように、学級みんなにルールを守らせている。
7	先生は授業中、私たちの質問や意見をよく聞いてくれている。(子どもの意見をよく聞こうとしている)
8	先生は、書いたものや作った物をきちんと見てくれている。
9	授業中、分からないことがあったときでも、先生にすぐにきくことができる。(教師のもつ雰囲気など)
10	先生は学習でがんばったことをほめてくれる

チャレンジ目標の実態調査を実施した際には、より詳細な行動目標が必要となり、下記の表のような評価基準を設定し、実態把握に努めた。

<あいさつ>	人数
A：いつでも、だれにも、自分から積極的にあいさつができる。	名
B：決められたあいさつはできるが十分でない場合がある。	名
C：促されないと、自分からあいさつができない。	名
<そうじ>	人数
A：自ら進んで、黙って最後まで掃除をすることができる。	名
B：教師の指導のもとでは、黙って掃除をすることができる。	名
C：ほとんどの場合、やる気が見られず、むだ話も多い。	名

(2) 具体的数値目標

目標の達成状況を診断・分析する参考として、具体的な数値目標を設定しておくことは大変重要であり、評価を実施するまでに教職員でしっかり協議しておく必要があると考える。

4段階の評価を実施した場合、80%以上を達成ラインと考えて、平均数値を3.2と設定し、その数値を下回る項目について、昨年の数値と比較しながら達成できたか否かを判断するようにしている。数値のみで一喜一憂するのではなく、記述意見等も参考にしながら総合的に判断することが大切である。

平成15年度 学校教育活動の評価と反省（教職員用） 集計結果

下関市立長府小学校

学校運営

A 教育目標

共通理解・共同実践		年度	平均	4	3	2	1	回答
1	学校教育目標の共通理解は図れているか。	14	3.3	・	・	・	・	・
		15	3.3	10	21	0	0	31
2	努力点達成のための取組を実践しているか。	14	3.0	・	・	・	・	・
		15	3.1	4	27	0	0	31
3	全体計画・年間計画に基づいた実践ができていますか。	14	2.9	・	・	・	・	・
		15	3.1	4	29	0	0	33
4	教育活動全体に渡って評価を行い、次年度に生かし改善するようになっているか。	14	2.8	・	・	・	・	・
		15	3.3	13	18	1	0	32

B 指導体制

組織づくり		年度	平均	4	3	2	1	回答
5	努力点達成をめざす分掌組織になっているか。	14	3.0	・	・	・	・	・
		15	3.2	5	26	0	0	31
6	学年・学級相互の連絡が円滑で、学校全体として意欲や力を発揮できる組織になっているか。	14	3.1	・	・	・	・	・
		15	3.4	12	20	0	0	32
7	職員会議で話し合われたことが教育活動や学校運営に生かされているか。	14	3.1	・	・	・	・	・
		15	3.3	11	21	0	0	32
8	分掌ごとの話し合いができており、組織が機能しているか。	14	3.2	・	・	・	・	・
		15	3.3	9	23	0	0	32
危機管理体制								
9	安全点検は計画的に実施し、行き届いた改善がなされているか。	14	3.2	・	・	・	・	・
		15	3.6	20	15	0	0	35
10	事件・災害・生徒指導に対し、全教職員が意思統一を図り、適切な対応ができていますか。	14	2.7	・	・	・	・	・
		15	3.1	7	23	3	0	33

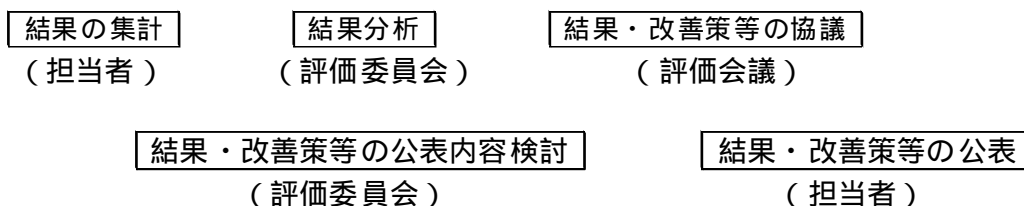
5 評価結果の公表

(1) 評価結果の公表に向けて

小串小学校では、1学期末及び2学期末に教職員によるふりかえりと児童、保護者、地域住民による外部評価を行い、その結果を学校評価委員会で分析・検討し、教職員全員による学校評価会議において、評価結果を生かした今後の改善策について話し合っている。

学校評価年間計画にも公表の時期を明記して、評価結果について保護者や地域住民に公表しており、アンケートに回答してもらっただけでなく、結果を返すことなどにより、情報が共有できるよう工夫している。

ア 公表に関する流れ



イ 評価委員会・評価会議の役割

- ・ 外部評価の結果を真摯に受け止め、今後の学校教育の中に生かす方向性を探る。
- ・ 改善できること、すぐに実行できること等について全教職員が共通理解を図る。
- ・ 評価結果について十分吟味し、学校としての信用を失うことがないよう教職員の意識を高める場とする。
- ・ 課題となる観点については改善する方向や内容を検討し、行動計画を作る。

ウ 公表の場

- ・ アンケート結果の配布（保護者、地域指導者等）
- ・ 学校だより（校区内の全世帯）
- ・ 学級だより
- ・ 学級懇談会（懇談の資料）
- ・ P T A 総会（学校経営方針の説明）
- ・ 学校評議員会

(2) 公表の内容

公表に当たっては、アンケートの結果だけではなく、評価することの意義、改善の視点や方向性、教育活動への導入の在り方についても明確に示すことが重要である。

まず、なぜ、学校が外部評価を求めているのか、それが今後の教育活動にどのように生かされようとしているのかを明記して公表することで、次回の外部評価にも生かされていくことになる。

そして、外部評価によって見えてきた課題に対して、学校がどのように対応するのが分かる内容であることが重要である。

また、評価結果の公表は、グラフ化して整理することが望ましい。グラフ化することで評価結果が視覚的に捉えやすくなり、また、前回の結果との比較も容易になってくる。

さらに、自由記述についても項目ごとにまとめ、保護者や地域の方々がどのような考えをもっているのかを分かりやすく表現するように努めている。ただし、児童や保護者、地域の方々のプライバシーに関する部分については配慮が必要である。

【学校だよりによる公表】

豊浦町立小串小学校

「小串小ふりかえり」より

1学期に小串小学校の教育活動についてふりかえりをお願いしました。地域の指導者・保護者の皆様、そして、児童・教職員と小串小学校にかかわるたくさんの方にアンケートに答えていただきました。



このアンケートは、今後の小串小学校の教育活動をよりよいものにしていくためのものです。ふりかえりの意見は校内の学校評価会議において検討し、できることから改善・更新していきます。

- *あいさつについては今後も自分から元気にあいさつができるよう、みんなで声をかけていきます。
- *朝の読書時間が始まり、読書ボランティアの方々の読み聞かせもあって、子どもたちの読書量が徐々に増えてきています。学校・家庭それぞれでじっくり読書する時間を作っていきましょう。
- *安全な自転車の乗り方については、まず11月30日に自転車教室を開催します。その後は子どもたちの様子を見ながら継続的に指導を行っていきます。
- *自分から進んで学習したり、お手伝いをしたりできるように、家庭と学校とが連絡を取り合いながら進めていきます。
- *施設面の整備については、取りかかれることから始めています。町教育委員会への要望も続けて行っています。
- *校門付近の穴やハゼの木は、先日の育友会奉仕作業の際に処理していただきました。

子どもたちのために今後もよりよい方向で教育活動が行われるよう、さらに努めてまいります。11月には2回目のふりかえりを予定にしておりますので、また貴重なご意見をいただきますようお願いいたします。

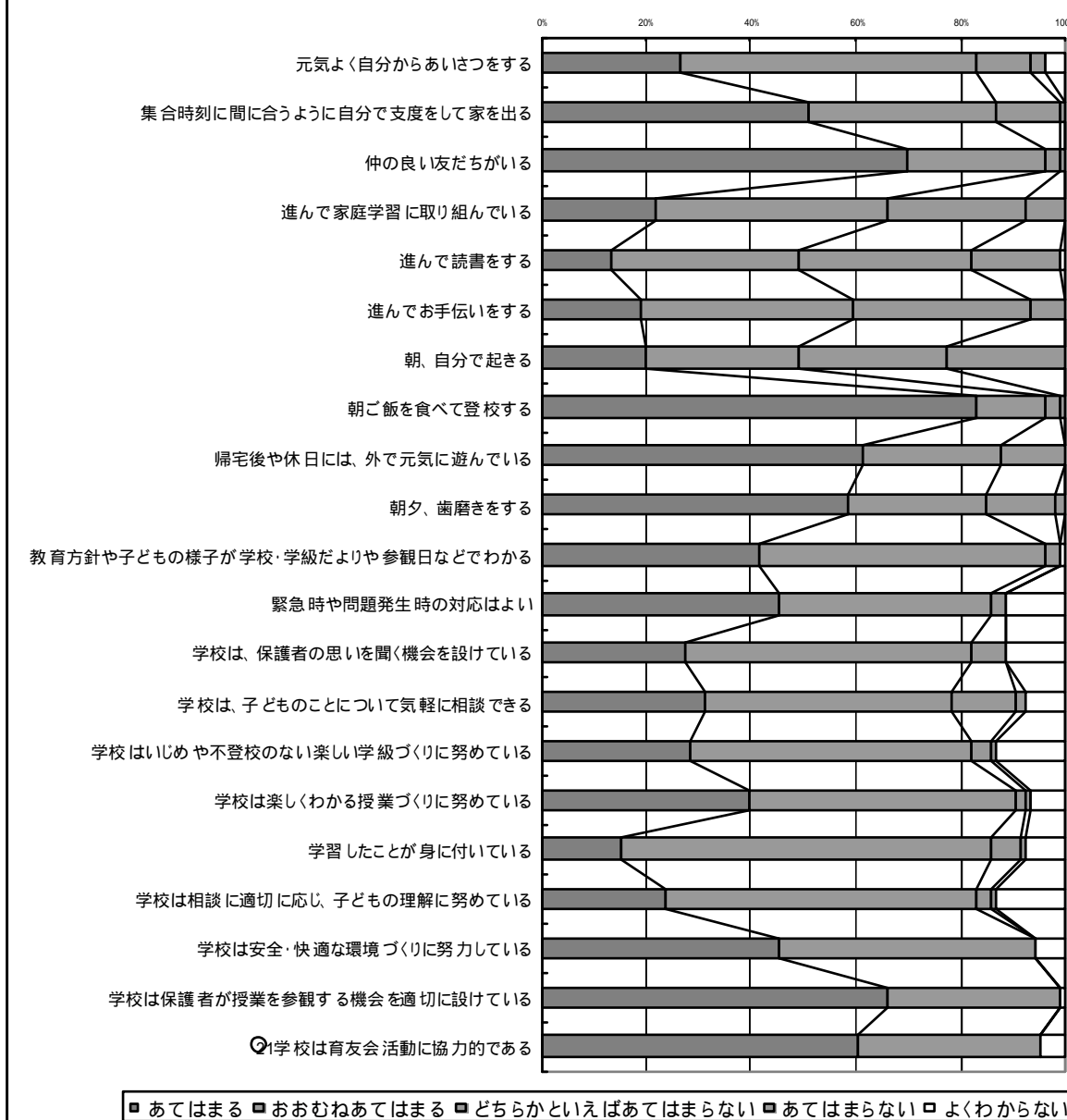
1学期の小串小教育のふりかえりの結果について

中秋の候、保護者の皆様には、ますますご健勝のことと拝察いたします。平素から、本校教育の推進にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、1学期の小串小教育のふりかえりのアンケートにつきましては、ご多用中にもかかわらずご協力いただきましてありがとうございました。皆様からいただきましたご意見を集約いたしましたので、お知らせいたします。

保護者の皆様からいただきました貴重なご意見・ご感想をもとに、小串小教育の一層の充実を図ってまいります。今後ともご協力のほどよろしく願いいたします。

保護者によるふりかえり



小串小学校 年1組 学級通信 NO.53
サン・SUN・輝け！ 年生
 2004年3月11日

学級懇談会要項

1 担任から

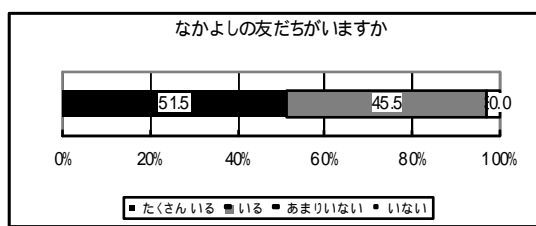
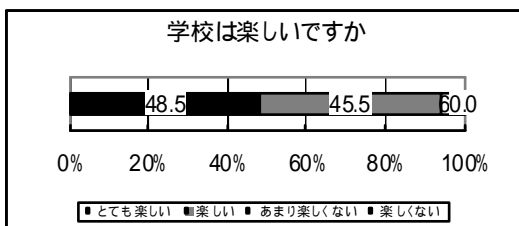
(1) 1年間のお礼

(2) 最近の様子から

- ・生活面(資料1参照)
- ・健康面(資料2参照)
- ・学習面(資料3参照)

(3) 春休みの生活と来年度に向けて

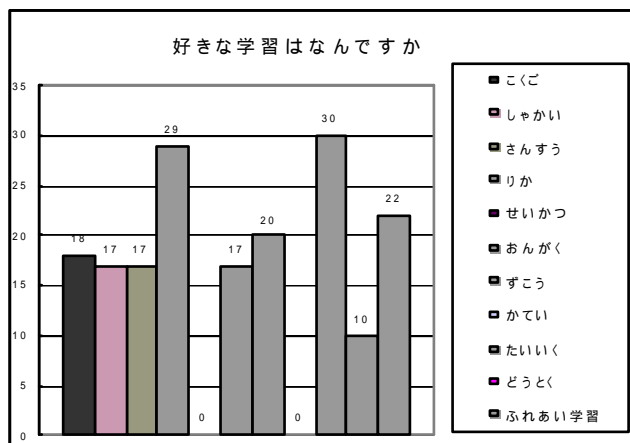
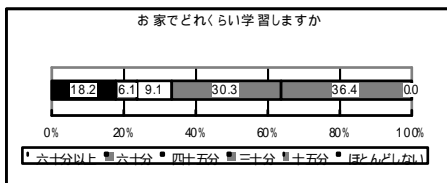
資料1



資料2 年生1年間の欠席数(3月10日現在延べ人数)

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	7	9	19	7	11	22	4	8	13	8	4	112

資料3



6 評価結果に基づいた学校運営の充実・改善

(1) 目標の達成状況の診断

吉田小学校では、まず、アンケート結果をグラフで表し、それぞれの項目に対する肯定的な評価の割合が80%以上であることを目標の達成基準として、達成状況を診断した。

達成できている。
 おおむね達成できている。
 あまり達成できていないし、
 達成できていない。

(1) 学校教育目標、めざす学校像、めざす子ども像について (吉田小学校の例) 80%				
校務分掌の指導計画に基づいて、組織的に教育目標の達成に向け、具体的な取組みをしている。 めざす子ども像の具現化のため、具体的で積極的な子どもや親への働きかけをしている。 話す・聞くの学習の基本が身に付いている。 元気よく明るいあいさつができる。 ありがとうと言える。				
(2) 学級目標について				
子どもの実態に応じて、目標を具体化し計画的に学級づくりを行っている。 子どもの平素の活動の中に、学級目標具現の様子がみられる。 親身になって子どもに接している。				
(3) 各教科学習について				
ねらいを明確にし、教えること・考えることをはっきりさせて授業を行っている 導入や展開等において、子どもの意欲を高めるための工夫をしている。 操作活動等を取り入れ、学習内容が子どもにイメージされ、分かりやすい授業を行っている。 個に応じた指導の工夫をし、基礎・基本の徹底を図っている。 子どもの表現力を高める授業づくりをしている。				
(4) 総合的な学習について				
年間活動計画をもとに、見通しをもって取組みを進めている。 地域素材の教材化、地域人材の積極的な活用を図り、学習成果が上がっている。 自己評価、相互評価を工夫するとともにポートフォリオ評価を実践している。 図書館やコンピュータ等を活用し、情報活用・処理ができるように指導の工夫を行っている。				
(5) 道徳教育について				
授業時数が確保され、体験的な学習を取り入れるなど、指導の工夫をしている。 心のノートを工夫して活用している。				
(6) 生徒指導について				
学校のきまりや生活目標が教職員で共通理解され子どもに対する指導が徹底されている。 児童理解に努め、子どもの悩みに積極的に対応している。				
(7) 人権教育について				
年間計画に基づき、学習を進めている。 すべての教育活動(学級)で、男女平等の意識を高め、子どもたちの具体的な変容が見られる。				

(8)健康教育について	80%		
子どもの生活習慣の確立に向けた取組みが効果を上げている。			
(9)安全教育について			
子どもが自分の命を守ることができる指導を行っている。			
(10)学校経営について			
校長は教育理念や学校経営についての考えを明らかにしている。			
学校経営に校長のリーダーシップが発揮されている。			
教職員間の信頼と協力関係を築く努力をしている。			
教職員が意欲的に取り組める環境整備に努めている。			
P T Aや教育後援会等の外部団体の支援を得ている。			

【自由記述から】

- (1) 学校教育目標、めざす学校像、めざす子ども像について
 - ・特に「あいさつ」ができる子を育てたい。
 - ・あいさつができていない。明るいあいさつ、返事のできる子どもの育成に努めなければならない。
 - ・聞く態度が悪い。聞き返しが多い。人が話すときには、きちんと話す人の方を見て聞くという基本的な態度が身に付いていないのが、とても気になる。
 - ・めざす子ども像の共通理解が不十分であった。(低・中・高ブロック等で検討し、職員会で共通理解を図りたい。)
 - ・保護者・地域にも呼びかけ「あいさつ運動」に取り組むことが必要である。
 - ・自分自身が意欲に欠けている面があった。
 - ・ の話す・聞くは具体的な方法を考え指導することが必要。 のありがとうは、日々の指導の積み重ねが必要である。
- (2) 学級目標について
 - ・計画性が今一つ欠けている。
 - ・ の親身になって接するは、まだまだ十分に行っているとは思えない。
- (3) 各教科学習について
 - ・教材の理解が十分でないので、もっと教材研究を行うべきである。
 - ・ の表現力を高める授業づくりをもっと意識しなければならない。
 - ・具体物を取り入れたり、子どもが楽しいと感じることのできる教材の工夫をしたい。
 - ・操作活動を多く取り入れ、子どもの学習意欲を高める努力をしている。
 - ・学習の展開、まとめの段階で、子どもの表現活動が十分行っていないので、改善しなければならない。
 - ・個別指導をもっと行うことが必要である。
- (4) 総合的な学習について
 - ・ の地域素材の教材化、人材の活用については、もっと考えることが必要である。
 - ・ のコンピュータ等の活用については、毎回のことではないので、導入できる場面を考えていくことが大切だと思う。
- (5) 道徳教育について
 - ・道徳の時間、心のノートはいつも机の上に置くようにしている。
 - ・総合的な学習の時間や行事と関連付けて計画を立てておくとよい。
- (6) 生徒指導について
 - ・気になる子どもについて、本人・保護者と親身になって話し合っている。
 - ・最近、まじめに掃除をする子が増えてきたが、まだまだ本気でやっているとは思えない。働く子を育てたいと思う。
- (7) 人権教育について
 - ・教職員の人権意識の高揚に努める必要がある。
 - ・女子が男子を小ばかにしている雰囲気を取り除きたい。
 - ・年間計画に基づいて学習を進めている。
- (8) 健康教育について
 - ・うがい、手洗い、食後の歯磨きが習慣化できている。
- (9) 安全教育について
 - ・自転車用ヘルメットの着用、防犯ブザーの携行により、安全意識が身に付いている。
- (10) 学校経営について
 - ・毎月の職員会議の時にも、校長の教育理念などの話が聞きたい。
 - ・職員それぞれが、自分の任務を忠実に遂行しなくてはならないというもっと強い自覚が必要ではないだろうか。

(2) 診断結果を踏まえた学校運営の充実・改善

次に、肯定的な評価の割合が80%に満たない項目について、今後どのように改善していくかを話し合った。

ア 協議内容

評価項目	改善点等
<p>(1) めざす子ども像について</p> <p>校務分掌の指導計画に基づいて、組織的に教育目標の達成に向け、具体的な取り組みをしている。</p> <p>めざす子ども像の具現化のため、具体的に積極的な子どもや親への働きかけをしている。</p> <p>話す・聞くの学習の基本が身に付いている。</p> <p>元気よく明るいあいさつができる。</p> <p>ありがとうと言える。</p>	<p>は(2)の学級目標にも関係があるが、来年度までに新しい形式の学級経営案を作成する。この学級経営案には、めざす子ども像(本年度の重点目標) 学級目標 具体的方策 評価改善策と一連のつながりをもたせる。 [1] (教務)</p> <p>低・中・高の各ブロックで検討し、職員会議で学校目標・めざす学校像・めざす子ども像の共通理解を図る。 [2] (教頭)</p> <p>・ については、授業の中で、話し方の練習や学級の支持的風土が必要である。学級活動の話し合い活動にも力を入れる。</p> <p>については、児童会で取り組みたい。学校だより等で、保護者や地域に呼びかける必要がある。 [3] (特活部、教頭)</p>
<p>(2) 学級目標について</p> <p>子どもの実態に応じて目標を具体化し、計画的に学級づくりを行っている。</p> <p>子どもの平素の活動の中に、学級目標具現の様子が見られる。</p> <p>親身になって子どもに接している。</p>	<p>・ 発表の時の声が小さい。きちんと返事ができない。また、言葉遣いが悪い等の問題がある。指導を要する。</p>
<p>(3) 各教科学習について</p> <p>ねらいを明確にし、教えること・考えることをはっきりさせて授業を行っている。</p> <p>導入や展開等において、子どもの意欲を高めるための工夫をしている。</p> <p>操作活動等を取り入れ、学習内容が子どもにイメージされ、分かりやすい授業を行っている。</p> <p>個に応じた指導の工夫をし、基礎・基本の徹底を図っている。</p> <p>子どもの表現力を高める授業づくりをしている。</p>	<p>・ 4年の筆算のやり方が以前と変わっていて、なぜ変わったのか、どういうメリットがあるのか、よく理解できなかった。しかし、雑談の中で他の職員と話し合うことにより、理解できた。また、学年間の縦のつながりも見えてきた。</p> <p>、 については、よい方法があれば、出し合ったらよいと思う。校内研修会の時に話し合う時間を設ける。 [4] (研修主任)</p>

<p>(4) 総合的な学習の時間について 年間活動計画に基づき、見直しをもって 取組みを進めている。</p> <p>地域素材の教材化、地域人材の積極的な 活用を図り、学習成果が上がっている。</p> <p>自己評価、相互評価を工夫するとともに ポートフォリオ評価を実践している。</p> <p>図書館やコンピュータ等を活用し、情報 活用・処理ができるように指導の工夫を 行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ については、次回にまわす。 <p>については、現在コンピュータが4年以上の教室や図書室 に1台ずつ設置しているなど、バラバラに置かれている状態 なので、まとめて設置した方がよいのかどうか、各校の情報 等を収集して検討したい。</p> <p>また、フリーソフトを揃えたい。 (視聴覚教育部) [5]</p>
<p>(5) 道徳教育について 授業時数が確保され、体験的な学習を取り 入れるなど、指導の工夫をしている。 心のノートを工夫して活用している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日課表を決める時に、抜けがちな月曜日に置かないなどの工 夫をして時間の確保をしたい。
<p>(6) 生徒指導について 学校のきまりや生活目標が教職員で共通 理解され、子どもに対する指導が徹底さ れている。 児童理解に努め、子どもの悩みに積極的 に対応している。</p>	<p>生活相談会で月目標の反省をするが、その時に来月の重点目 標についての共通理解を図るようにしたい。(生徒指導部) [6]</p>
<p>(7) 人権教育について 年間計画に基づき、学習を進めている。</p> <p>すべての教育活動(学級)で、男女平等 の意識を高め、子どもたちの具体的な変 容が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食の食器集めの時に、女子が男子を差別した態度が見受 けられる。見逃さず、その都度指導したい。
<p>(8) 健康教育について 子どもの生活習慣の確立に向けた取組み が効果を上げている。</p>	<p>家庭への働きかけが必要。朝食の大切さなど、保護者に効 果的に啓発できる方法を検討することが必要。また、給食後 の歯磨きは、事後の確認が大切。 [7] (保健部)</p>
<p>(9) 安全教育について 子どもが自分の命を守ることができる指 導を行っている。</p>	
<p>(10) 学校経営について 校長は教育理念や学校経営についての考 えを明らかにしている。 学校経営に校長のリーダーシップが発揮 されている。 教職員間の信頼と協力関係を築く努力を している。 教職員が意欲的に取り組める環境整備に 努めている。 PTAや教育後援会等の外部団体の支援 を得ている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員会等では、教育理念や学校経営について必ず話すように したい。 [8]
<p>(11) その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金管の練習の問題点および協力体制について話し合う。 ヘルメット着用の経緯および学校の対応の検討。(教頭) [9]

イ 今後の実践項目および課題

1 今後の実践項目

- ・上記の を () 内が担当し、それぞれの期日までに進める。

2 今後の課題および担当

(1) 学校要覧の見直し(保護者にも分かりやすいもの)

- ・参考になる他校の学校要覧を収集する。(校長) 10
- ・職員会議で共通理解を図り、学校要覧の概略案を作成する。(教頭、教務) 11

(2) 外部評価項目の見直し

- ・学校の思いと保護者・地域の思いや知りたいことにズレがあるかもしれないので、PTAの執行部および学校評議員に意見を求め、改善する。(教頭) 12

(3) 行事等の案内文の見直し

- ・案内文にめざす子ども像との関連や見てほしい所など、分かりやすく盛り込めないか。(教頭) 13

(4) 各分掌から出される計画案にPDCAのCAを記入する

- ・昨年度の反省およびそれに基づいた改善点を記入するようにする。その点に関する共通な書式等を決め、共通理解する。(教務) 14

(5) 参観日の有効活用の方法を考える。

- ・幼小連携の研修会でも保護者間のネットワークの希薄さが問題になった。保護者のネットワークづくりの機会となるように工夫できないか。(教務) 15

(6) 3月下旬に学校評価委員会(仮称)を開き、実施状況の反省と来年度の方向付けを行う。(教頭、教務) 16



< 縦割リスマイル班活動(長府小学校) >

ウ 今後の実践項目の進捗状況について（C Aについて）

実践項目	進捗状況
① 新しい形式の学級経営案の作成（教務）	・作成済み（説明及び協議は、来年度当初）
② 学校教育目標・めざす子ども像の共通理解及び決定（教頭）	・校内研修会で協議 （案は職員会議で提示）
③ 元気よく明るいあいさつができる（特活）	・児童会の代表委員会で「あいさつ運動」を実施することを決定。 正門と裏門で毎日実施。担当は、1週間めが6年生、2週間めが4年生、3週間めが5年生。 ・「あいさつ運動」実施後、職員と子どもに「あいさつ運動」の評価を実施。評価を基に、児童会（計画委員会）で、「あいさつ運動」特集号を発行。 ・年度末のPTA総会で、学校評価について説明する時に、あいさつについて家庭での協力をお願いする。
④ 効果的な操作活動・個に応じた指導等を校内研修で出し合う（研修）	・1月の校内研修会から時間を設けて実施する。
⑤ コンピュータを効果的に活用するための配置方法の検討（視聴覚）	・視聴覚主任が先進校を視察。職員会で一カ所にまとめることに決定。準備を進め、3月下旬に配置完了の予定。 ・フリーソフトは収集済み。
⑥ 来月の月目標および重点項目の決定及び共通理解（生徒指導）	・12月の生活相談会から実施。
⑦ 健康教育についての保護者への効果的な啓発（保健）	・検討中。
⑧ 毎月の職員会議の時にも、校長の教育理念等の話が聞きたい（校長）	・実行中。
⑨ ヘルメットの着用の経緯および学校の対応の検討（教頭）	・職員会で共通理解および協議。
⑩ 参考になる他校の学校要覧の収集（校長）	・収集済み。
⑪ 新しい学校要覧の概略案の作成（教頭、教務）	・校内研修会での協議および共通理解の後、作成。
⑫ 外部評価項目の見直し（教頭）	・見直し予定。
⑬ 行事等の案内文の見直し（教頭）	・入学式の案内に一工夫をする。
⑭ 各分掌から出される計画案にPDCAのCAを記入する（教務）	・サンプルを作成する。（何か一つの行事を）
⑮ 参観日の有効活用の方法を考える（教務）	・来年度の参観日の内の1回を一工夫する。
⑯ 3月下旬に学校評価委員会を開き、実施状況の反省と来年度の方向づけを行う（教頭、教務）	・①～⑮までの実施状況の確認および今後の課題の把握。 ・来年度の学校評価のおおまかな全体計画案の作成。 ・外部評価に向けての対象・方法・ステップの確認。 今回の学校評価委員会は、校長・教頭・教務・生徒指導で

(3) 中間評価の実施による計画の改善と修正

吉田小学校では、「あいさつ運動」の効果を検証するため、教職員・児童ともに「あいさつ運動」実施前と実施後の変化を4段階で問うことにした。

また、検証の結果の後、次の取組みについても考えた。

ア 質問事項および4段階評価は、以下のとおりである。

教職員：現在の子どもたちの「あいさつ」は、2学期と比べ、どうですか。

子ども：「あいさつ運動」を始めて、あいさつはどうなったと思いますか。

4段階評価 とてもよくなった よくなった 少しよくなった かわらない

イ 評価結果

(とてもよくなった) (よくなった) (少しよくなった) (かわらない)

教職員				
子ども	80%			
1年				
2年				
3年				
4年				
5年				
6年				

ウ 評価経緯を見ての感想および今後の取組み

- ・あいさつ運動には意欲的に取り組んだ。意識付けになった。
- ・まだ声は小さいが、子どもからあいさつの声が出るようになった。遠くから声をかける子どもも増えた。
- ・あいさつ運動終了とともに、子どもからのあいさつが少なくなったように思う。根気よく声かけをしていくことが必要。
- ・子どもたち同士でのあいさつが進んでできるようになるとよい。
- ・ありがとう等の基本的なことにも力を入れ、教師自らが手本となるように学校生活を送ることが大事。

あいさつは、朝だけでなく、日中でも会釈させたらどうだろうか。

4月のスタート時に、また、あいさつ運動を行うとよいと思う。

来年度も定期的にあいさつ運動を行ったり、保護者への啓発が必要。

児童会で「いい学校にするためには、あいさつが必要」等の議題で話し合うことも、意識の向上につながるのではないかと。

毎月1回は、強化日として取り組む。

児童の主体的な活動にするため、アピールの場の設定等の工夫を。

上記のを特活部で検討の上、できることから実行する。保護者への啓発は、年度末PTA総会で行うことにした。

(4) 特別活動(学校行事、児童集会活動等)の充実・改善

前年度の反省に基づいて、より充実した学校行事や児童集会活動等を実施するためには、P-D-C-Aサイクルに基づいた活動計画の充実・改善が必要である。

しかし、学校現場においては教職員の人事異動や校務分掌の改編などで、なかなか前年度の反省を十分に生かした取組みがなされない場合もある。小串小学校では、それを解消するために次のような取組みを行い、学校行事や児童集会活動等の充実・改善を図っている。

ア 次年度の活動計画書は、今年度中に作成する

学校行事等が終わるたびに、次年度の実施計画案を作成してサーバーに保存する。

イ 行事等の反省や改善意見を生かす

行事が終わると直ちに教職員による評価を行う。各自がそれぞれの立場から評価を行い、次年度の改善意見も併せて記載する。担当者は教職員から出された評価を基に次年度の活動の改善・更新計画を立案する。次年度の計画には必ず前年度の反省並びに改善点を記載し、それらを生かした次年度の計画が作成される。

平成17年度「夏のふれあい海祭り」集会を良くするために
(平成16年度実施「夏のふれあい海祭り」集会の反省)

小串小 特活部 平成16年7月20日

	児童の活動の面から	教師の支援の面から
実施時期	適当である。 良かった。	この時期くらいが適当である。
方法	どの子にも、活躍の場があったのは、良かったと思う。	全委員会担当することについては、再考の必要がある。 (その他の項参照)
前日までの流れ	日程的に忙しかっただろうか?しかし、この時期であれば仕方ない。 子どもが主体的になり、良かった。 どの子にも活動の場があったのは、よかった。	各委員会指導者の前日までの指導をありがとうございました。 水泳のため、昼休みの打ち合わせ時間がとれず、また、出張も重なり、委員会の子どもたちを十分に支援することができなかった。
集会当日	スムーズに流れていた。 天候にも恵まれ、時期的にもスムーズに進み、子どもたちも楽しそうで、とてもいい集会になった。 いい天気で、楽しい半日だった。 低学年の子どもたちも大変楽しそうにしていた。 リレーはみんなが楽しそうで良かった。 砂浜アートはもう少し時間をかけ、できた作品をみんなで見合う時間があれば良かった。(2人) 最後に、表示の紙が残っていた。	海で泳ぐとき、海の中には3名いたが、陸からの監視が足りないと思った。役割分担をし、責任をもって見ることが安全につながるであろう。 準備から片付けまでが、集会だと感じた。子どもたちに「こうなってほしい」という願いがあれば、そうなるまで声をかけ、見ておかなければならない。最後の片付けまで、みかじめをするべきだった。 下見の時よりゴミが減っていたので、急ぎよ集めるゴミの種類を変更した。準備した物が使えなかったこともあったが、委員会の子どもたちは一生懸命に活動していた。

特 別 活 動	
夏のふれあい海祭り	1

全校児童集会「発見！小串 夏のふれあい海祭り」実施計画（案）

小串小学校特別活動部

【前年度の反省（ ）と今年度計画の改善点（⇒）】

委員会ごとの負担が違いすぎた

- ⇒ 何の役割を果たすかは、代表委員会及びその後の委員長会議で話し合いによって決定していた。しっかり話し合い負担が同じくらいになるようにしたい。ただ、がんばる委員会は、委員会の中でアイデアを出し合い、より内容が充実するので、負担も増えると思う。過度な負担になる場合は、各委員会担当の先生の指導にゆだねたい。

もう少し、時間にゆとりがほしかった。（開始時刻・時間配分）

- ⇒ 開始時刻を10分遅らせ、9：00運動場集合とする。
集合・整列の時間を短縮し、きちんとするときとゆったり遊ぶときのメリハリがつけられるように指導したい。活動時間をむやみに長くしてもだれるので、活動時間帯は、15年度の実際の実施時間配分を参考にして考える。

ゴミ拾いを熱心にする子とそうでない子がいた。

- ⇒ クリーン作戦の意義を各クラスで事前指導する。当日は、チームごとにエリアを決めてゴミ拾いをし、拾ったゴミの量を比べる機会をもつ。

ケガをしそうなゴミがあった。

- ⇒ 前日に下見をしておくとともに、教師も一緒にゴミ拾いに参加し、随時注意をして見ておく。がんぜきなどの準備もしておく。

1 ねらい

集会に楽しく参加し、お互いのよさを知り合うとともに、親睦を深めて学校生活を豊かなものにする。ふれあい班で協力してクリーン作戦やゲームに取り組み、集団の一員としての自覚や所属感を深める。クリーン作戦を実施することにより、地域の環境美化に貢献する。

2 日 時 平成17年7月7日（水） 9：10～11：50 （雨天時）7月14日（水）

3 場 所 大先の浜

4 主な活動例



「はじめの会」



「クリーン作戦」
環境委員会による説明



「サンドアート」
チームで協力して...

7 学校評価の実施による成果と課題

(1) 成果

平成14年3月に制定された、小学校設置基準の中に

自己点検、自己評価を行い、その結果の公表に努めること
積極的な情報提供を行うこと

が盛り込まれ、学校評価は全国の学校での喫緊の課題として模索が続けられている。

下関市立長府小学校、下関市立吉田小学校、豊浦町立小串小学校の3校は、平成15年度（長府小学校は平成14年9月）から、山口県教育委員会の要請を受け、学校評価実践協力校として、「よりよい学校づくりをめざす学校評価の在り方」をテーマに、実践研究に取り組んできた。

ア 学校評価システムの定着

学校評価の実施による成果であるが、まず、第1点として、当初は他県の取組みを参考にして、暗中模索の状況であったが、2年目に入り、よりよい学校づくりの基盤となる学校評価システムが少しずつではあるが定着しつつあることが挙げられる。

具体的には、学校評価の研究実践に取り組むようになって、今まで見えにくかった様々な課題が明確となったことである。そして、その課題を学校の論理のみで押し切っていくのではなく、教職員が前向きに、建設的にとらえ、保護者や地域の方々と共に改善していこうとする姿勢が見え始めた。このような学校としての機能の見直しや教職員の意識改革がこれからの学校教育には必要であり、研究実践を進めてきた最大の成果であると考えている。

イ 保護者や地域住民への浸透

第2点として、情報公開・情報発信を積極的に進めてきたことにより、以前より格段に「学校教育目標」や「学校の教育姿勢・取組み」、あるいは、「学校教育の進展・成果」などが、保護者や地域の方々に浸透してきたことが挙げられる。このことは、今後も保護者等による外部評価をより客観性のある、精度の高いものにしていくために必要不可欠なことであると考えている。

ウ 保護者や地域住民との連携協力の推進

第3点として、保護者や地域住民との連携協力が、具体的な形で動き始めたということである。学校評価を学校改善のための手段として有効に活用していくためには、学校だけの活動ではねらいを達成することは難しく、保護者や地域の方々と連携協力しながら進めていくことで、はじめてそれが可能となる。

長府小学校では学校評価の中から、保護者や地域との連携協力の重要性を再認識し、「長府小校区連携推進会議」や教職員による「地域行事・PTA行事ボランティア制度」を新たに立ち上げ、具体的な活動を通して実践するようになった。

平成15年度末の長府小学校の教職員・保護者・地域の学校評価結果を見ると、一番多かったのは、不審者侵入に対する不安感であった。そこで、年度末から具体策を検討し、本年度より新たに、

門の締め切りを始めとした安全な施設管理の検討

侵入防止のための体制づくりとして、外来者の記帳のみでなく、外来者・教職員の名札の着用

児童及び教職員の対処能力の向上として、CAPや警察による講習会の開催や教職員研修の積極的実施

緊急時一斉下校体制の確立、児童通学路の子ども110番の周知徹底などを具体策として実施した。

このように学校評価が確実に学校経営に反映し、息づいてきていることを見るにつけ、学校評価に取り組んできて本当によかったと思っている。

(2) 課題

次に、課題であるが、実践協力校3校で実践してきて、学校評価の努力点として共通認識した3つの観点について、今後も充実、深化、そして改善を加えていかなければならないと考えている。

学校評価の努力点

P-D-C-Aサイクルに基づく学校評価システムの定着

学校評価の積極的導入と改善（見つめる・生かす）

情報公開・情報発信の進展（知らせる）

地域や保護者との連携（共に語る・汗を流す）

また、組織上の問題点として、評価委員会の機能を十分に発揮しながら、全教職員が学校全体の視野から自分たちの問題としてとらえていけるよう、教職員の意識の向上を図る手だてを工夫する必要がある。

さらに、学校評価の信頼度という点においては、サンプル数と全体の相関関係などの統計上のことについても今後研究を進めていく必要があると考えている。

3校は、平成15年度から学校評価の実践研究を進めているわけであるが、学校評価はそれ自体が目的ではなく、あくまで学校改善に生かされないと意味がないと考えている。客観性のある学校評価をいかに構築し、よりよい学校づくりのためにどのようにそれを生かしていくかの道筋がP-D-C-Aサイクルに基づく学校評価システムであり、3校のめざしているものである。

今現在、学校や教職員の力だけでは子どもたちの健やかな成長を図ることは難しくなっている。地域の学校であることや家庭や地域社会と共に子どもたちを育てるということを再認識し、学校評価を効果的に活用していくことが、これからの学校教育には欠かせないことであると考えている。

3校は取り組み始めて2年目であり、まだまだ緒に就いた段階である。これからの課題の方が多く、たくさんの方々の御指導をいただきながら今後も実践研究を推進していきたいと思っている。また、実践協力校として、特別なことをしたわけでもなく、どの学校においても少し努力すればできるような実践事例が提供できれば幸いである。

① 外部評価への取組みを中心にした実践

小野田市立高千帆中学校

1 学校評価の目的

学校の教育活動は学校教育目標の実現をめざす営みである。その活動の充実・改善を図り、より確かなものにしていくためには、教育活動の成果と改善点を明らかにすること、つまり学校評価が大切である。

学校評価の目的は、学校自らがそれぞれの学校教育目標の達成状況を生徒の実態の上に立って、学校全体あるいは教職員一人ひとりの段階で明らかにし、その結果を学校教育活動の充実・改善につなげていくことにある。

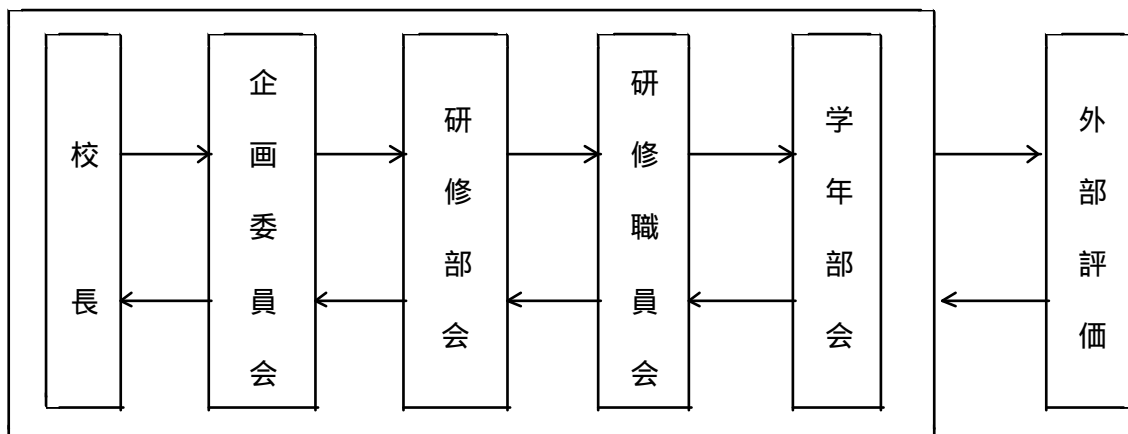


< 授業研究 技術 >

これまで、教職員のみで行ってきたこの評価も、これからは、教職員が自ら行う「自己評価」と、教職員以外が行う「外部評価」の相互作用の中で行うことが必要である。そのためには、校内の教職員が共通理解し、組織的に取り組むことはもちろん、保護者や地域の方に「学校評価」のねらいや意義に対する理解を得ることが大切である。

今、家庭や地域を含めた広く一般社会の意見や要望を取り入れた、地域に開かれ、信頼される学校づくりをめざすことは、将来を担う子どもたちを教育する者の責務である。

2 評価体制



[企画委員会]

・構成

校長、教頭、教務主任、生徒指導主任、研修主任、学年主任（3名）の計8名。

・役割

学校評価の計画・実施等について、運営上生じる諸問題についての連絡、調整を行う。

[研修部会]

・構成

各学年の研修部員1名の3名と研修主任で構成。

・役割

学校評価の計画・実施等にかかわる中核となる。

本校では、昨年度の反省を基に、研修部を中心に評価項目の作成・集計・分析から目標の達成状況の分析まで、すべての学校評価活動に全教職員がかかわることができるよう評価体制を構築した。

その理由としては、限られたメンバーで進めていくと、「自分が評価される」といった受け身的で、防衛的なとらえ方となり、その結果「構え」が生まれ、自己肯定のみを意識する閉じられた姿勢になることが予想されるからである。一方、全教職員が学校評価のすべてにかかわることにより、安心感が生まれ「評価してもらおう」といった、前向きで、開かれた姿勢が生まれ、その結果、様々な角度から自らを振り返り、よりよいものに改善していくという意識が生まれやすいと考えたからである。



< 2年生職場体験学習 ケーキ作り >

3 年間評価スケジュール

過 程	月	取 組 み 内 容
P 計 画	4	・課題の把握 ・目標の設定 ・計画の立案
	5	第1回学校評価に関するアンケートの評価分野の検討（研修部会）
	6	第2回学校評価に関するアンケートの評価分野の検討（研修部会）
D 実 践	7	評価項目の素案づくり（研修部会） ・7月中旬
	8	評価項目の検討（学年部会） ・夏季研修会（全体での意見交換） ・夏季研修会の意見を基に再度項目の検討
	9	・評価項目の検討（研修部会） ・評価項目の決定（研修職員会）
C 評 価	10	学校評価の実施と集計（研修部会） ・学校評価の保護者への実施依頼 ・前期学校評価の教職員への実施 ・学校評価の生徒への実施 ・学校評価の結果の集計
A 改 善	11	・学校評価の結果の分析及び改善の検討（学年部会）
	12 1	・学校評価の結果の分析及び改善の検討（学年部会・研修職員会）
P 計 画	2	学校評価の公表（研修部）
	3	・後期学校評価の教職員への実施（研修部）

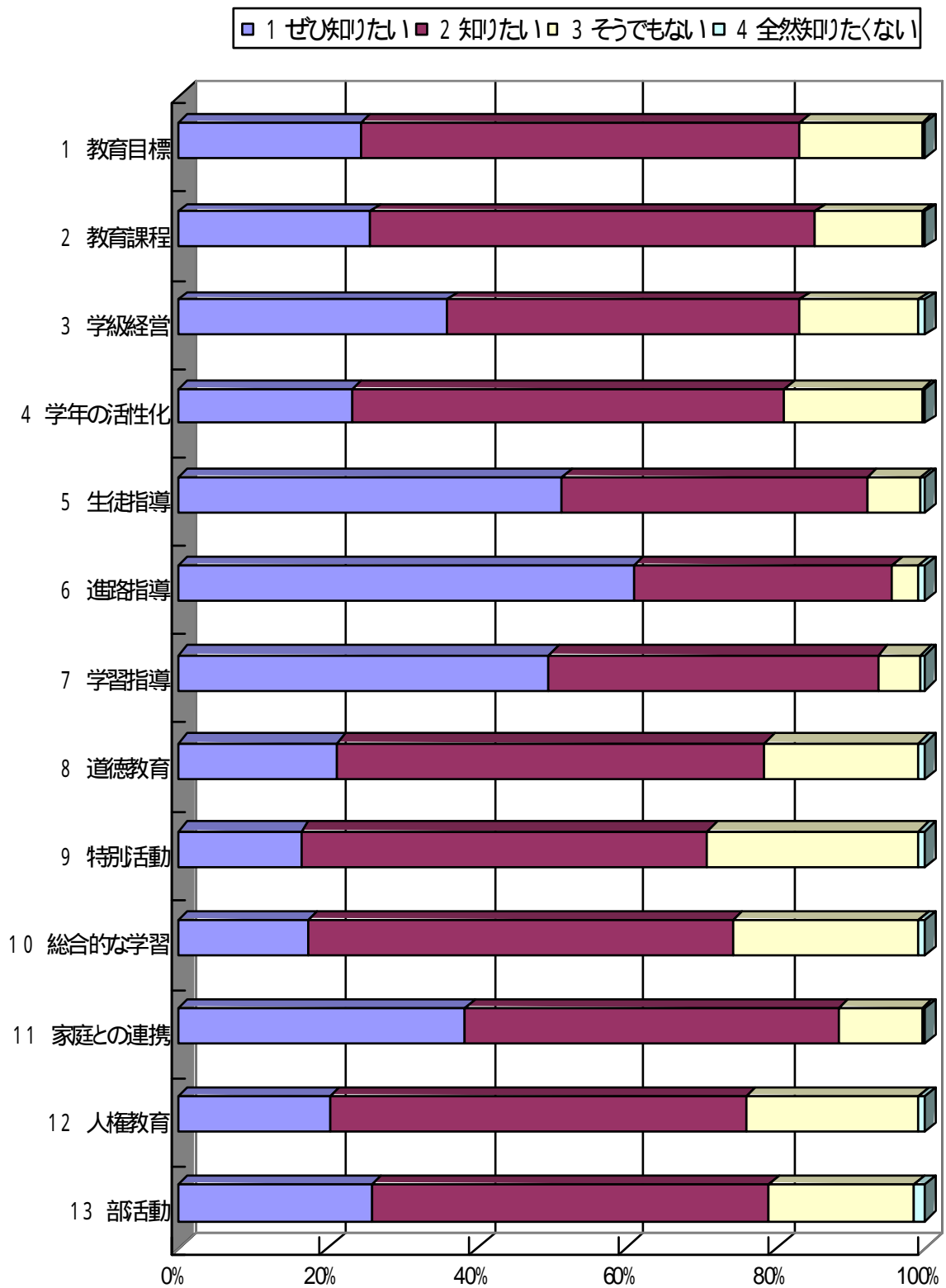
4 評価領域

評価領域の検討に当たり次のように考えた。学校評価は、本来すべての領域において行うべきものであるが、年間に複数回実施すること、教職員以外の者に対して実施すること等を考えると、質問の領域や項目数を考慮する必要がある。

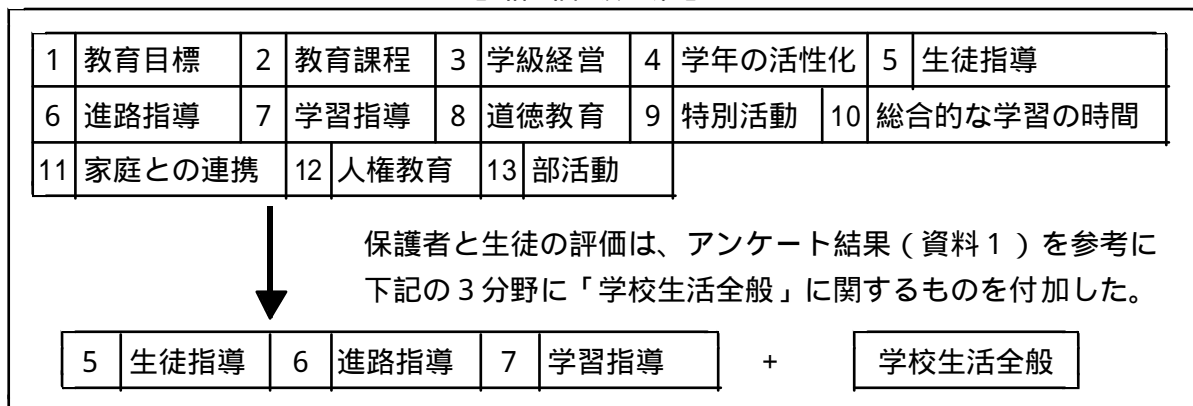
そこで、保護者を対象に、教育活動を13領域に分け、それぞれについての関心度を尋ねるアンケートを実施した。その結果（資料1）から、外部評価については、関心の高かった「生徒指導」「進路指導」「学習指導」の3領域を取り上げ、それに「学校生活全般」にかかわるものを追加し、4領域で実施することにした。

なお、学校評価の評価者は、教職員、保護者、生徒とした。

【資料1】全保護者を対象に1～13の領域について関心度をたずねた集計結果



【 評価領域 】



5 評価項目の設定

まず、年度当初に設定した、教育目標・具体目標・重点目標（資料2）を基に、各校務分掌や学年、さらには各教科の目標・方針を検討し、ねらいの具体化を図った。

さらに、その目標やねらいに基づいて、教職員一人ひとりが担当する教科や校務分掌、学級経営における具体的な活動を明らかにした。

その上で、全教職員が参加する体制のもと、それぞれが所属する学年部ごとに担当する評価領域を振り分け、評価項目の原案を作成し、研修職員会で検討を重ねた。

担 当 評 価 領 域

1年部（1年生所属の教職員）	・・・ 学習指導
2年部（2年生所属の教職員）	・・・ 家庭・地域との連携
3年部（3年生所属の教職員）	・・・ 学校生活全般，進路指導
4年部（校長、教頭、教務主任、生徒指導主任、養護）	・・・ 生徒指導

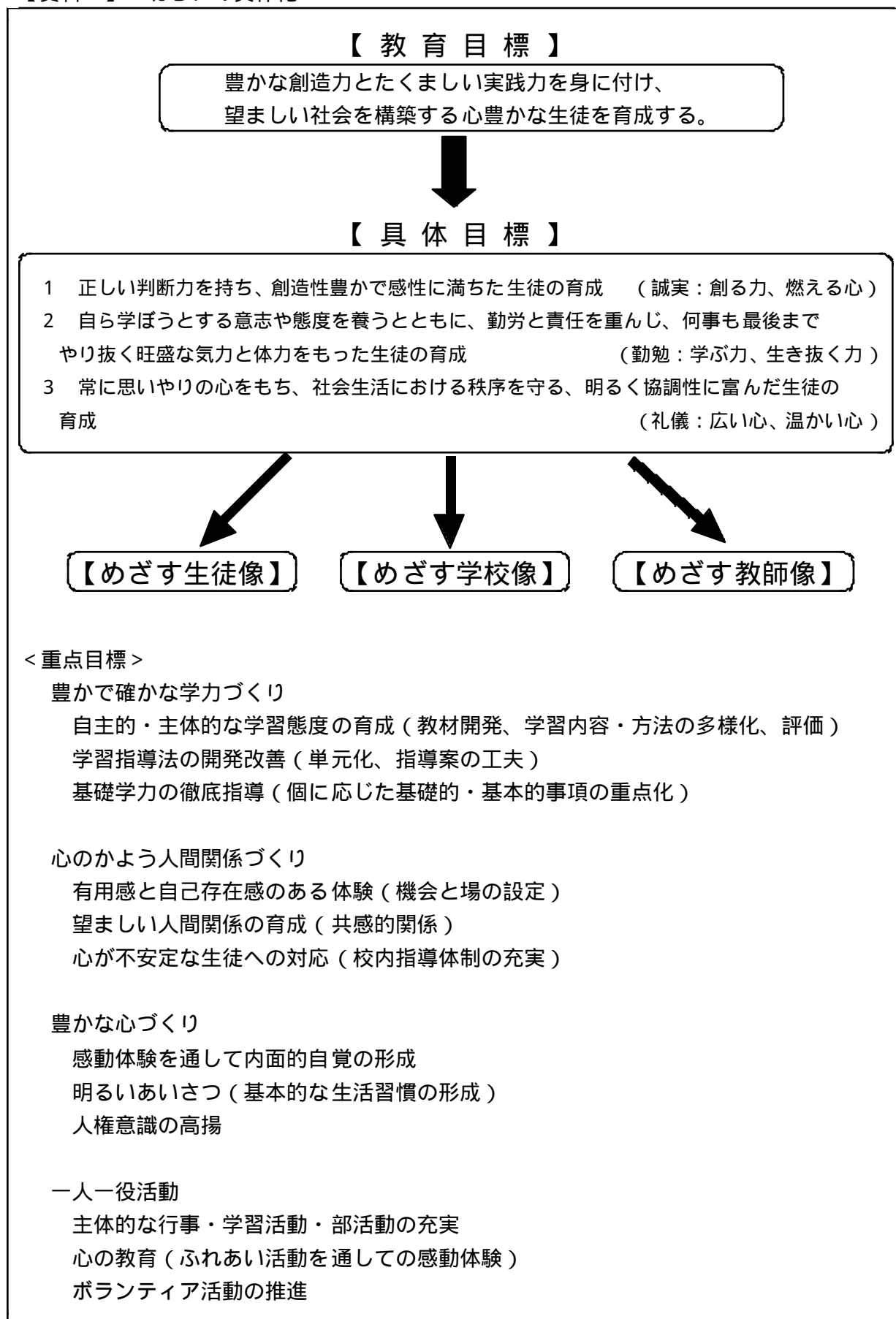
評価項目の作成の際、次の3点に留意した。

- (1) 生徒や保護者に対する評価項目については、教職員の評価項目とリンクさせることにより、教職員の捉え方と他の立場からの捉え方の違いを浮き彫りにし、より客観的な評価結果から適切な診断や分析ができるようにした。
- (2) それぞれの評価者が評価しやすいように、文章表現を分かりやすくするとともに、項目によっては、前文に学校で実践していることの説明を付けた。
- (3) 各項目に自由記述の欄を設け、保護者や生徒が自由に思いを記入できるようにした。



< 授業風景 国語 >

【資料2】 ねらいの具体化



6 評価基準の設定

評価の実施に当たり、A「まったくそう思う」、B「まあそう思う」、C「あまりそう思わない」、D「まったくそう思わない」の4段階の評価基準を設定した。そして、判断できない場合があるので、E「分からない」を付け加えた。

また、AとBの割合を加えたものを満足度の高い回答、同様にCとDの割合を加えたものを満足度の低い回答と考え、下のように、A+Bの割合によって活動の達成状況の判定基準を設定した。これを基に成果や課題を洗い出すとともに、次年度に向けた重点目標や具体的な姿について検討し、学校運営の充実・改善に役立てることができた。(資料4、6参照)

【 活動の達成状況の判定基準 】

・・・ 達成できていると判断される。	・・・ A + Bが70%以上
・・・ おおむね達成できていると判断される。	・・・ A + Bが50～70%未満
・・・ 改善を要すると判断される。	・・・ A + Bが50%未満

7 評価結果の分析・検討から充実・改善へ

本校では、10月に教職員、保護者、生徒それぞれを対象に学校評価を実施した。資料3は、その際の、保護者宛の依頼文書である。

基礎集計は担任が行い、グラフ化や自由記述部分の分類・整理は研修部が担当した。その集計結果を各学年部で分析し、具体的な対応を検討していった。資料4は分析例である。さらに、研修職員会で煮詰め、企画委員会を経て、最終的なアクションを決定していった(資料5)。その具体的な手順は、次のとおりである。



< 少人数指導 数学 >

まず、学年内のメンバーが2人ずつに分かれ、割り当てられた項目の集計結果から、次の点について検討し、意見・対処方法等を考える。

- ・ 40%未満の占める割合が多い項目については、その問題点を確認する。
- ・ その問題点を、例えば 主任として、 教科として、学級担任としてなど、考えられる立場でその意見や要望に対応するとすれば、どのようにしたらよいか、どのようなことが考えられるか、具体的な方策を考える。

学年部の全体会で順に問題点を紹介し、その対応策を検討する。

各学年の研修部員は、それをまとめ、研修職員会に持ち寄り検討する。

評価結果については、すべての項目についてグラフ化し、自由記述の部分は原則として原文をそのまま公表することとし、2月中旬にB5判21ページからなる報告書として全家庭へ配布した。

【資料3】 保護者宛アンケート依頼

アンケート調査（学校評価）「よりよい学校づくりのために」へのご協力をお願い

秋冷の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素から、本校教育に対しまして、ご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。

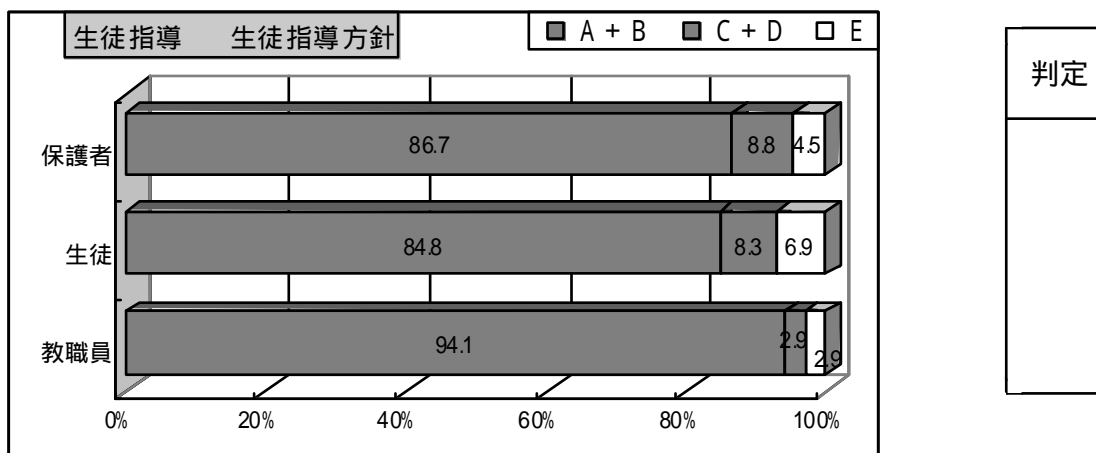
さて、本年度も折り返し点を過ぎましたこの時期、高千帆中学校をよりよくしていくために、保護者の皆様から本校の取組みについてご意見をお聞かせいただきたいと思います。

つきましては、大変ご多用のことと存じますが、下記によりまして、別添のアンケート調査にご協力くださいますようお願いいたします。

記

- 1 提出期限 平成 年 月 日（ ）
- 2 提出先 封筒に入れて、学級担任にご提出ください。
- 3 記名について
いただきましたご意見・ご要望につきましては、できる限りの責任ある回答をしたいと思っておりますので、できましたら記名をお願いいたします。
- 4 結果の公表について
十分に検討させていただき、来年2月をめやすに報告させていただく予定にしております。
- 5 その他
アンケート調査（学校評価）は、保護者の皆様のほか、生徒の皆さん、教職員を対象に実施します。（内容は、対象者によって異なります。）

【資料4】 評価結果を基にした診断・分析



概ね保護者には理解されているようだが、生徒指導だよりなどで繰り返し学校の情報を発信するよう努力する。

理解できていない生徒がいるので、生徒にもっと分かりやすい言葉で説明する必要がある。（集計結果全体は、P. 59からの資料6参照）



< 授業風景 音楽 >

学校評価から起こすアクション等

1 学校生活・全般

* 学校経営への参画

学校経営は、みんなで創意・工夫をしながら行うべきで、できればみんなの総意で運ばれるべきであることをまず確認する。その「みんな」とは、教職員はもちろんのことであるが、保護者も生徒も含まれる。また、地域の方々も含まれるのである。次代を担う生徒の教育に携わっている我々は、多くの方々のニーズを把握し、それらに応える必要がある。そのためには、保護者等の意見を聞き、要望をできるだけ取り入れながら学校運営を行うことが、これからの姿である。今回、この「学校評価」の必要性が叫ばれているのも、その理由の一つである。

* 学校からの情報発信不足への対応 「たより」の発行と充実

- ・定期的に発行する。
- ・特集コーナーを設定して情報を提供する。

* 学校からの情報発信不足への対応 「参観日等の設定」

平均すると、月1回の実施となるように計画する。

ただ単に、授業を見せるだけの参観日等ではなく、時々、例えば「高中タイム」を利用して、学年懇談会等を実施する。

2 学習指導

* 学力の保障

授業時数確保のために、家庭訪問を夏季休業中に実施する。

* 絶対評価

更に研修を積み重ね、資質の向上を図る。

* 補習の実施

希望者に対して、長期休業中や定期テストの前に補習を行う。

* 学習の進め方「ガイドブック」を作成（5教科）する。

3 生徒指導

* 教職員の共通理解のための会議や事例研究の実施

みんなが高中の教職員の一員であることを、まず認識する。

学年を越えて、指導する・指導できる体制を構築する。

* 根気強い指導の継続と協力要請

実態報告（プライバシーの保護の範囲で）と協力要請を行う。

（以下略）

8 成果と課題

これからの学校教育は、ただ単に生徒に対して授業を行い、知識を豊富にさせるだけではなく、その営みの中で、人対人、人対自然や動物とのふれあいやかわりをとおして、一人ひとりを人間的に成長させなければならない。

また、その期待は大変大きいもので、教育に携わっている我々の責務は重大である。保護者はもちろんのこと、地域社会の教育に対する期待は計り知れないものとなってきた。



< 給食準備風景 >

そこで、これまで教育の在り方を反省し、学校という狭い環境の中だけでなく、広く、多くの意見を聞く中で、あるべき学校教育の姿を求めていかななくてはならないと考える。

今回、これまでの「学校評価」を見直し、時代のニーズに合った方法を模索しながら実施し、多くの意見や要望、指摘をいただいた。それらすべてに対応できるものではないにしても、これまでの学校運営に示唆をいただいたことには間違いない。謙虚に反省すべきところは反省し、出来ることから早急に対応していかなければならないと感じている。

(1) 成果

ア このたび、生徒による評価を全校的に実施し、改めて生徒一人ひとりを見つめる機会を得たことが挙げられる。

生徒による評価を集計する中で、学級担任から「この生徒は、こんなふう感じていたのか」、「こんなことを望んでいたのか」等の気付きの声が出る。その声が学年に広がり、職員室の話題となる。その中で、私たち自身の日々の生徒とのかかわりへの振り返りが行われる。出てきた新たな気付きは、ある意味で当たり前すぎて「アクション」として具体的に示すことができないことが多い。しかし、人と人とのかかわりの中で人が育っていくという教育の営みを考えるとき、こうした機会を得たことはとても意義があった。

イ これまで教員一人ひとりが行ってきた日々の実践は、決して間違っているとは思っていない。しかし、学校という狭い環境の中で、また、評価する立場ばかりにあった私たちが、これまでの方法に固執した教育だけでは、生徒たちを真に21世紀をたくましく生きる人間に育て上げるに十分であろうかということに気付くきっかけとなった。

ウ 評価項目の作成を通じて、本校の教育目標をはじめ、めざす生徒像、学校像、教師像、そして、その達成に向けての重点目標等を全教職員が意識し、日々の具体的な教育活動に取り組むことができた。

(2) 課題と今後の取組み

これからの学校は、保護者・地域住民と協働して、子どもたちに「生きる力」を育むことを基本とした教育活動を展開していかなければならない。

保護者や地域住民の信頼を得、理解を図っていくためには、なお一層の学校情報を保護者や地域住民に発信していく必要がある。また、受信する方策も整備し、情報の共有化と双方向のコミュニケーションが必要であると感じた。

平成14年度から中学校設置基準が改められ、第2条に自己評価等、第3条に情報の積極的な提供が記されている。学校評議員制度を活用し、学校評価(自己評価・外部評価)のシステム化について、今後さらに研究していかなければならない。

なお、地域住民の代表として、自治会長を評価者とするアンケートを考案中である。試案ではあるが、資料として掲載している(P.72参照)。



< 課題学習 理科 >

最後に学校評価を進める上での課題を挙げて、まとめとしたい。

- ア 価値観の多様な現在、保護者等のニーズをどこまで受け入れ、どのように対応すべきか検討する必要がある。
- イ 学校からの情報発信不足をいろいろな面で指摘されたが、全くそのとおりであり、早い対応の必要性を感じた。外部評価を効果的に実施するためには、教育活動に対する情報提供を保護者や地域の方々に繰り返し行い、教育活動に対する関心や理解の深化を図る必要がある。
- ウ 授業参観や学校行事等の機会を捉えて、必要に応じて保護者等にアンケートを実施し、意見や要望を把握する必要がある。
- エ 教育活動及び学校運営に対する成果と課題を年度内に明確にして改善案を決定し、次年度の学校経営、教育計画を具体的に作成できるようにするため、計画的に時期を考えて実施することが大切である。
- オ 学校評価の結果及び分析について公表し、今後の方針や取組みについて、保護者や地域住民、学校評議員の理解を得て、連携協力体制を強固にしていくことが大切である。
- カ 今回、評価領域を絞り、その領域ごとに設問を関連付けて学校評価を実施したが、現在の、特に中学校の多忙な現状を見て、評価を実施する時期や回数について、学校内でよく検討して計画する必要がある。

【資料6】 集計結果

「学校評価」の実施状況

保護者	1年	2年	3年	合計
在籍数	193	194	209	596
回答数	184	178	202	564
回収率(%)	95.3	91.8	96.7	94.6

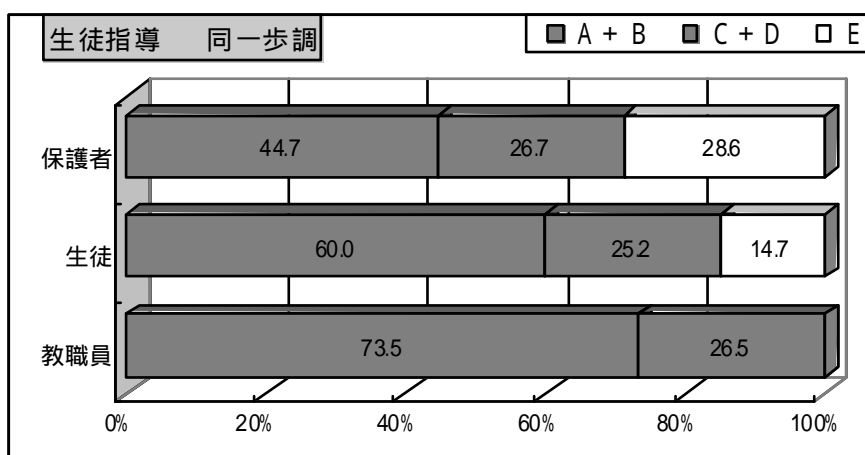
教職員	全体
在籍数	32
回答数	32
回収率(%)	100.0

生徒	1年	2年	3年	合計
在籍数	193	194	209	596
回答数	184	190	182	556
回収率(%)	95.3	97.9	87.1	93.3

評価のものさし

- A・・・まったくそう思う B・・・まあそう思う
 C・・・あまりそう思わない D・・・まったくそう思わない
 E・・・分からない

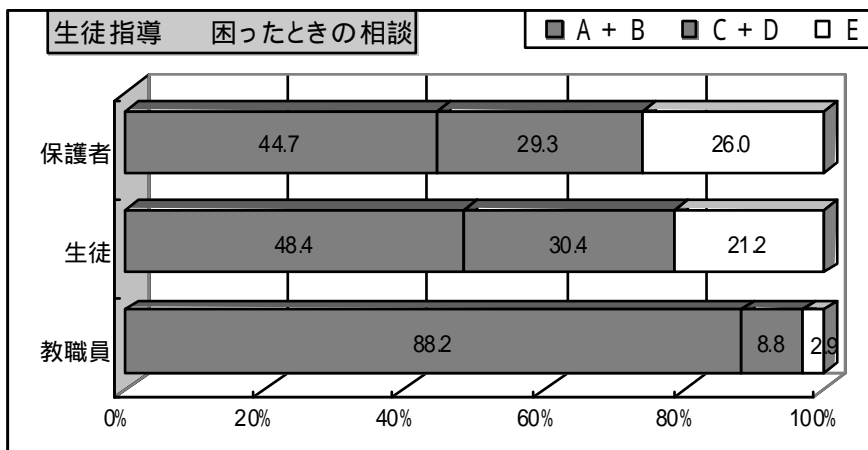
「生徒指導」及び「学習指導」の評価結果の分析（抜粋）



判定

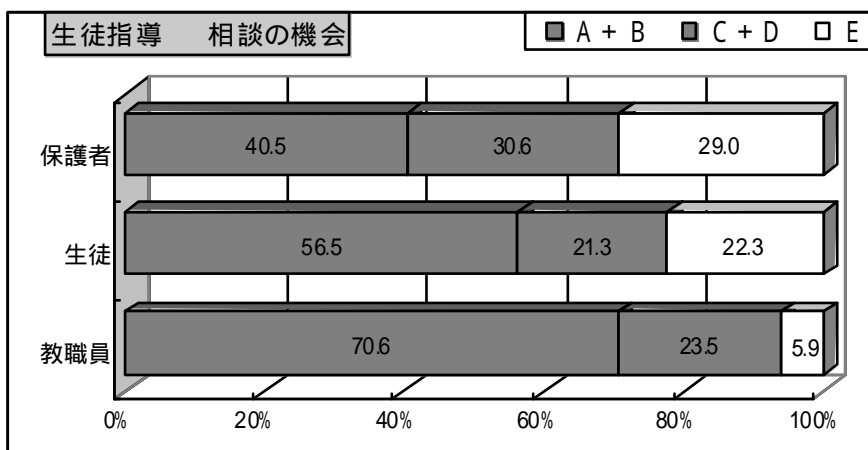
教職員のチームワークが今一步と感じている保護者が多いので、生徒指導主任を中心に生徒指導体制を見直す。

生徒指導の対応でマニュアル的なものはあるが、さらに共通理解を深めていく。



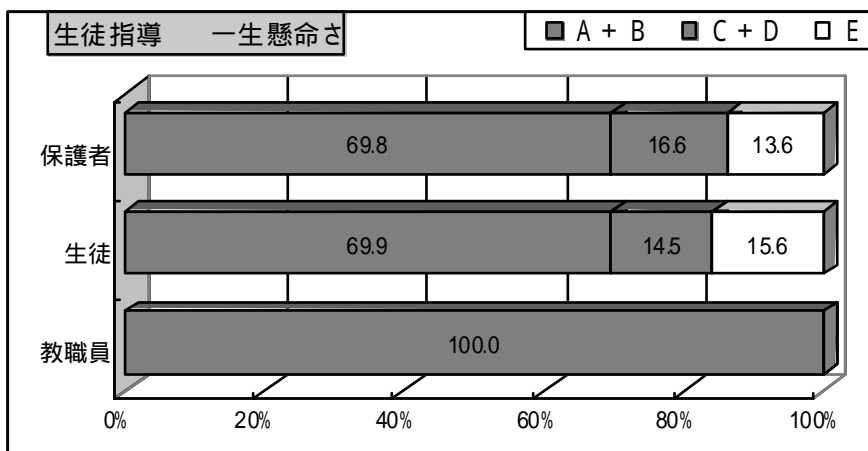
判定

教職員は、困ったときは相談できると思っているが、生徒や保護者はそう思っていない。今後は、生徒や保護者の目線に立った教育相談の充実に努める。日頃から生徒に対して積極的に声かけなどをする。



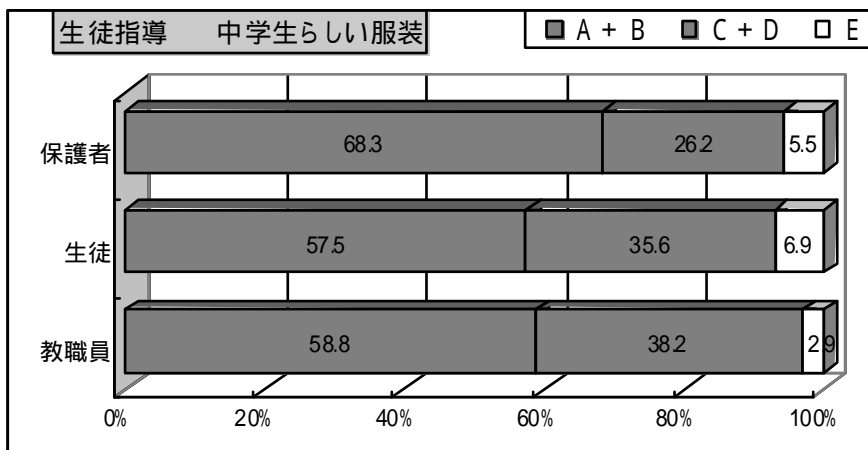
判定

教育相談の機会を充実させ、時間だけでなく質も高めていく。



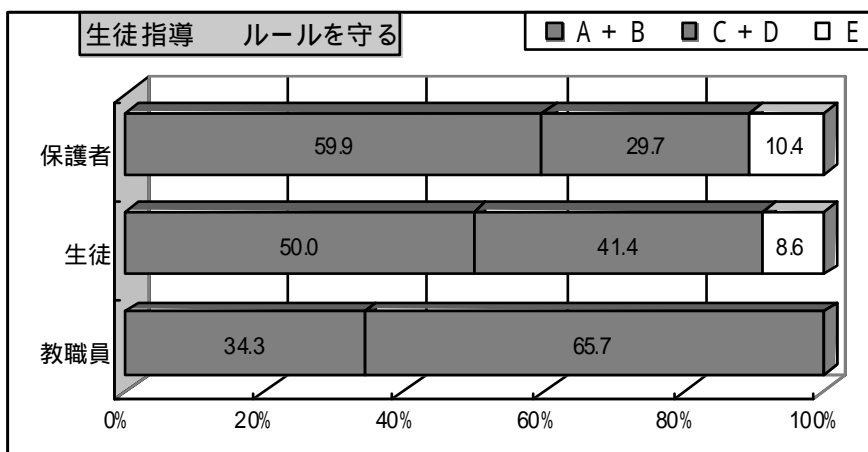
判定

教職員は、一生懸命に生徒のことを考えていると思っているが、生徒の一部は、不満感をもっている。教育活動のすべての場面できめ細やかな指導をしていく。



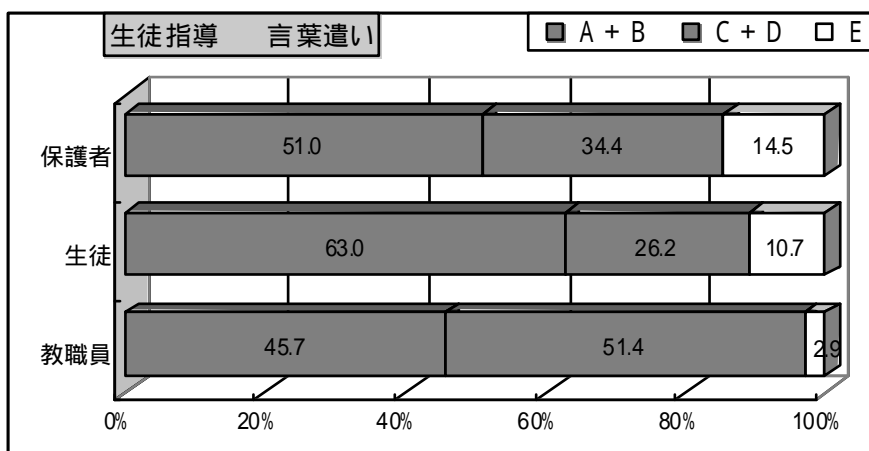
判定

前年度に比較して向上がみられる。今後も生徒の自発性を高めながら指導していきたい。ただ少数の生徒については向上がみられないので、根気強く保護者と力を合わせて指導する必要がある。



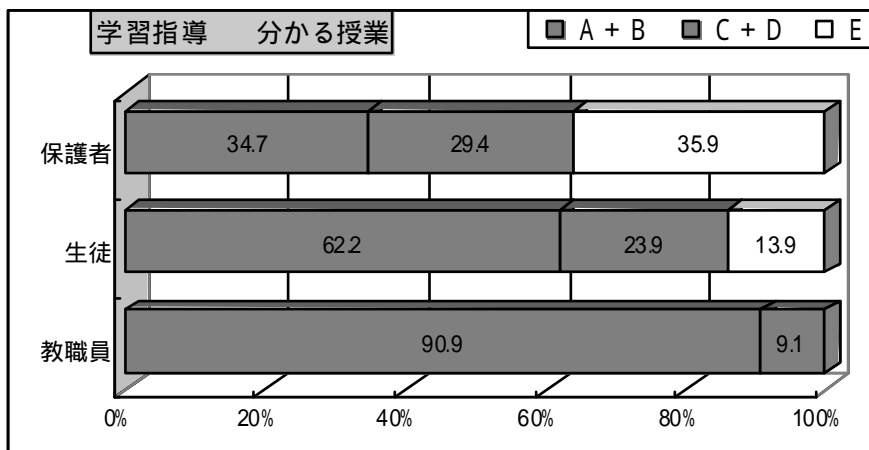
判定

教職員の多くがルールを守らない生徒が多いと感じている。生徒指導主任を中心に、確固たる姿勢で指導する。
保護者や地域に対して連絡を密にする。



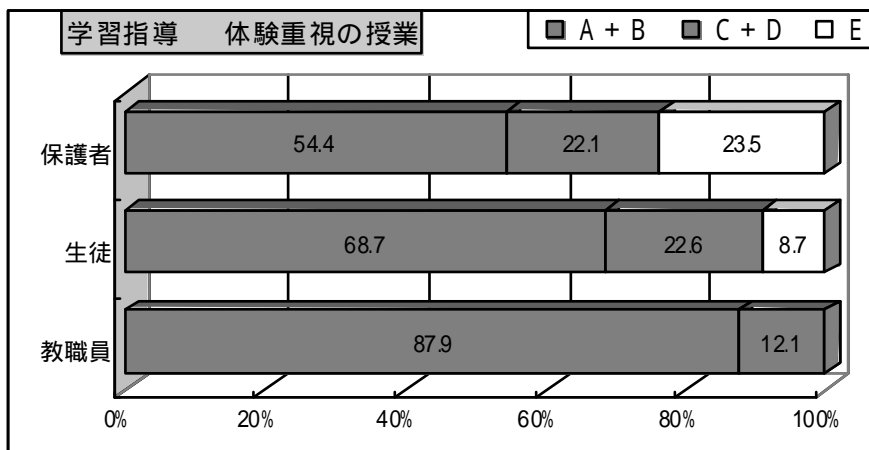
判定

目上の人に対して敬語で接することができないようである。全教職員が共通理解のもとに指導していく。保護者の中に生徒の教員に対する言葉遣いを問題に感じる声がある。時と場に応じた、けじめある言葉遣いができるよう指導していく必要がある。



判定

教職員は、授業の工夫ができていると感じている。しかし、生徒の約4割が授業が分かりにくいと感じていることは問題である。真摯に受け止めて研修を進めていかなければならない。

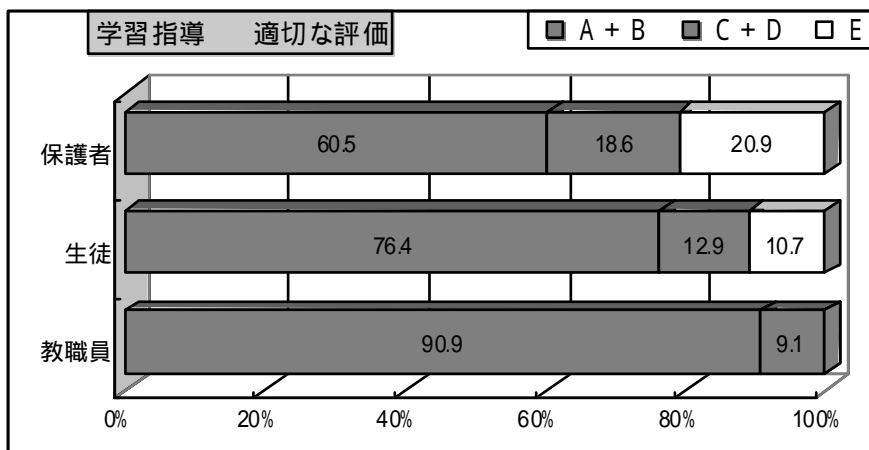


判定

体験重視の授業をもっと進めていかななくてはならない。校外学習や外部講師等を活用する。



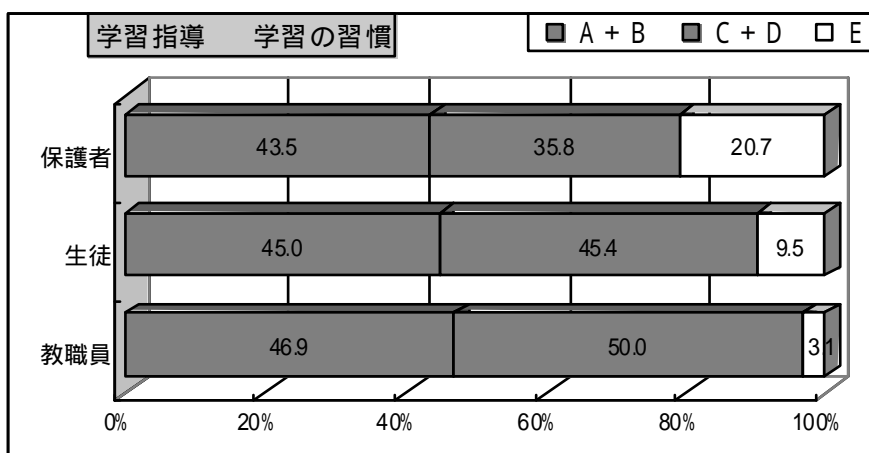
< 授業研究 英語 >



判定

全体的に適切な評価ができていると判断する。今後は各教科の評価規準などを生徒や保護者に分かりやすく知らせる必要がある。

校内研修を通じて、教職員一人ひとりが客観性と信頼性のある評価に努める。



判定

生徒や保護者の多くが学習習慣が身に付いてないと感じている。学校は、学習習慣の改善の指導に努める。

週休日や長期休業中の学習方法などを重点的に指導する。

自由記述からの抜粋

【生徒指導について・保護者から】

服装に関するものについて

- ・風紀に対し、一部全く徹底されていないのに疑問を感じる。化粧、スカート丈等、今一度検討されたいかがか。
- ・基本はやはり服装をきちんとすることだと思うので、少し厳しいくらいの指導をして頂きたいと思う。上級生になると服装の乱れが気になる。スカートが短すぎて、下着の見える子がいるそうだ。
- ・中学生らしい服装(制服)でない生徒をもっと指導してほしい。
- ・生徒全体が悪く見られるため、服装(制服)の乱れについて、もっと指導してほしい。
- ・身だしなみは何年たっても変わっていない。親の方にも指導が必要であると思う。

あいさつ、言葉遣いに関するものについて

- ・生徒にあいさつ指導を行う前に先生方からすすんであいさつをしてほしいと思う。先生方はあいさつをしないと母が言っていた。指導する立場にある者は、自分からすすんであいさつしてほしいものである。
- ・先日の参観日に、寝ている子どもや先生に敬語をつかえない子どもがいるのに驚いた。家庭での最低限のしつけができていないと思う。

生活一般に関するものについて

- ・学校内の様子が我が子からしか分からないので、正しい情報が入ってこないのが不安である。
- ・人としてしてはならないことをした場合、注意、指導よりも、本人が納得するまで熱意をもって叱ってほしい。

【生徒指導について・生徒から】

服装に関するものについて

- ・服装をはじめとする学校のルールをきちんと守ればよいと思う。
- ・服装で人を判断せずに、きちんと内面的なことも見てほしい。

交通・安全に関するものについて

- ・置きチャリなど、地域住民に迷惑をかけることがないようにしたい。苦情の電話よりも、お褒めの言葉がほしい。

【学習指導について・保護者から】

絶対評価に関するもの

- ・以前、中間・期末で平均90点近くとったが、評価が「3」で、「子どもも授業に積極的に取り組んでいるのに、これでは、がんばってもしょうがない。」と言っているというお母さんがいた。面談の時に具体的な説明が必要ではないだろうか。

補習に関するもの

- ・試験週間に補習の時間を設けていただきたい。

その他

- ・テスト前でも、今の子どもたちは遊びに夢中になっていると思う。(一部の子どもかもしれないが)もう少し厳しく勉強の取り組み方について子どもたちと話し合う必要があるのでは？
- ・授業を見る機会が少ないので、授業についてはよく分からない。

【学習指導について・生徒から】

- ・眠くならない授業を・・・
- ・授業の進度が速い。

【アンケートについて・保護者から】

アンケートへの要望や形式について

- ・このような形式的なアンケートではなく、日頃の思いが書けるようなアンケートが年に1～2回でもあればよいと思う。どうしても悪いことだけがクローズアップされてしまうが、我が子を通しての先生方は、本当によくしていただいていると感謝している。様々な親の思いが一度に集まって大変だろうが、要望ばかりでなく、良いところもどんどん情報として集められたら先生方も気持ちよく仕事ができ、親の思いを頭の片隅に止めてもらえるのではないだろうか。
- ・具体的な言葉が使われていながら、内容が理解しづらい質問があった。

情報不足のため回答しにくい内容等について

- ・主旨がよく分からない。学校に行くことがないのでこのアンケートに答えられない。先日まで参観日はなく、答えを見つけるのが大変である。

その他のアンケートへのご意見

- ・この調査で何が分かるのか、結果でどのようなアクションを起こすのか？何を調べたいのか、中身が全く分からない。
- ・このアンケート自体が無意味。何ら主体性をもたない。(今までの教育成果を保護者に開示して、安堵感を味わっているとしたかと思えない)
- ・学校側の、上に対する報告のためのアンケートであれば無駄。
- ・このようなアンケート調査はとても良いことだと思う。今後とも定期的に行っていただけたら幸いである。

平成16年度 よりよい学校づくりのために（教職員用）

氏名

今後の更なる飛躍をめざすために、前期の評価と反省を行いたいと考えます。忌憚のない評価と意見をお願いします。

評価 A・・・まったくそう思う B・・・まあそう思う
C・・・あまりそう思わない D・・・まったくそう思わない E・・・分からない

1 教育目標

- 教育目標は、学年・学級経営に位置付けられているか。 A・B・C・D E
- 教育目標や学校経営方針を家庭が理解し、協力する手立てが講じられているか。 A・B・C・D E
- 本校の特色を生かした教育計画になっているか。 A・B・C・D E
- 教育目標の達成に向けた、具体的な取組みがなされているか。 A・B・C・D E

意見

2 教 務

- 教育課程の完全実施に向けて努力することができているか。 A・B・C・D E
- 教育課程の指導計画を立て、実践に努めているか。 A・B・C・D E
- 教育課程の編成には、十分な共通理解があったか。 A・B・C・D E
- 授業時数の確保がなされているか。 A・B・C・D E
- 議案が企画委員会に出される前段階でしっかり吟味できているか。 A・B・C・D E
- 職員会議の進め方や議案の精選について適切であるか。 A・B・C・D E
- 校内生徒指導委員会、就学指導委員会、旅行委員会等が有効に機能しているか。 A・B・C・D E
- 行事予定に分掌担当の意見、調整案が生かされているか。 A・B・C・D E
- 校務分掌の仕事の内容を良く把握し、遂行できているか。 A・B・C・D E

意見

3 総 務

- 学校施設の管理・運営は十分であるか。 A・B・C・D E
- 学校備品の利用・管理状況は適切であるか。 A・B・C・D E
- 育友会(PTA)と学校との緊密な協力・信頼関係の維持に努めているか。 A・B・C・D E
- 公共物愛護の指導・破損箇所への処置は適切であるか。 A・B・C・D E

意見

4 学級経営

生徒一人一人の長所を発見し、それを学級内で生かす工夫をしているか。	A・B・C・D E
学級の集団活動で生徒は活発に活動できているか。	A・B・C・D E
朝夕の学級活動を効果的に行うための工夫をしているか。	A・B・C・D E
整理整頓された望ましい教室環境であるか。	A・B・C・D E
朝読書の時間が適切に運用されているか。	A・B・C・D E
家庭との連絡を十分に取り、協力して指導や助言ができていますか。	A・B・C・D E

意見

5 学年経営

学年の目標は、教職員間において共通理解できているか。	A・B・C・D E
学年内の連絡・調整・相談が緊密で、協力的な運営ができていますか。	A・B・C・D E
学年内のチームワークに寄与していますか。	A・B・C・D E
保護者の思いや願いを踏まえた指導に努めていますか。	A・B・C・D E

意見

6 研 修

本年度の研究主題は適切であったか。	A・B・C・D E
校内研修は、充実しているか。	A・B・C・D E
授業研究に対して、前向きに取り組んでいるか。	A・B・C・D E
自己研修に努めていますか。	A・B・C・D E

意見

7 生徒指導

学校は、今年、生徒指導方針として、基本的な生活習慣を身に付け、感謝と思いやりの気持ちをもって生活を送るよう指導してきたが、学校の生徒指導方針は生徒や保護者に納得できるものと思うか。	A・B・C・D E
学校全体で生徒指導に当たることができるように教職員の体制づくりに心がけているが同一歩調で生徒指導がなされているか。	A・B・C・D E
生徒にとって困ったときに相談できる教職員がいると思うか。	A・B・C・D E
年間を通じて生徒が相談しやすい環境づくりに努めているが、生徒との相談の機会は十分だと思うか。	A・B・C・D E
教職員は、生徒のことを一生懸命考えていると思うか。	A・B・C・D E
本校の生徒は、中学生らしいきちんとした服装で学校生活を送っていると思うか。	A・B・C・D E
本校の生徒は、時間を守ることや交通ルール等のきまりを守れていると思うか。	A・B・C・D E
本校の生徒は、地域や学校において正しい言葉遣いができていると思うか。	A・B・C・D E
本校の生徒は、地域や学校においてあいさつができていると思うか。	A・B・C・D E
本校の生徒は、お互いの気持ちを大切にしていると思うか。	A・B・C・D E

意見

8 進路指導

学級活動の時間を利用して進路指導を行っているが、一人ひとりに応じた進路についての指導がなされていると思うか。.....

A・B・C・D E

資料の作成・活用、指導方法を工夫しているが、生徒にとって役立っていると思うか。.....

A・B・C・D E

進路全般に関する情報が分かりやすく、適切に提供されていると思うか。.....

A・B・C・D E

意見

9 学習指導

授業の中で、生徒が進んで考えたり、作業したり、運動したりする場面が十分であると思うか。.....

A・B・C・D E

選択基礎の時間を設けるなどして、学習の基礎・基本の定着に力を注いでいるがこのような学習の機会は十分であると思うか。.....

A・B・C・D E

分かりやすい授業を工夫していると思うか。.....

A・B・C・D E

テストの得点だけでなく、生徒の意欲や努力を取り入れた評価をしているが、適切に評価が行われていると思うか。.....

A・B・C・D E

週休日や長期休業中を含めて学習の仕方を指導しているが、家庭学習に関する指導は十分であると思うか。.....

A・B・C・D E

意見

10 道徳教育

道徳授業の工夫・改善に努めていると思うか。.....

A・B・C・D E

計画的、継続的な指導を通して、道徳的実践力の育成が図られているか。.....

A・B・C・D E

生徒の実態を踏まえた指導ができているか。.....

A・B・C・D E

意見

11 特別活動

生徒の主体的な活動を重視した指導計画が立てられているか。.....

A・B・C・D E

生徒の自主的な実践活動を促す指導や助言が行われているか。.....

A・B・C・D E

資料が累積され、指導計画や指導法の改善に生かされているか。.....

A・B・C・D E

生徒会活動や専門委員会・全校集会が充実しているか。.....

A・B・C・D E

意見

12 総合的な学習の時間

学校や地域の特色を生かした取組みとなっているか。.....

A・B・C・D E

生徒の主体的な活動を支援することができるか。.....

A・B・C・D E

生徒は計画的に実践活動を行っているか。.....

A・B・C・D E

資料が累積され、有効に活用されているか。.....

A・B・C・D E

適切な評価がされているか。.....

A・B・C・D E

意見

1 3 環境・整備

清掃活動に本気で取り組むための指導の手立てはできているか。	A・B・C・D E
校地経営や学級花壇（園）は充実しているか。	A・B・C・D E
自分の担当箇所の安全管理等はよくできているか。	A・B・C・D E
奉仕作業等の意義について、生徒に徹底できているか。	A・B・C・D E

意見

1 4 家庭との連携

保護者に向けて継続的に情報を提供できているか。	A・B・C・D E
保護者に対して誠意をもって接しているか。	A・B・C・D E
学校や学年の行事に保護者が参加しやすいような工夫がなされているか。	A・B・C・D E

意見

1 5 人権教育

人権意識高揚のための研鑽に努めているか。	A・B・C・D E
計画的・継続的指導を通して、生徒の人権意識の高揚に努めているか。 ...	A・B・C・D E
差別や偏見につながる問題の解決が日常的に図られているか。	A・B・C・D E

意見

1 6 保 健

保健・安全指導は適切に実施できているか。	A・B・C・D E
給食指導は適切に行えているか。	A・B・C・D E
日々、生徒の健康把握に努めているか。	A・B・C・D E
病気・事故に対する対応は適切であるか。	A・B・C・D E

意見

1 7 部活動に関する気付き・意見

気付き・意見

1 8 その他の気付き・意見

(これまでに余白の関係で書けなかったことなど、あれば書いてください。)

気付き・意見

よりよい学校づくりのために (生徒用)

氏名

よりよい高千帆中をつくるために、生徒の皆さんの意見を聞かせてください。

*以下の項目についてA, B, C, D, Eのいずれかを で囲んでください。

A・・・まったくそう思う B・・・まあそう思う C・・・あまりそう思わない
D・・・まったくそう思わない E・・・分からない

1 あなたの学校生活について

学校へ行くのが楽しい。	A・B・C・D E
自分が、高中生でよかった。	A・B・C・D E
目的をもって学校へ登校している。	A・B・C・D E
あなたには、困ったときに相談できる先生がいる。	A・B・C・D E
あなたにとって、先生との相談の機会は十分である。	A・B・C・D E
先生たちは、生徒のことを一生懸命考えてくれている。	A・B・C・D E
先生たちは、基本的な生活習慣を身に付け、感謝と思いやりの気持ちをもって生活を送るよう指導してきましたが、あなたも、この目標が大切なことだと思う。	A・B・C・D E
先生たちは、全員が協力して同じように指導してきましたが、あなたから見ても先生たちは、同じように指導している。	A・B・C・D E

2 高中生の全体の様子について

高中生は、中学生らしいきちんとした服装で学校生活を送っている。	A・B・C・D E
高中生は、時間や交通ルール等のきまりを守っている。	A・B・C・D E
高中生は、地域や学校で時と場に応じた正しい言葉づかいができています。	A・B・C・D E
高中生は、地域や学校においてあいさつができています。	A・B・C・D E
高中生は、お互いの気持ちを大切にしている。	A・B・C・D E

高中生に対して、どのような印象をもっていますか。書いてください。

3 進路の学習について

高中では、総合的な学習の時間や学級活動で、生徒が自らの生き方を考え、主体的に将来の進路を選択・決定できることをめざした「進路指導」に努めています。

進路学習で、自分自身の生き方を考えることができたと思うか。	A・B・C・D E
一人ひとりに配られた資料や行った活動は、あなたに役だっている。	A・B・C・D E
進路の学習のようすを、あなたはよく家庭に伝えている。	A・B・C・D E

4 授業について

授業のとき、自分からすすんで考えたり、作業したり、運動したりする場面は十分にある。	A・B・C・D E
選択基礎の時間などをつくり、基礎・基本が身に付くよう考えていますが、このような学習の機会は十分である。	A・B・C・D E
学習の評価は、テストだけでなく提出物や授業中の努力等を含めて行われている。	A・B・C・D E
週休日(土、日)や長期休業中を含めて、家庭学習の習慣が身に付いている。	A・B・C・D E
授業は、分かりやすい。	A・B・C・D E

学校生活をより充実させるための意見や要望などがありましたら、書いてください。

よりよい学校づくりのために （保護者用）

保護者氏名（回答者氏名）

よりよい高千帆中をつくるために、保護者の皆様のご意見をお聞かせください。

*以下の項目についてA, B, C, D, Eのいずれかを で囲んでください。

A・・・まったくそう思う B・・・まあそう思う C・・・あまりそう思わない

D・・・まったくそう思わない E・・・分からない

1 学校生活のことについて

あなたのお子さんは、学校に行くのを楽しみにしていると思われませんか。	A・B・C・D E
あなたは、お子さんが本校の生徒でよかったと思われませんか。	A・B・C・D E
あなたのお子さんは、目的をもって学校に登校していると思われませんか。	A・B・C・D E
あなたのお子さんは、困ったときに相談できる教員がいると思われませんか。	A・B・C・D E
教職員との相談の機会は、あなたのお子さんにとって十分であると思われませんか。	A・B・C・D E
教職員は、生徒のことを一生懸命考えていると思われませんか。	A・B・C・D E
学校では、基本的な生活習慣を身に付け、感謝と思いやりの気持ちをもって生活を送るよう指導してきましたが、この方針は納得できますか。	A・B・C・D E
学校全体で生徒指導に当たることができるように、心がけておりますが、皆さんからみても、教職員は、同じように指導していると思われませんか。	A・B・C・D E

2 生徒の全体の様子について

本校の生徒は、中学生らしいきちんとした服装で学校生活を送っていると思われませんか。	A・B・C・D E
本校の生徒は、時間や交通ルール等のきまりを守っていると思われませんか。	A・B・C・D E
本校の生徒は、地域や学校において時と場に応じた正しい言葉遣いができていると思われませんか。	A・B・C・D E
本校の生徒は、地域や学校においてあいさつができていると思われませんか。	A・B・C・D E
本校の生徒は、お互いの気持ちを大切にしていると思われませんか。	A・B・C・D E

本校の生徒に対して、どのような印象をお持ちですか。お書きください。

3 進路指導にかかわるもの

本校では、総合的な学習の時間や学級活動で、生徒が自らの生き方を考え、主体的に将来の進路を選択・決定できることをめざした「進路指導」に努めています。

一人ひとりに応じた進路についての指導がなされていると思われませんか。	A・B・C・D E
進路について配られた資料や行った活動は、あなたのお子さんに役だっていると思われませんか。	A・B・C・D E
家庭にお知らせしている進路に関する情報は、分かりやすく、適切であると思われませんか。	A・B・C・D E

4 授業について

生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫しておりますが、生徒がすすんで考え、作業し、運動する場面は十分であると思われませんか。	A・B・C・D E
選択基礎の時間を設けるなどして、学習の基礎・基本の定着に力を注いでおりますが、このような学習の機会は十分であると思われませんか。	A・B・C・D E
テストの得点だけでなく、生徒の意欲や努力を取り入れた評価をしておりますが、適切に評価が行われていると思われませんか。	A・B・C・D E
休日や長期休業中を含めて学習の仕方を指導しておりますが、家庭学習に関する学校の指導は十分であると思われませんか。	A・B・C・D E
分かりやすい授業を工夫していると思われませんか。	A・B・C・D E

5 家庭との連携にかかわるもの

保護者の皆さんに向けて学校の様子をお知らせできていると思われませんか。	A・B・C・D E
保護者の皆さんに対して、教職員は誠意をもって接していると思われませんか。	A・B・C・D E
今年度から参観日などを増やしましたが、学校や学年の行事に保護者の皆さんが参加しやすいような工夫がなされていると思われませんか。	A・B・C・D E

高千帆中学校をよりよくするために、お考えがありましたら、お書きください。

このアンケートについて、お気づきのことがありましたら、お書きください。

アンケートのご協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

よりよい学校づくりのために（地域用）試案

回答者氏名

よりよい高千帆中をつくるために、地域の皆様のご意見をお聞かせください。

*以下の項目についてA, B, C, D, Eのいずれかを で囲んでください。

A……まったくそう思う B……まあそう思う C……あまりそう思わない

D……まったくそう思わない E……分からない

1 生徒の全体の様子について

学校では、基本的な生活習慣を身に付け、感謝と思いやりの気持ちをもって生活を送るよう指導してきましたが、この方針は納得できますか。	A・B・C・D E
本校の生徒は、中学生らしいきちんとした服装で生活をしていると思われませんか。	A・B・C・D E
本校の生徒は、交通ルール等の社会のきまりを守っていると思われませんか。	A・B・C・D E
本校の生徒は、時と場に合った正しい言葉遣いができていると思われませんか。	A・B・C・D E
本校の生徒は、あいさつができていると思われませんか。	A・B・C・D E

本校の生徒に対して、どのような印象をお持ちですか。お書きください。

2 地域との連携にかかわるもの

育友会(PTA)広報誌などで学校の様子をお知らせしていますが、十分であると思われませんか。	A・B・C・D E
本校の生徒は、自治会の行事などに参加していると思われませんか。	A・B・C・D E

高千帆中学校をよりよくするために、お考えがありましたら、お書きください。

このアンケートについて、お気づきのことがありましたら、お書きください。

アンケートのご協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

② 答えやすく、処理しやすい評価方法の工夫

小野田市立小野田中学校

1 学校独自の評価表

学校評価は、学校改善に生かすためのもので、評価することを目的とするものではない。学校は意図的・計画的な教育活動を実践するところであるので、その学校ならではの教育活動が生徒や保護者にどう評価されているかを知るためのものでもあると考える。

また、評価項目を見ることで、生徒や保護者があらためて学校や自分たちを見つめ直し、教職員と課題を共有化するのに効果的であると考え。

本校では、以前は、PTA役員のみを対象に、P.74のように本校独自の取組みについての項目を入れ、評価を実施してきた。自由記述欄も多く、貴重な意見を得やすかったのだが、集計が煩雑であり、また、保護者からは「書くことが多い」「学校を評価するなんておこがましい」などの理由で答えにくいという意見もあった。

その後、全生徒、保護者に実施したいと考え、答える方も答えやすく、評価される方も分かりやすく、集計しやすいものにしたいと考え、P.75にあるような評価表で実施した。よい結果を導くような問いもあり改善点もあるが、ポイントは次の通りである。

- (1) 保護者が評価しやすいように、タイトルを学校評価とせず、今後の子どもたちの学校生活をより良くするためのアンケートとした。
- (2) 内容に保護者や生徒が自己を振り返る評価も含める。それによって、学校評価への抵抗感をなくせるし、保護者の学校の教育活動への関心を高めることができたかどうかを振り返ることができ、教職員の反省材料にもなる。同様のことは生徒の評価表にも言える。
- (3) カリキュラム、教職員、友人や環境などの面についても5項目ずつにまとめて評価表に入れる。

2 回収率の高い実施方法

評価の時期は、P-D-C-Aサイクルに基づく学校改善をめざして、次の学期や次の年度に生かすことができるよう、各学期末に行っている。

保護者に対する評価依頼の方法としては、以前は、保護者に評価用紙を配布し、後日回収するという方式で行っていたが、現在は、学期末保護者会当日に、教室の外で待っている時間に書いてもらい、その場で回収するという方法をとっている。

このような方法によって、保護者への負担も軽くなると同時に時間の有効利用にもなり、回収率も高くなる。また、懇談の前にその学期を振り返ることにになり、効果的であるように思う。

平成14年度 学校への評価(抜粋)

「生徒自ら学ぶ意欲と豊かな心をもって、自ら課題を見つけ、自ら学び考え、問題を解決する力など、生きる力を育てるために、全教職員の英知と実践力を結集してその支援に努める。」「家庭や地域社会に開かれた学校経営に努めるとともに、相互の連携を密にして、教育的効果を相乗的に高めるように努める。」ことをめざして、今年度、小野田中学校ではこのような取組みをしました。

これらの取組みについて3段階で評価していただき、さらに、どのような効果的な取組みができるかについて、御意見をお聞かせください。

A よくできている B 普通 C 工夫・改善が必要 D 分からない

ねらい	具体的取組み・活動				
学ぶ楽しさを教え、学力を高める <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">A</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">B</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">C</td> <td style="width: 20px; height: 20px; text-align: center;">D</td> </tr> </table>	A	B	C	D	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の三原則(準備、チャイム前着席、私語なく集中)の徹底、 ・「学習の手引き」を活用した学習指導や教科指導の実施、 ・各種テストの適宜実施及び結果分析、 ・多様な学習活動・形態の工夫、 ・学習状況の多面的な把握に向けた評価・通知表等の改善、少人数(数学)指導の導入
A	B	C	D		
御意見等					

その他の項目

ねらい	具体的取組み・活動
自分を見つめ、生きる方向を探させる	<ul style="list-style-type: none"> ・職業指導、職業調べ(1年) ・職場体験学習、高校調べ(2年) ・進路説明会、体験入学、進路懇談会2回(3年) ・地域の人材に学ぶ会(全校) ・先輩に学ぶ会(1, 2年)
体験を通してチャレンジ精神を養う	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊研修(1, 2年) ・職場体験学習(2年) ・修学旅行、京都・門司の班別自主研修(3年) ・ボランティア・一校一善運動(全校)
社会のルールや常識、知恵を教える	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の充実 ・相談体制の充実 ・人間関係づくり、学級づくりの推進
情報活用能力とコミュニケーション能力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚、コンピュータの効果的な活用 ・総合的学習の時間(調べ学習、発表)
地域を知り、地域と交わり、地域と共に生きる学習	<ul style="list-style-type: none"> ・一校一善校外クリーン作戦(1年) ・一校一善老人ホームクリーン作戦、職場体験学習(2年) ・一校一善学校周辺クリーン作戦(3年)
家庭・地域・学校が情報交換を図る場の設定と積極的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観(5月、6月、11月、2月) ・二者・三者懇談会(7月、12月) ・学級懇談会(6月、11月) ・学年懇談会(2月) ・部活懇談会(5月) ・地区懇談会(7月) ・教育講演会(12月2回、3月) ・学校評議員会(7月、3月) ・学級通信、保健だより、相談室だよりなどの広報活動

1学期を終えて（生徒用）

（ ）年（ ）組 氏名（ ）

このアンケートは、みなさんの学校生活をよりよくするための資料とするものです。それぞれの問いについて、あてはまると思うところに 印を書いてください。

A・・・よくあてはまる B・・・ややあてはまる C・・・あまりあてはまらない
D・・・まったくあてはまらない

分からないところは、空欄でかまいません。

	項 目	A	B	C	D
1	一生懸命、授業に取り組むことができた。				
2	言動は思いやりのあるものだった。				
3	掃除や係の仕事を責任もってやりとげた。				
4	部活動に積極的に参加した。				
5	学校のきまりをしっかりと守った。				
6	分かりやすい授業が多い。				
7	数学など少人数の授業は分かりやすい。				
8	1クラスが30人前後で、多すぎないのはよいことだ。				
9	1学期の学校行事は、よい経験になった。				
10	(2・3年) 選択授業は教科書以外のこともできて楽しい。				
11	授業で分からないときに、先生に質問しやすい。				
12	教え方に工夫をしている先生が多い。				
13	いじめなどに対して、先生はすぐに対応してくれる。				
14	自分の努力を認めてくれる先生が多い。				
15	気軽に相談できる先生がいる。				
16	学校には友だちがいて楽しい。				
17	学校には花壇や掲示物が整理されている。				
18	人の生き方や社会生活について考える機会がある。				
19	急な事件や事故の時どうしたらよいか分かっている。				
20	学校での毎日は楽しい。				

1 学期を終えて（保護者用）

おさまの学級（ ）年（ ）組 性別（ ）

このアンケートは、子どもたちの学校生活をよりよくするための資料とするものです。それぞれの問いについて、御自分のおさまにあてはまるところに 印を書いてください。

A・・よくあてはまる B・・ややあてはまる C・・あまりあてはまらない
D・・まったくあてはまらない

分からないところは、空欄でかまいません。

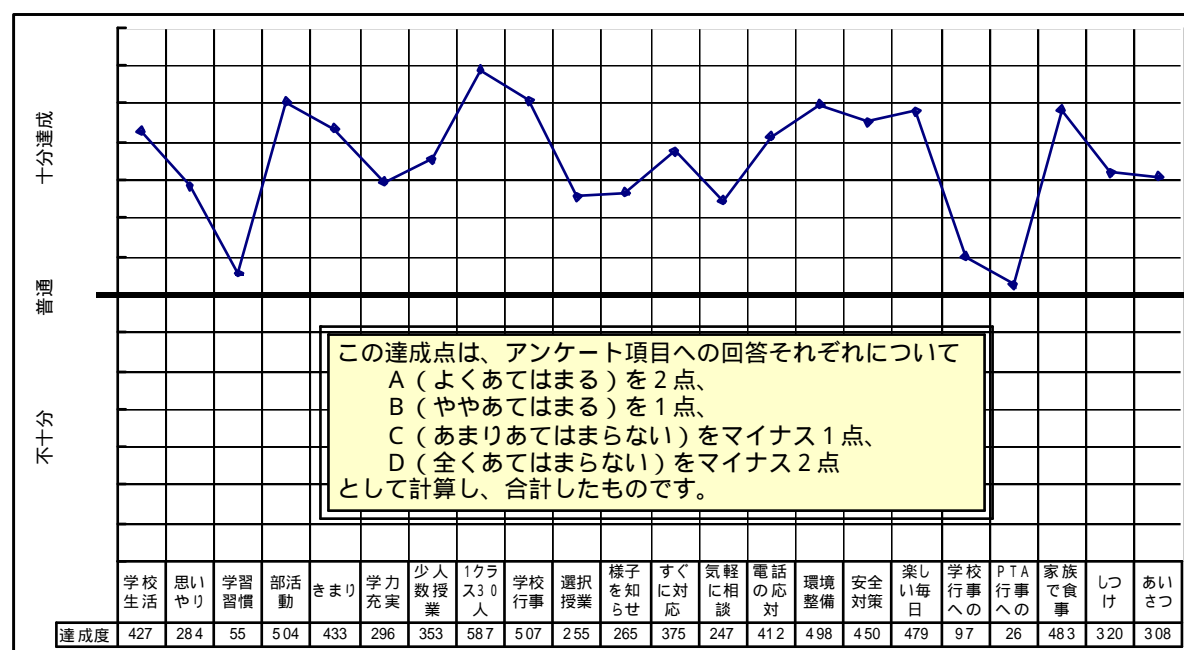
	項 目	A	B	C	D
1	一生懸命、学校生活に取り組むことができたと思う。				
2	言動は思いやりのあるものだったと思う。				
3	家庭での学習習慣が身に付いている。				
4	部活動に積極的に参加したと思う。				
5	学校のきまりをしっかりと守ったと思う。				
6	学校は学力充実のために努力していると思う。				
7	数学など少人数の授業は分かりやすいようだ。				
8	1クラスが30人前後で、多すぎないのはよいことだ。				
9	1学期の学校行事は、よい経験になった。				
10	(2・3年)選択授業は教科書以外のこともできて楽しいようだ。				
11	子どもたちはよくあいさつをする。				
12	学校は、学校や子どもたちの様子を知らせてくれている。				
13	何事にも、先生はすぐに対応してくれる。				
14	気軽に相談できる先生がいる。				
15	学校の電話の対応などはよい。				
16	学校には花壇や掲示物が整理されている。				
17	学校は子どもの安全について配慮している。				
18	学校での毎日は楽しいようだ。				
19	保護者として学校行事には進んで参加している。				
20	保護者としてPTA行事には進んで参加している。				
21	子どもと朝夕一緒に食事をしている。				
22	子どもにはしっかりしつけをしているほうだ。				

3 分かりやすいデータ処理

先の評価表では、A……2点、B……1点、C……-1点、D……-2点で処理し、グラフ化した。次に示しているものは、1学期末の評価のあと、夏休みの登校日に発行した学校だよりに掲載したものである。考察がまだ十分ではないが、できるだけ早く結果を公表することが、保護者からの信頼感を得るのではないかと考え、この方法をとった。学校への評価が具体的に数値化されてよく分かり、このようなデータなどを基に、まずは全教員が授業改善計画書を作成し、授業のレベルアップに乗り出した。

【学校だより】

1学期末に保護者と生徒を対象に「1学期を終えて」という本校の現在のがんばり度をはかるアンケートを実施しました。その結果が下のグラフ(上段:保護者 下段:生徒)です。



不十分という項目はありませんでしたが、まだまだ普通に近い項目もいくつかあるので、教職員の対応など厳しく振り返り、2学期、3学期とさらに向上させていきたいと思えます。

4 今後の課題

評価表については、今後、再び自由記述形式を取り入れたり、学校側が重点的に取り組んでいることに焦点を当てて尋ねたりといった改善が求められている。しかし、それ以上に現在改善する必要があるのが結果の公表についてである。

保護者が知りたいのは、単なる評価結果ではなく、そこに表れたデータを、学校がどう捉え、学校がこれから何をするか、また、それによって今後どうなるのか、その見通しとその理由であろう。P-D-C-Aサイクルに基づいた学校評価・学校改善に取り組む上で、そのような対応は既に行っているが、保護者に公表するとなると、それは約束となり、時には厳しく結果責任が求められることにもなる。しかし、学校改善に真摯に取り組むためには、教職員の共通理解の下、これらの課題を克服していく必要がある。

③ 評価が学校改善に生きる年間スケジュールの工夫

宇部市立上宇部中学校

1 はじめに

学校評価の導入に際しては、年次的に教職員による自己評価、さらに生徒・保護者・地域住民による外部評価を実施してきた。

この間、導入当初は自己評価のみの実施に力点を置いていた状況であった。しかし、徐々に各評価の有効活用や学校マネジメントサイクル(P-D-C-Aサイクル)に基づいた学校改善の具体的方策に着手する必要性が求められてきた。

実践を重ねる中で、「評価のための評価」から以下のような「よりよい学校づくりのための学校評価の年間スケジュールの構築」が課題として挙がってきた。

評価(Check)を改善(Action)につなぐ校内体制とスケジュールをどのように作っていくか。
 改善をどのように次年度の計画(Plan)につなぎ、年度当初からのスムーズな実践(Do)を図っていくか。
 教職員の自己評価に生きる生徒・保護者の外部評価の実施時期をどのようにするか。

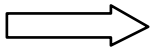
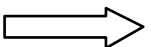
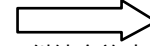
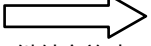
学校評価は、P-D-C-Aサイクルに基づき計画(P)から開始することが望ましいと考えられるが、導入の時期において評価(C)から取り組んだ結果、前述のような課題が浮き彫りになり、学校評価が学校改善に生きる年間スケジュールの工夫を行ってきた。

2 これまでの取組み

(1) 自己・外部評価の導入年度と評価の実施時期

本校の学校評価の歩みを年度を追って見てみると下図のようになる。

平成15年度に教職員・生徒・保護者・地域住民による自己・外部評価を導入し、16年度からP-D-C-Aサイクルに沿った学校評価が滑り出した。

		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
自己 評価	教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の反省 ・3学期末実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の反省と次年度への提言 ・2学期末実施 	 (継続実施中)	 (継続実施中)
				外 部 評 価	生徒
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員による学校評価 ・2学期後半実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・全保護者による学校評価 ・2学期後半実施 			
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員による学校評価 ・3学期実施 	 (継続実施中)	 (継続実施中)		

- 【平成14年度】 ・教職員による自己評価の実施時期を2学期末に変更し、「次年度への提言」を盛り込んで実施。
・学校評議員による外部評価を3学期に実施。
- 【平成15年度】 ・2学期後半(12月初旬)に全生徒及びPTA役員による外部評価を実施。
・評価結果を2学期末の教職員による自己評価の参考資料として活用。
- 【平成16年度】 ・前年度、試行的に実施したPTA役員による保護者評価を、全保護者に拡大して実施。

(2) 学校評価における年間スケジュール・校内体制の課題

平成14年度から自己評価や外部評価を取り入れながら、学校マネジメントサイクルに沿った評価体制を整えてきているが、以下のような課題が出てきている。

- ・評価(C)の実施は年間一回とし、これに向けて年度当初から計画(P)が全教職員の共通理解のもとでスタートでき、実践(D)に移行できるようにする必要がある。
- ・計画～実践(P～D)段階において、生徒・保護者にも「学習指導・生徒指導・進路指導」の3本柱を中心に十分な情報提供を行い、理解・協力が得られるようにする必要がある。
- ・改善(A)の主体はやはり教職員であるから、教職員による的確な自己評価を実施するための参考資料として、生徒・保護者の評価結果を活用できる評価スケジュールを立てる必要がある。
- ・改善(A)のための具体的な方策を検討するために必要な期間と場を確保する必要がある。

3 学校評価における年間スケジュールの工夫

(1) 年間スケジュール立案上の留意点

年間スケジュールの立案に際しては、以下の内容に配慮して行うこととした。

- ・年度当初において計画(P)から実践(D)への移行ができるだけ円滑に教職員の共通理解のもとにできるようにする。
- ・実践(D)において、各種行事が情報発信の場となり、生徒の活動を参観する場ともなるよう配慮する。
- ・生徒・保護者による外部評価(C)の実施時期は11月末から12月初旬とし、実践(D)がある程度消化され、主要行事が終わった時期とする。
- ・また、生徒・保護者による外部評価が、教職員の自己評価の客観的な評価資料として活用できるように結果の集計の時間を確保する。
- ・教職員による自己評価(C)は2学期末から3学期初めとし、生徒・保護者による外部評価が客観的な評価資料として活用できるよう実施時期が重ならないようにする。
- ・年度内の反省・改善(A)のための各校務分掌部会での検討の時間を確保する。
- ・次年度に向けての改善(A)及び計画(P)立案のための各校務分掌部会等における検討の時間を確保する。
- ・次年度の学校評価のスタートが円滑に行えるように、次年度に向けての改善(A)及び計画(P)についての検討や共通理解を行うための時間を確保する。

(2) 学校評価年間スケジュール表

		教職員	生徒	保護者	地域															
計 画 P	3月	・職員会議で各校務分掌部会から具体的改善策（A）及び次年度へ向けての活動計画（P）の提案及び検討																		
	4月	・職員会議で各校務分掌部会から今年度の年間活動計画案（P）の提案及び検討																		
実 践 D 評 価 C 改 善 A	5月	<ul style="list-style-type: none"> 各校務分掌により年間活動計画に沿って活動開始（D） 生徒及び保護者への情報発信 																		
	6月	<p>情報発信の3本柱 『学習指導』・『生徒指導』・『進路指導』</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">・PTA総会</td> <td style="width: 33%;">・PTA評議員会</td> <td style="width: 33%;">・学年保護者会</td> </tr> <tr> <td>・進路説明会</td> <td>・保護者懇談会</td> <td>・学級懇談会</td> </tr> <tr> <td>・参観日</td> <td>・学年通信</td> <td>・学級通信</td> </tr> <tr> <td>・学校新聞</td> <td>・生徒指導だより</td> <td>・保健だより</td> </tr> <tr> <td>・教育講演会だより</td> <td>・家庭訪問</td> <td>・職場体験学習</td> </tr> </table>				・PTA総会	・PTA評議員会	・学年保護者会	・進路説明会	・保護者懇談会	・学級懇談会	・参観日	・学年通信	・学級通信	・学校新聞	・生徒指導だより	・保健だより	・教育講演会だより	・家庭訪問	・職場体験学習
	・PTA総会	・PTA評議員会	・学年保護者会																	
	・進路説明会	・保護者懇談会	・学級懇談会																	
	・参観日	・学年通信	・学級通信																	
	・学校新聞	・生徒指導だより	・保健だより																	
	・教育講演会だより	・家庭訪問	・職場体験学習																	
	7月																			
	8月																			
	9月	・第1回学校評議員会																		
10月																				
11月	・学校評価項目の検討																			
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>生徒・保護者による外部評価実施</u>（添付資料2, 3） <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者による外部評価の集計 （教職員の評価の参考資料とする） 																			
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>教職員自己評価実施</u>（添付資料1） <ul style="list-style-type: none"> 教職員による自己評価結果集計及び分析 																			
2月	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価集計結果をもとに、各校務分掌部会毎に今年度の反省及び次年度へ向けての改善策（A）を検討 																			
3月	<ul style="list-style-type: none"> 保護者へ学校評価結果報告 ・第2回学校評議員会 （<u>地域による外部評価実施</u>） ・職員会議で各校務分掌部会から具体的改善策（A）及び次年度に向けての活動計画（P）の提案と検討 																			

4 効果的な学校評価年間スケジュールに向けた成果と課題

学校評価の先進校視察において、保護者の評価の中に「学校がこうした評価を保護者に求めること自体が評価できる」という意見・感想があり、評価内容や方法はともかくも「まず、学校評価を始めることが大切である」というアドバイスをいただいた。

本校では、評価（C）の部分を年次的に自己評価、外部評価へ拡大してきた。特に、よりよい学校づくりに有効な年間スケジュールを立てることに力点を置き、各評価が相互に生き、改善（A）に有効に機能するシステムを模索してきた。この間の取組みで有効な点や改善の必要がある点などを成果と課題としてまとめ、信頼される学校づくりに努めていきたい。

（1）成 果

ア 前年度末の改善（A）での具体的な方策を基に、年度当初、各校務分掌から年間計画や活動方針が示され、計画（P）が教職員全体の共通理解を図り、実践（D）に速やかに移行できるようになった。

イ 実践（D）においては、従来の取組みの見直しが促進され、また様々な活動の事前の計画・準備が入念に行われるようになってきた。

教職員・生徒・保護者相互の連携がより密になり、適時ニーズに応じた対応が取れるようになってきた。評価することにより保護者には「学校のことをあまりにも知らな過ぎた。家庭で子どもとしっかり話をする機会をもちたい」といった声も聞かれた。

ウ 本校では、生徒や保護者による外部評価は、質問項目を相互にリンクさせたアンケート方式にしている。（資料1，2参照）また、教職員による自己評価では、校務分掌毎に次年度への提言や具体策を記入するように工夫している。

外部評価と自己評価の時期をずらしたことで、外部評価の結果を自己評価の際の参考資料として活用できるとともに、より客観的な反省ができ、それにより改善策にも生徒・保護者の意見や提言を反映させることができた。

教師による自己評価では、次年度への提言・具体策を記入することにより、教職員一人ひとりの学校運営に関する当事者意識が高まったように思われる。

また、「上宇部中生徒としてできることは」というテーマを掲げ、生徒が自ら地域に向いて街頭インタビューや意見箱を設置して地域の方々の意見を聞き、それを基に「上宇部中生徒5ヵ条」として自分たちのあるべき姿を求めた取組みも見られた。

エ 改善（A）については、年度内に評価結果をもとにその具体策を校務分掌部会や職員会議で協議し、次年度の計画（P）・実践（D）の骨格とすることができた。

（2）課 題

ア 保護者による評価では、「学校を評価するのは気が引ける」といった感想が聞かれ、学校評価の目的を分かりやすく説明する必要がある。

また、「評価」という言葉のもつ堅苦しいイメージも否めず「よりよい学校づくりに向けて」など「評価」に変わる適当な表現が必要であると感じた。

イ 学校からの情報発信の量は増加しているが、評価の項目によっては「分からない」とする回答が見られることから、さらに積極的に取り組む必要がある。このことは、評価の判断材料の提供に留まらず、学校との信頼関係づくりの基盤ともなるものである。

ウ 学校評価の年間スケジュールを立てたが、今後は様々な学校の取組みについて参観日や行事ごとに生徒・保護者・教職員による補完的な評価を行う必要がある。

【資料1 生徒用評価表】

平成16年度学校評価「よりよい上宇部中学校をめざして」 (生徒用)
評価依頼文 省略
< 回答方法 > 各項目のA～Eから1つ選んで右側の記号に 印を付けてください。
学年と性別に 印を記入してください。 学年(1・2・3)年 性別(男・女)
<u>1 学校生活について</u> あなたは学校に行くのが楽しいですか。 A 楽しい B どちらかという楽しい C あまり楽しくない D まったく楽しくない E 分からない [A・B・C・D・E]
あなたは、自分が、本校の生徒であることに誇りをもっていますか。 A もっている B どちらかというもっている C あまりもっていない D まったくもっていない E 分からない [A・B・C・D・E]
自分は、目標をもって学校に登校していると思いますか。

【資料2 保護者用評価表】

平成16年度学校評価「よりよい上宇部中学校をめざして」 (保護者用)
<u>1 学校生活にかかわること</u> あなたのお子さんは学校に行くのを楽しみにしていると思われませんか。 [A・B・C・D・E] あなたのお子さんは本校の生徒として誇りを感じていると思われませんか。 [A・B・C・D・E] あなたのお子さんは目的をもって学校に登校していると思われませんか。 [A・B・C・D・E]
<u>2 生徒指導にかかわること</u> 本校では今年学校チャレンジ目標として、生徒・教職員が一緒になって「部活動を頑張ろう」という

① 教職員・生徒・保護者の三者による評価の活用

山口県立徳山高等学校

徳山高校では、平成9年度から教職員による「学校運営の評価アンケート」を実施してきた。内容及び形式を改善しながら過去6年間実施してきた経緯から、平成14年9月に「学校の評価システムに関する実践協力校」の指定を県教育委員会から受け、平成15年から実践に取り組んできた。

取組みに当たっては、これまでの教職員による「学校運営の評価アンケート」に加え、生徒及び保護者による外部評価を実施することで、教職員・生徒・保護者による三者の学校評価を体制化し、教育の質の充実・改善及び学校に対する信頼性の向上に資することを目的として実施した。

1 取組みの概要（平成15年～16年）

【平成15年】

- 1月 学校評価推進委員会（企画運営委員会と兼ねる）
・来年度当初、評価ワーキングチームを設置して、教職員による「学校運営の評価について」アンケート事項の見直しを図ることとした。

教職員による「学校運営の評価について」のアンケート実施

- 2月 学校評価推進委員会及び職員会議
・アンケートの集約結果を報告し、共通認識を図った。
- 3月 「保護者のための徳高便覧 学校理解のために - 」の作成
・保護者による学校評価を実施する前提となる情報提供の一環として保護者全員に配布した。
学校評価推進委員会
・次年度の取組みについて検討した。
- 4月 学校評価推進委員会・職員会議
・学校改善のための評価計画について説明し、共通認識を図った。
・生徒による「学校生活評価アンケート」項目検討のための「学校評価ワーキングチーム」の設置について協議し、「ワーキングチーム」メンバーを選定した。
- 5月 第1回「学校評価ワーキングチーム」会議
・学校評価の目的及び教育目標を確認し、アンケート項目について検討した。
- 6月 第2回「学校評価ワーキングチーム」会議
・評価項目と教育目標・チャレンジ目標との関連、評価項目の原案作成等の分担、公表方法など、今後の取組みについて協議した。

- 7月 第3回「学校評価ワーキングチーム」会議
他県先進校視察
- 8月 第4回「学校評価ワーキングチーム」会議
第5回「学校評価ワーキングチーム」会議
・生徒によるアンケート（案）の構成及び内容について検討した。
学校評価推進委員会・職員会議
・生徒によるアンケート（案）についての共通認識を図った。
- 10月 生徒による「学校生活評価アンケート」実施（各学年3クラス）
職員会議
・生徒によるアンケートの集計結果（グラフと自由記述の集約）を示しながら報告し、改善に力を入れるべき項目について協議した。
- 11月 全校集会
・生徒に対して、アンケートの集計結果の分析概要について説明した。
第6回「学校評価ワーキングチーム」会議
・評価結果の公表内容・公表範囲・公表方法等、保護者によるアンケートの年度内実施に向けての取組み・日程等について協議した。
- 生徒による「学校生活評価アンケート」結果の保護者への公表
学校評議員に「学校生活評価アンケート」の集計結果を報告した。

【平成16年】

- 1月 PTA常任委員会
・「学校生活評価アンケート」の結果及び今後の取組みについて説明した。
第7回「学校評価ワーキングチーム」会議
・保護者による「学校評価アンケート」内容について検討した。
- 2月 第8回「学校評価ワーキングチーム」会議
・保護者による「学校評価アンケート」の項目及び内容について検討した。
学校評価推進委員会及び職員会議
・保護者による「学校評価アンケート」の原案について協議し、共通認識を図った。
学校評議員会
・学校評価についての取組みを報告した。

保護者による「学校評価アンケート」実施

- 3月 教職員による「学校運営の評価アンケート」実施

保護者による「学校評価アンケート」結果の公表

- 5月 職員会議
・教職員による「学校運営の評価アンケート」の集計結果について報告し、共通認識を図った。

2 評価体制

(1) 学校評価推進委員会 (21名：企画運営委員会メンバーが兼任)

校長、教頭(全日・定時)、事務長、各分掌の長(総務・教務・生徒・教育相談・進路指導・図書視聴覚・厚生・保健体育・情報企画の各部)、保健主任、各学年主任、理数科主任、事務主査、男女若手代表

(2) 学校評価ワーキングチーム (9名)

学校評価ワーキングチームは各分掌からの選出であると同時に、各教科・年代等のバランスも考慮して決定された。推進委員会及び職員会議での意見をふまえ、ワーキングチームを中心としてアンケート項目の検討・計画・実施がなされた。

教頭2名(全日・定時)
総務・教務・生徒・教育相談・進路指導・理数科・定時制から各1名

3 評価項目及び評価基準の設定

(1) 生徒による「学校生活評価アンケート」……………【資料1】

本校の教育目標・教育方針を基に具体的な努力目標や教育活動を念頭に置きながら、以下の内容について項目の検討を行った。

教務的な内容 …………… 授業、教育課程にかかわる項目
生徒指導的な内容 ……… 校則・きまり等にかかわる項目
特別活動的な内容 ……… 部活動、生徒会活動、学校行事等にかかわる項目
進路指導的な内容 ……… 進路情報、課外授業、模擬試験等にかかわる項目
教育相談的な内容 ……… 人権、悩みの相談にかかわる項目
その他 …………… 学校全体、学校設備、環境美化にかかわる項目

上に示した領域・観点に基づき、具体的な質問項目を作成した。その際、なるべく具体的で分かりやすい表現を心がけた。例えば、「本校には他にはない特色があり……」というような表現では何が特色なのかが分かりにくいため、具体的に行事・進学等の内容を挙げて質問することとした。また、質問は、学校全体の状況をつかむために、生徒個人のことではなく生徒全体の状況を問う形にしてある。そのため質問の多くは主語を「徳高生は……」という表現に統一した。

評価項目は、回答しやすいように、「学校全体にかかわること」「授業にかかわること」「進路にかかわること」「生徒指導にかかわること」「特別活動にかかわること」「教育相談にかかわること」「学校設備・環境美化にかかわること」の順に内容的にまとめて配列した。以下の保護者による「学校評価アンケート」についてもほぼ同様である。

(2) 保護者による「学校評価アンケート」……………【資料2】

生徒による「学校生活評価アンケート」の項目とほぼ対応させ、保護者向けに内容を改めるとともに、保護者会の実施、PTA活動、「保護者のための徳高便覧」にかかわる項目を追加して設定した。

また、自由記述欄を設け、「本校のよいところ」についての記入欄をお願いした。

(3) 教職員による「学校評価アンケート」【資料3】

平成9年度より「学校運営の評価について」のアンケートとして実施してきたが、平成16年10月には生徒との比較をするために、生徒による「学校生活評価アンケート」の項目と同じ内容で、教職員にアンケートを実施した。

(4) 評価基準の設定

評価基準は以下のとおりであるが、「E よく分からない」を入れた方が、無記入になるよりも質問に対してよく考えて答えることができると判断した。また、「E よく分からない」が多い項目は質問自体に問題があり、次回の項目設定の参考になると思われる。具体的な数値目標等については今後の検討課題である。

A よくあてはまる	B ややあてはまる	C あまりあてはまらない
D 全くあてはまらない	E よく分からない	

4 評価結果の公表・情報提供

(1) 生徒による「学校生活評価アンケート」結果の公表【資料4】

それぞれの項目について、前年度との比較をグラフ化したものを付け加えて、保護者を対象に結果を公表した。

(2) 保護者による「学校評価アンケート」結果の公表【資料5】

生徒による評価結果の公表と同様の方法で公表を行った。昨年度は自由記述欄に記入してあった主な内容をまとめて公表したが、本年度は生徒による評価結果及び保護者による評価結果の総括の部分で主なものだけを公表した。

(3) 教職員による「学校評価アンケート」結果の公表【資料6】

生徒による評価と教職員による評価との比較を各項目ごとにグラフ化して教職員に報告するとともに、学校評議員に対しても公表を行う予定である。今後は、保護者への公表内容及び公表方法について検討していきたい。

5 評価結果に基づいた学校運営の充実・改善

平成15年度の学校評価（生徒・保護者・教職員）の結果を今後の学校運営に生かすために、改善に向けての重点目標の設定を行った。設定に当たっては、学校評価ワーキングチームで結果の分析及び課題の洗い出しを行い、その分析結果を基に学校評価推進委員会及び職員会議で検討した（資料7）。その後、全教職員の共通認識の下で、次のような学校改善・改革に向けた4つの重点目標を設定した。

重点目標	中心となって取り組む分掌等
分かる授業の一層の実現	各教科・各分掌＝全教員
進学校としての更なる取組み	進路指導課（主管分掌）
保護者への積極的な情報発信	総務課・情報企画課
学習環境の整備	校長・教頭・事務長・厚生課

さらに、関係する各課・分掌が中心となって、重点目標達成のための具体的取組みを設定した。年度末には、これらの具体的取組みの達成状況について自己評価を実施したい。

重点目標	具体的取組み
分かる授業の一層の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科での授業研究、一部教科での授業アンケートの実施 ・全校的な授業アンケート実施の検討 ・授業公開についての検討
進学校としての更なる取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望を実現する取組みの充実 ・進学チャレンジプランの推進（面談月間の設定、課外授業の充実、教員の研修会への積極的参加）
保護者への積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・「クリック徳高（中学校への情報発信）」のホームページへの掲載 ・『保護者のための徳高便覧』の充実
学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内のPタイルの補修等 ・生徒会・厚生委員会を中心とした校内美化への積極的取組み

6 学校評価の実施による成果と課題

（１）実施による成果

- ア 教職員の共通認識の下で、生徒及び保護者による外部評価を実施できたことは大きな成果であった。教職員の共通認識なしに実施しても、根付いたものにはならないと考える。
- イ 学校の充実・改善のために学校評価が効果的な役割を果たすことができるという教職員の認識が高まった。
- ウ 各評価、アンケート等により、本校における成果や課題等が一層明確になり、重点課題の洗い出しに有効であった。

（２）これからの課題と改善方針

- ア 重点目標達成のための実践的取組みをより具体的に設定し、学校の充実・改善を図っていききたい。
- イ 生徒及び保護者による外部評価と教職員による自己評価を合わせて学校改善に活かしていくシステムを確立するために、評価結果の分析・診断の方法について検討していききたい。
- ウ 教職員だけでなく保護者や学校評議員等と共に改善策を検討するなど、課題の共有化に努め、より一層連携を深める必要がある。また、地域住民による外部評価の実施について検討していききたい。
- エ 公開授業の在り方、授業評価の内容及び実施方法等について、さらに具体的に研究を深めていききたい。

【資料1】

学校生活評価アンケート(生徒用)

平成16年10月6日
山口県立徳山高等学校

この調査は、生徒の皆さんの学校生活をより充実したものにし、学校をさらによくしていくための資料を得るために実施するものです。あとの質問について、皆さんが平素どのように感じているか、素直に回答してください。

回答は、あなたの気持ちに最も近いものを、1～5から選び 印を付けてください。

- | | | | |
|---|------------|---|-----------|
| 1 | よくあてはまる | 2 | ややあてはまる |
| 3 | あまりあてはまらない | 4 | 全くあてはまらない |
| 5 | よく分からない | | |

番号	質 問 項 目	1	2	3	4	5
1	徳高生は本校を選んでよかったと思っている。					
2	本校は学力向上をめざして、積極的に取り組んでいる。					
3	教え方が工夫されていて授業が分かりやすい。					
4	徳高生は授業に意欲的に取り組んでいる。					
5	60分授業は効果的である。					
6	総合的な学習の時間(魁講座を含む)の内容は適切である。					
7	コース・科目選択の指導は適切にされている。					
8	進路情報の提供が適切にされている。					
9	進路に関する個人面談が十分に実施されている。					
10	模擬試験が適切に計画・実施されている。					
11	課外授業が適切に実施されている。					
12	校則やきまりは妥当である。					
13	徳高生は校則やきまりを守っている。					
14	教員は生徒が基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーを身に付けられるよう指導している。					
15	クラスマッチ・運動会・徳高祭などの学校行事が充実している。					
16	生徒会活動が活発である。					
17	部活動が盛んな学校である。					
18	悩みや困ったことがあったとき、先生に相談することができる。					
19	人権の大切さを学び、それが日常生活に活かされている。					
20	学校内の掃除が行き届いている。					
21	徳高生はゴミの分別をきちんとしている。					
22	校内の施設・設備は、健康で安全な生活がしやすいようによく整備されている。					

学校をよりよくしていくために、こうすればよいという意見があればできるだけ具体的に書いてください。

本校のよいところがあれば具体的に書いてください。

【資料2】

学校評価アンケート(保護者用)

平成16年10月4日

山口県立徳山高等学校

平素から本校教育の推進につきましては、御理解と御協力をいただき感謝いたしております。さて、この調査は、徳山高校をより充実したものにし、学校をさらによくしていくための資料を得るために実施するものです。あとの質問について、保護者の皆様が平素どのように感じておられるか御回答ください。それぞれの項目について、1～4のうち該当するものに印をお付けください。どうしても判断できない(よく分からない)場合は5に印をお付けになってかまいません。

10月5・6日の2日間で、担任に御提出くださるよう御協力をお願いいたします。

- | | | | |
|---|-----------------|---|-----------|
| 1 | よくあてはまる | 2 | ややあてはまる |
| 3 | あまりあてはまらない | 4 | 全くあてはまらない |
| 5 | 判断できない(よく分からない) | | |

番号	質問項目	1	2	3	4	5
1	徳高に子どもを進学させてよかったと思っている。					
2	徳高は学力向上をめざして、積極的に取り組んでいる。					
3	徳高生は学習に意欲的に取り組んでいる。					
4	隔限60分授業は評価できる。					
5	コース・科目選択の指導は適切にされている。					
6	保護者会は適切に実施されている。					
7	進路情報の提供が適切にされている。					
8	模擬試験が適切に計画・実施されている。					
9	課外授業が適切に実施されている。					
10	校則やきまりは妥当である。					
11	徳高生は校則やきまりをおおむね守っている。					
12	徳高では生徒が基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーを身に付けられるよう指導されている。					
13	クラスマッチ・運動会・徳高祭などの学校行事が充実している。					
14	生徒会活動が活発である。					
15	部活動が盛んな学校である。					
16	悩みや困ったことがあったとき、先生に相談することができる。					
17	徳高はゴミの分別など、環境美化に取り組んでいる。					
18	施設・設備は、健康で安全な生活がしやすいように整備されている。					
19	保護者・教職員はPTA活動に協力的である。					
20	「保護者のための徳高便覧」は役立っている。					

学校をよりよくしていくために、こうすればよいという意見があればできるだけ具体的に書いてください。

本校のよいところがあれば具体的に書いてください。

【資料3】

学校評価アンケート(教職員用)

平成16年10月4日

山口県立徳山高等学校

この調査は、生徒の学校生活をより充実したものにし、学校をさらによくしていくための資料を得ることを目的として実施するものです。あとの質問について、先生方が平素どのように感じているか、率直に御回答ください。

回答は、1～5から選び 印を付けてください。

1	よくあてはまる	2	ややあてはまる
3	あまりあてはまらない	4	全くあてはまらない
5	よく分からない		

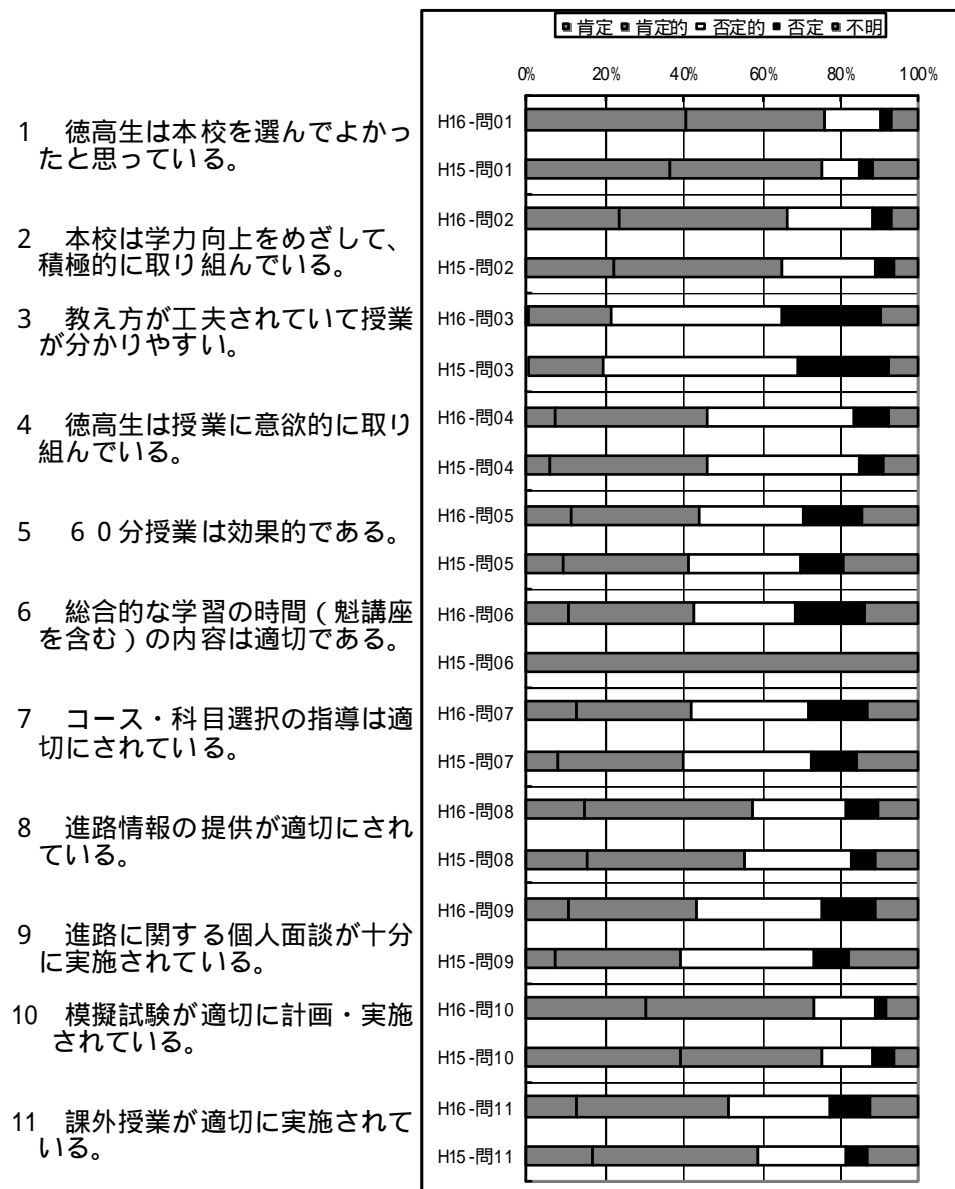
番号	質 問 項 目	1	2	3	4	5
1	徳高生は本校を選んでよかったと思っている。					
2	本校は学力向上をめざして、積極的に取り組んでいる。					
3	教え方を工夫し、授業が分かりやすくなるよう努力している。					
4	徳高生は授業に意欲的に取り組んでいる。					
5	60分授業は効果的である。					
6	総合的な学習の時間(魁講座を含む)の内容は適切である。					
7	コース・科目選択の指導は適切にされている。					
8	進路情報の提供が適切にされている。					
9	進路に関する個人面談が十分に実施されている。					
10	模擬試験が適切に計画・実施されている。					
11	課外授業が適切に実施されている。					
12	校則やきまりは妥当である。					
13	徳高生は校則やきまりを守っている。					
14	教職員は生徒が基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーを身に付けられるよう指導している。					
15	クラスマッチ・運動会・徳高祭などの学校行事が充実している。					
16	生徒会活動が活発である。					
17	部活動が盛んな学校である。					
18	生徒は悩みや困ったことがあったとき、先生に相談している。					
19	生徒は人権の大切さを学び、それが日常生活に活かされている。					
20	学校内の掃除が行き届いている。					
21	徳高生はゴミの分別をきちんとしている。					
22	校内の施設・設備は、健康で安全な生活がしやすいようによく整備されている。					

学校をよりよくしていくために、こうすればよいという意見があればできるだけ具体的に書いてください。

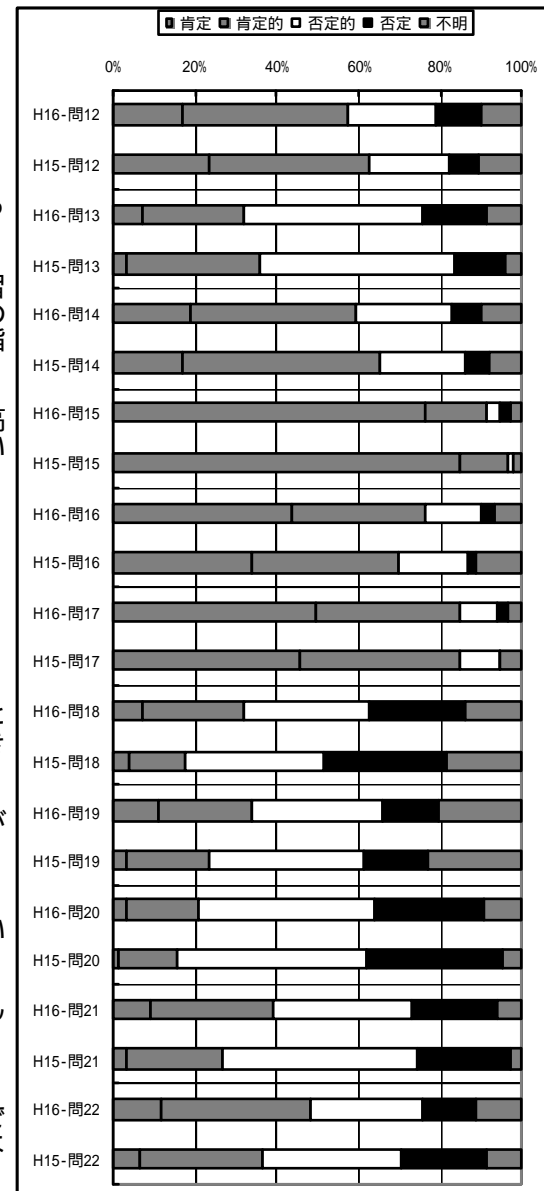
本校のよいところがあれば具体的に書いてください。

【資料 4】

生徒による「学校生活評価アンケート」結果（H15年度とH16年度との比較）

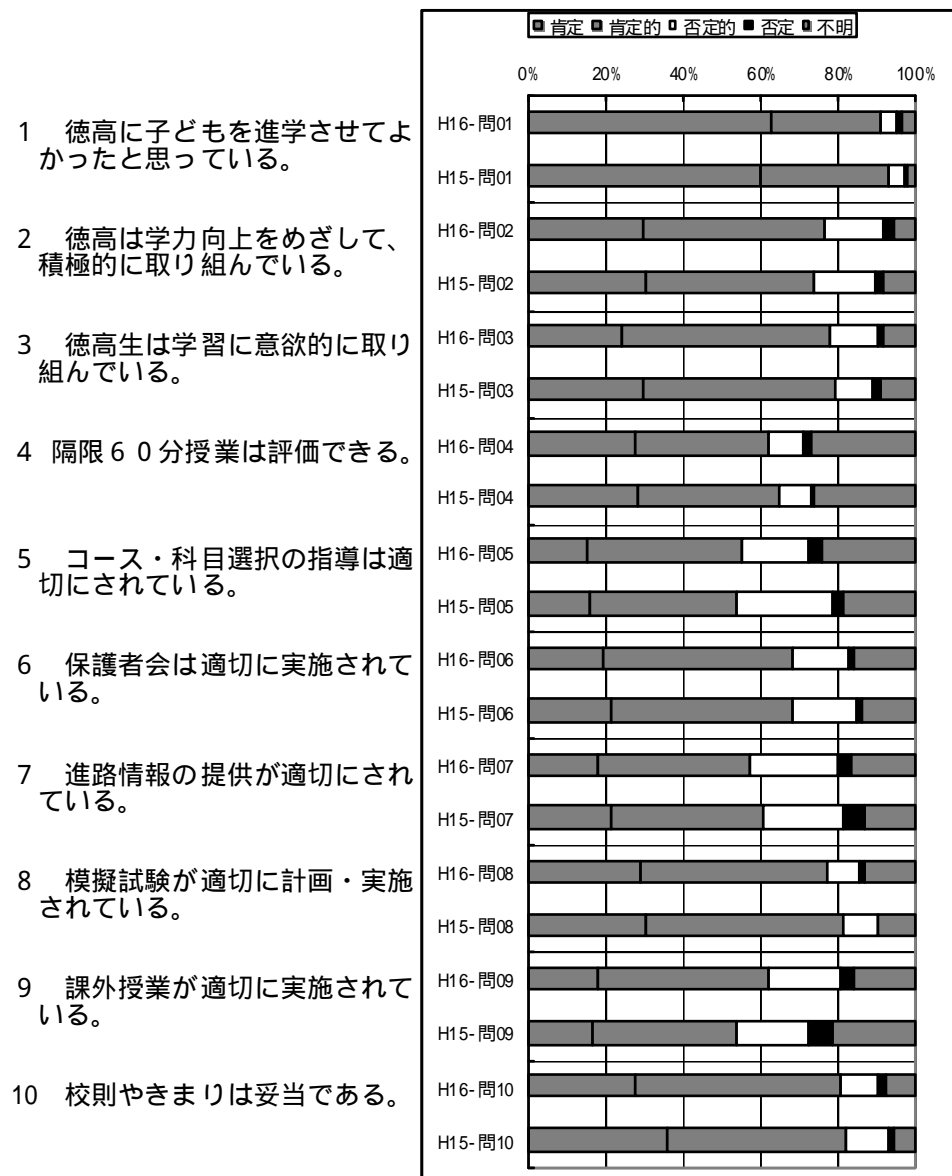


- 12 校則やきまりは妥当である。
- 13 徳高生は校則やきまりを守っている。
- 14 教職員は生徒が基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーを身に付けられるよう指導している。
- 15 クラスマッチ・運動会・徳高祭などの学校行事が充実している。
- 16 生徒会活動が活発である。
- 17 部活動が盛んな学校である。
- 18 悩みや困ったことがあったとき、先生に相談することができる。
- 19 人権の大切さを学び、それが日常生活に活かされている。
- 20 学校内の掃除が行き届いている。
- 21 徳高生はゴミの分別をきちんとしている。
- 22 校内の施設・設備は、健康で安全な生活がしやすいようによく整備されている。

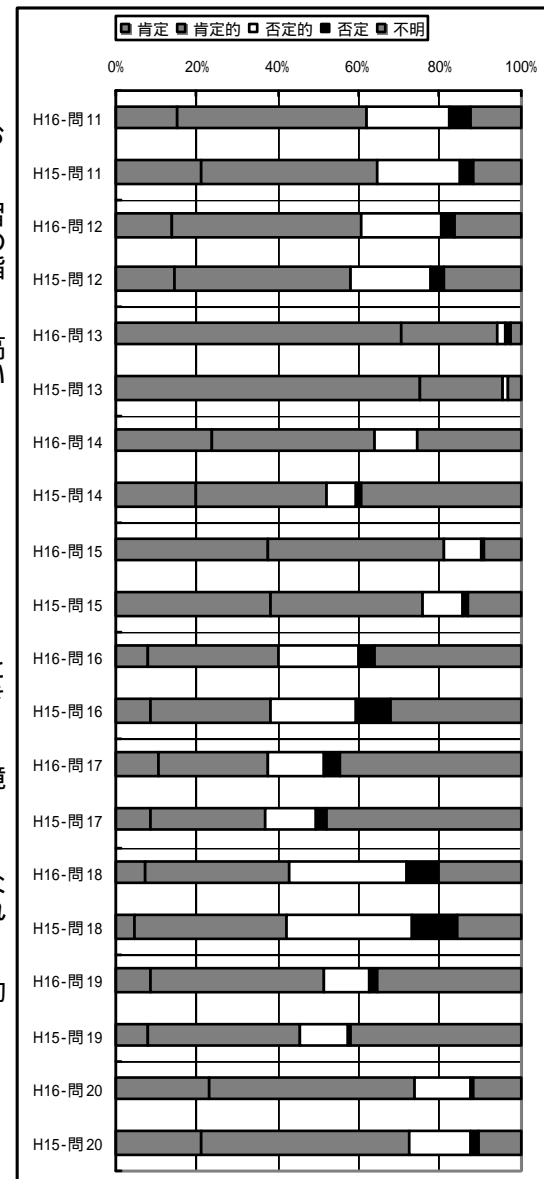


【資料 5】

保護者による「学校生活評価アンケート」結果（H15年度とH16年度との比較）



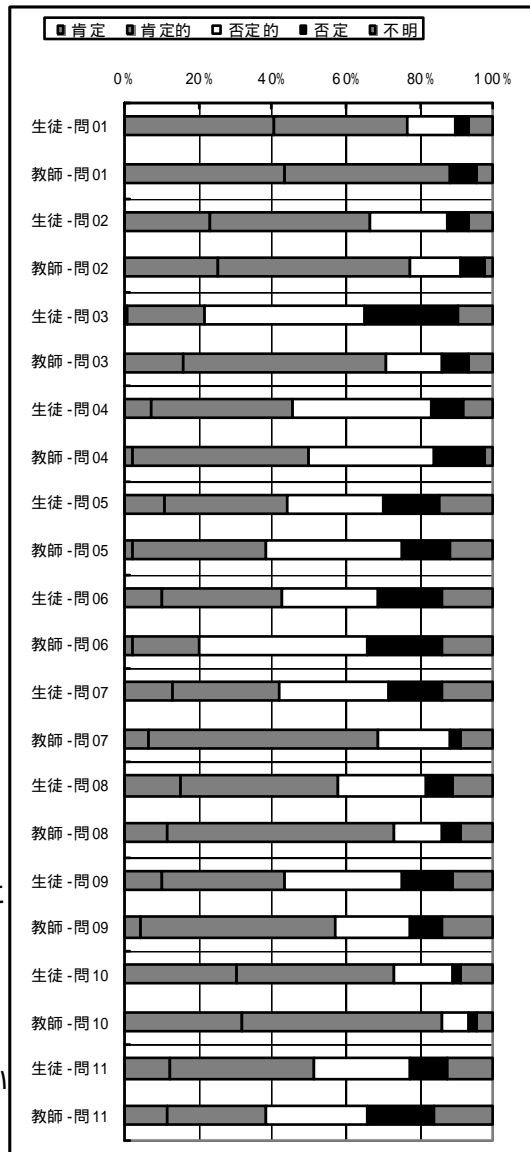
- 11 徳高生は校則やきまりをおおむね守っている。
- 12 徳高では生徒が基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーを身に付けられるよう指導されている。
- 13 クラスマッチ・運動会・徳高祭などの学校行事が充実している。
- 14 生徒会活動が活発である。
- 15 部活動が盛んな学校である。
- 16 悩みや困ったことがあったとき、先生に相談することができる。
- 17 徳高はゴミの分別など、環境美化に取り組んでいる。
- 18 施設・設備は、健康で安全な生活がしやすいように整備されている。
- 19 保護者・教職員はPTA活動に協力的である。
- 20 「保護者のための徳高便覧」は役立っている。



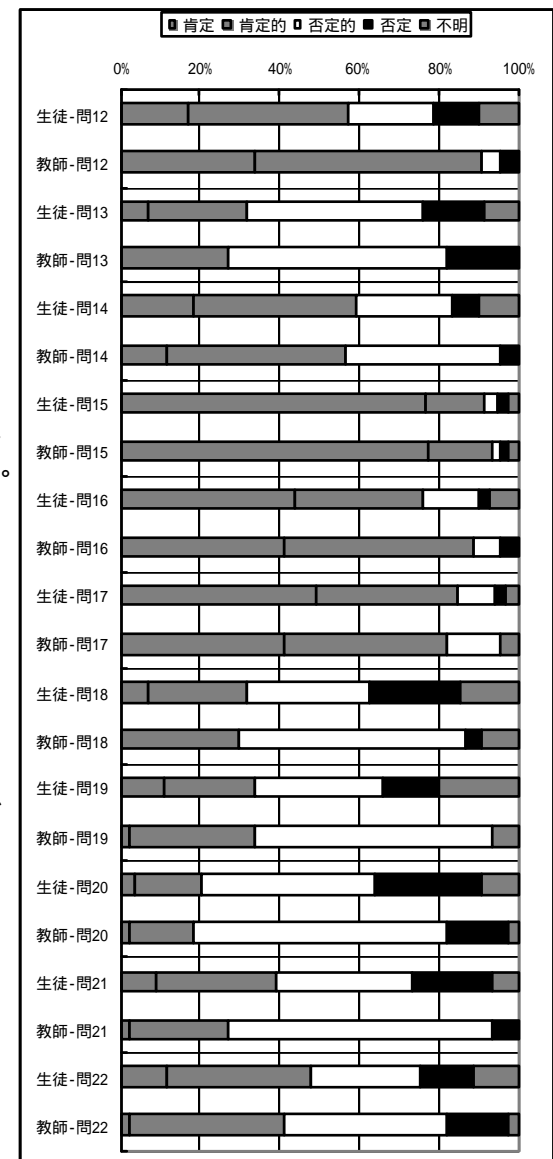
【資料 6】

生徒による評価と教師による評価との比較 (H16年度)

- 1 徳高生は本校を選んでよかったと思っている。
- 2 本校は学力向上をめざして、積極的に取り組んでいる。
- 3 教え方が工夫されていて授業が分かりやすい。
- 4 徳高生は授業に意欲的に取り組んでいる。
- 5 60分授業は効果的である。
- 6 総合的な学習の時間(魁講座を含む)の内容は適切である。
- 7 コース・科目選択の指導は適切にされている。
- 8 進路情報の提供が適切にされている。
- 9 進路に関する個人面談が十分に実施されている。
- 10 模擬試験が適切に計画・実施されている。
- 11 課外授業が適切に実施されている。



- 12 校則やきまりは妥当である。
- 13 徳高生は校則やきまりを守っている。
- 14 教職員は生徒が基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーを身に付けられるよう指導している。
- 15 クラスマッチ・運動会・徳高祭などの学校行事が充実している。
- 16 生徒会活動が活発である。
- 17 部活動が盛んな学校である。
- 18 悩みや困ったことがあったとき、先生に相談することができる。
- 19 人権の大切さを学び、それが日常生活に活かされている。
- 20 学校内の掃除が行き届いている。
- 21 徳高生はゴミの分別をきちんとしている。
- 22 校内の施設・設備は、健康で安全な生活がしやすいように、よく整備されている。



【資料7】

学校評価について(報告)

山口県立徳山高等学校

1 アンケート結果のまとめ

	良い評価	厳しい評価	気付き・自由記述欄から
生徒の評価	学校行事が充実 部活動が盛ん 本校を選んでよかった 模擬試験が適切に実施 学力向上をめざして取り組んでいる	授業が分かりやすい 悩みを先生に相談できる 校内の掃除・ゴミの分別 人権教育が活かされている 校則の遵守	ほとんどの項目で2年生(現3年生)の評価が厳しい コース・科目選択の指導では2・3年生が厳しい評価 自由記述では施設・設備の改善を望む意見が多い
保護者の評価	学校行事が充実 徳高に進学させてよかった 校則やきまりが妥当 部活動が盛ん 模擬試験が適切に実施 徳高生は学習に意欲的 学力向上をめざして取り組んでいる	施設・設備が整備されている 悩みを先生に相談できる コース・科目選択の指導 「判断できない」が多い項目 ゴミの分別・環境美化 保護者・教員はPTAに協力的 生徒会活動が活発である	1・2年生で差はない 教員の質等に関する記述(22) 授業に関する記述(27) 生徒同士の人間関係がよい(14) 学校はもっと情報発信をすべきである(6)
教職員の評価	生徒は学校生活を生き生きとして送っている 問題行動に対する体制が整備 人権尊重の生徒指導 事故等に対応できる役割分担 教育活動は生徒・保護者の要望に応えようとしている	他の教員の授業を見学する機会 施設・設備の学習環境 教職員のPTA活動への積極的な参加 近隣中学校との交流・連携 保護者の学校行事への積極的な参加 60分授業にかかる工夫・改善	回収率が低い(56.8%) 進学校として特色を出す

2 重点目標

- 分かる授業の一層の実現
- 進学校としての更なる取組み(生徒の進路希望を実現する取組み)
- 保護者への積極的な情報発信
- 学習環境の整備

3 アンケート相互の関係(生徒・保護者・教員によって評価が違っている項目)

- 徳高生は授業に意欲的(生徒46%) 徳高生は学習に意欲的(保護者79%)
- 徳高生は校則やきまりを守っている(生徒35%) おおむね守っている(保護者64%)
- 生徒会活動が活発である(生徒70%) (保護者52%)
- 悩みを先生に相談できる(生徒15% 保護者38%) 生徒の悩みに親身に対応している(教員88%)

② 外部評価結果の公表の工夫

山口県立柳井高等学校

1 取組みの概要

(1) 評価の実施時期及び評価体制

本校では、平成15年度から実践協力校として、学校評価の実践に取り組んできた。平成15年度は、10月に生徒及び保護者、教職員による学校評価を各1回実施したが、平成16年度は、2学期制の前期末(9月)及び後期末(2月)の2回実施することにより学校運営の充実・改善を図ることとした。

評価の実施に当たっては、学校評価検討委員会(委員11名)により計画・立案し、運営委員会、職員会議で検討した。

また、学校評議員会において評価結果を示し、意見聴取等を行った。

(2) 評価項目及び評価基準

評価項目は、教育方針、学習指導、生徒指導、進路指導、特別活動、教育相談、設備・環境等について、それぞれ重点項目を設定し、具体的な内容となるよう設定した。

平成16年度前期は、前年度と比較して取組みの改善状況を把握するため、平成15年度に実施した内容を踏襲したものとし、生徒については26項目、保護者については23項目、そのうち共通項目を21項目設定した。また、評価項目以外についての意見・要望等を記入する自由記述欄を設けた。

平成16年度後期は、前期の評価結果を検討して、評価項目を精選して実施することとしているが、教職員については、前期では主に校内体制や取組みについて評価を行い、後期では各課、学年等の各分掌の目標について評価を実施することとしている。

また、評価基準については、評価の傾向を把握しやすくするために4段階の評価とし、無記名で実施した。(生徒及び保護者用評価表をP.98~99に掲載)

(3) 評価結果の公表・情報提供

保護者及び生徒による評価結果については、本校の発行している学校だより「柳高通信」で保護者に公表するとともに、本校のホームページにも掲載し、公表した。

評価結果について、A及びBのプラス評価を左軸に、C及びDのマイナス評価を右軸にグラフで示すとともに、意見・要望等について、学習指導、進路指導、生徒指導、学校生活全般、その他の5項目についてまとめたものを公表した。(資料1)

(4) 評価結果に基づいた学校運営の充実・改善

平成16年度前期学校評価では、保護者からの回答回収率が昨年の54%から62%に伸び、学校への関心度が高くなっていることがうかがえる。

プラス評価であるA+Bの回答は、保護者対象では全質問事項の平均が69%と高い評価を受けたが、生徒対象ではA+Bの回答が平均60%とやや低くなった。

保護者からの評価が低かった「教育相談」、「地域文化・芸術鑑賞」、「施設・設備の整備」

グラフによる評価結果の公表



保護者からの意見や要望

(1) 学習指導について

質問しやすい雰囲気をつくって欲しい。
先生に生徒の学力を上げようとする努力が足りない。
「分かる授業」「魅力ある授業」の努力を。
先生方は良く指導している。生徒は柳高に入学したことで安心してしまっているのでは。
2年生での文・理系の変更は可能か。
宿題に時間をとられ、自分の勉強時間がなくなる。宿題を多く出さないように
土曜日もしっかり学校で勉強できればよい。

(2) 進路指導について

いろいろな分野で活躍している人の体験談などにふれる機会をつくって欲しい。

(3) 生徒指導について

生徒を信じ、自主性を育てて欲しい。
校外で服装の乱れが目につく。
スカート丈の短い生徒がとても多い。
化粧や、髪型、服装が乱れている。品性がなくなったように思う。
女子トイレに入るとがっかりするようなマナーである。

(4) 学校生活全般について

部活動との両立は困難。勉強一本でやって欲しい。
「文武両道をめざす進学校」が生徒によく伝わっていない。国立大の進学率ばかり気にしている。
昔は文武両道をめざすに値する生徒が多かった。私たち親が教育活動に関心をもちなければいけない。
先生と生徒の信頼関係が必要。対話が大切ではないか。
おとなしい生徒が多い。生徒の能力や力を信じ、生徒自身で企画、実行させてはどうか。
自分で高校生活の思い出づくりができるような「自発能動」を育てる学校であれば生徒に誇りが生まれる。

(5) その他

体育祭の柳高体操は伝統が引き継がれ、他校にないさわやかな印象。
体育祭の保護者席の位置、閉会式のスタイルについて。
硬式野球部の甲子園出場。
教員の接遇(電話対応、あいさつ)について。
地元でない1年生の保護者としては、なかなか現実が分からない。

の3項目及び生徒からの評価が低かった「学習指導」「地域文化・芸術鑑賞」「環境美化」「ボランティア活動」「教育相談」の5項目について、自由記述の意見・要望等も参考にしながら、重点的に改善策等を検討し、次年度の努力目標、チャレンジ目標、各課・学年の実践項目の立案に生かすこととしている。

さらに、検討した改善策について、「柳高通信」に「学校が取り組むこれからの主な課題」として掲載し、保護者等への公表を行った。(資料2)

2 学校評価の実施による成果と課題

(1) 実施による成果

ア 保護者や生徒による外部評価を実施することで学校の課題等が明確となり、今後の学校運営の充実・改善に大いに役立った。

イ 学校と生徒、保護者との信頼関係の構築、ネットワークづくりに効果的な役割を果たした。

(2) これからの課題と改善方針

ア 本校では平成15年度から地域の人や保護者を対象とした一般公開授業を実施しており、100名を超える人が授業を参観している。学校の情報提供が学校評価の前提であり、さらに多くの保護者や地域の人に来ていただく方策を検討するなど学校と家庭・地域社会との更に密接なネットワークづくりに取り組む必要がある。

イ 家庭や地域社会と連携した学校評価システムの確立を図るために、PTA総会や学年別懇談会、役員会などの機会を利用し学校評価の趣旨等についての理解を図るとともに、評価項目の設定や改善策の検討等に保護者の参加を求める必要がある。

ウ 教職員による自己評価を充実させるために、具体的な数値目標やスケジュール目標等の設定、結果の公表、評価結果の分析方法等についてさらに検討する必要がある。

【資料2】学校が取り組むこれからの主な課題(「柳高通信」より)

- ・今年度の保護者に関する学校評価は、肯定的なAとBの合計の全項目平均が昨年度実施より、12.8ポイント増加しています。23項目中21項目が増加で、最も増加は「学校行事は充実している」で35ポイントでした。減少の項目は、「校則やきまりは妥当である」が1ポイント、「地域文化や芸術の鑑賞する機会」が11ポイントでした。
- ・生徒に関する学校評価も昨年度より8.4ポイント増加で、26項目中21項目が増加しています。大きく減少の項目は保護者と同じ「地域文化や芸術の鑑賞する機会」でした。
- ・まず、「地域文化や芸術を鑑賞する機会」ですが、先日、保護者の皆様には文書で御案内しましたように、10月15日(金)14時から本校体育館で芸術鑑賞会を開催いたします。是非来校して鑑賞してください。また、翌16日は一般公開授業を行います。(中略)
- ・学習面では、「分かる授業」をめざし、指導内容や指導方法について工夫してまいります。
- ・進路指導について、3年生は就職試験が9月中旬から始まり、大学や専門学校の推薦入試が10月から実施されます。1月のセンター試験まで残りわずかとなりました。希望がかなえられるよう学習指導や情報提供をしてまいります。
- ・また、「湧源」の時間に、2年生は10月21日(木)「大学教員の出張講義」、1年生は10月27日(水)「職業人を囲む会」を実施します。
- ・その他、ボランティア活動の推進、校内環境美化の推進等に取り組みたいです。また、生徒・保護者・教員のより良い信頼関係の構築、ネットワークづくりに努めてまいります。

【資料3】 平成16年度前期 学校評価表（生徒用）

山口県立柳井高等学校

記入に当たって

この調査は、本校の現状を明らかにし、学校の教育活動をより充実したものにするための資料とするものです。それぞれの項目について、A～Dのうち該当するものに印を付けてください。

なお、どうしても判断できない（分からない）内容は、印を付けなくてもいいです。

NO	質 問 事 項	回 答			
1	本校は文武両道をめざす進学校である。	A	B	C	D
2	本校には他校にない優れた特色がある。	A	B	C	D
3	本校の教育活動は生徒の希望をくみ取って、計画的になされている。	A	B	C	D
4	授業は分かりやすく、指導内容や指導方法について工夫している先生が多い。	A	B	C	D
5	習熟度別授業（少人数授業）では大いに効果が上がっている。	A	B	C	D
6	早朝学習や個人指導等では生徒の学力向上に役立っている。	A	B	C	D
7	本校では、興味・関心、適性、進路に応じて科目を選択できる。	A	B	C	D
8	「学海」（シラバス：年間授業計画）は十分工夫されており、役立っている。	A	B	C	D
9	学校の評価は、考査の得点だけでなく、生徒の努力や授業に取り組む姿勢等も含まれている。	A	B	C	D
10	本校の校則やきまりはおおむね妥当である。	A	B	C	D
11	校則やきまりについての先生の指導は理解できる。	A	B	C	D
12	生徒は学校の校則やきまりをおおむね守っている。	A	B	C	D
13	本校の進路指導は生徒一人ひとりに対応したきめの細かい指導がされている。	A	B	C	D
14	本校は生徒に進路に関する情報を十分提供している。	A	B	C	D
15	本校の進路について考える場（「職業人との座談会」等）は役立っている。	A	B	C	D
16	自分の将来や進路について考える機会が多い。	A	B	C	D
17	クラスはまとまり、楽しい雰囲気である。	A	B	C	D
18	学校行事は他校にない特色もあり、充実している。	A	B	C	D
19	生徒会活動は活発である。	A	B	C	D
20	部活動は加入者が多く、熱心に活動している。	A	B	C	D
21	本校ではボランティア活動について学んだり参加する機会がある。	A	B	C	D
22	生徒の悩み事や困ったことについて気軽に相談できる先生がいる。	A	B	C	D
23	本校では、地域の文化に触れたり、芸術を鑑賞したりする機会が多い。	A	B	C	D
24	学校の施設・設備は良く整備されている。	A	B	C	D
25	本校では、校内の環境美化に積極的に取り組んでいる。	A	B	C	D
26	生徒は、生き生きとしており、柳高生として誇りを持ち満足した高校生活を送っている。	A	B	C	D

A：そう思う

B：どちらかというと思う

C：どちらかというと思わない

D：思わない

柳高生がさらによくなり、より多くの生徒が“柳高生としての誇り”をもつようになるための良きアドバイスや学校への要望があれば書いてください

【資料４】

平成１６年度前期 学校評価表（保護者用）

山口県立柳井高等学校

記入に当たって

この調査は、本校の現状を明らかにし、学校の教育活動をより充実したものにするための資料とするものです。それぞれの項目について、A～Dのうち該当するものに印を付けてください。

なお、どうしても判断できない（分からない）内容は、印を付けられなくても結構です。

NO	質 問 事 項	回 答			
1	本校は文武両道をめざす進学校である。	A	B	C	D
2	本校には他校にない優れた特色がある。	A	B	C	D
3	本校の教育活動は生徒の希望をくみ取って、計画的になされている。	A	B	C	D
4	習熟度別授業（少人数授業）では大いに効果が上がっている。	A	B	C	D
5	早朝学習や個人指導等では生徒の学力向上に役立っている。	A	B	C	D
6	本校では、興味・関心、適性、進路に応じて科目を選択できる。	A	B	C	D
7	「学海」（シラバス：年間授業計画）は十分工夫されており、役立っている。	A	B	C	D
8	本校の校則やきまりはおおむね妥当である。	A	B	C	D
9	校則やきまりについての先生の指導は理解できる。	A	B	C	D
10	生徒は学校の校則やきまりをおおむね守っている。	A	B	C	D
11	本校の進路指導は生徒一人ひとりに対応したきめの細かい指導がされている。	A	B	C	D
12	本校は生徒に進路に関する情報を十分提供している。	A	B	C	D
13	本校の進路について考える場（「職業人との座談会」等）は役立っている。	A	B	C	D
14	自分の将来や進路について考える機会が多い。	A	B	C	D
15	本校は保護者への連絡や情報提供を積極的に行っている。	A	B	C	D
16	学校行事は他校にない特色もあり、充実している。	A	B	C	D
17	部活動は加入者が多く、熱心に活動している。	A	B	C	D
18	本校の教職員はPTA活動に協力的である。	A	B	C	D
19	生徒の悩み事や困ったことについて気軽に相談できる先生がいる。	A	B	C	D
20	本校では、地域の文化に触れたり、芸術を鑑賞したりする機会が多い。	A	B	C	D
21	学校の施設・設備は良く整備されている。	A	B	C	D
22	本校では、校内の環境美化に積極的に取り組んでいる。	A	B	C	D
23	生徒は、生き生きとしており、柳高生として誇りを持ち満足した高校生活を送っている。	A	B	C	D

A：そう思う

B：どちらかというと思う

C：どちらかというと思わない

D：思わない

柳高生がさらによくなり、より多くの生徒が“柳高生としての誇り”をもつようになるための良きアドバイスや学校への要望があれば書いてください

③ 授業改善に向けた授業評価の実践

山口県立光丘高等学校

1 授業評価実施に向けて

(1) 取り組みのきっかけ

平成14年度の総合学科への学科改編にともない、本校では学校全体のシステムの見直しを行った。そこで、学校評価によって学校運営全般の状況等について評価し、充実・改善を図るとともに、学校生活の中心である授業についても、様々な角度から評価し、充実・改善を図る必要があると考え、授業評価に取り組んだ。

総合学科では、普通科目以外に生徒の興味関心に基づいた学校設定科目を多く設置しており、「何を授業の目的にすればよいのか」「身に付けさせたい学力とは何か」などの学力観をより明確に設定することが必要となり、新たに学力観を設定するとともに、その学力が生徒に身に付いているか検証するために、生徒による授業評価を中心に実施した。

(2) 目標の明確化・具体化

総合学科の教育目標に、「生徒の個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体験させ、学習に対する意欲や態度を育てる」と設定しているように、総合学科では、知識・理解だけでなく、学ぶ意欲や体験的な学習活動を重視している。

このような理由から、次のような総合学科にふさわしい学力観や育てたい生徒像を設定した。

本校では、「21世紀の社会で活躍できる人」を「育てたい生徒像」として設定した。

「社会で活躍できる人」とは、夢をもち、自分に自信をもって活動できる人物であり、次の3項目について実践する場を多く設定することにより、自分に対して自信がもてるようになるのではないかと考えた。

ア 自分の意見が言えるようになる

イ 誰とでもコミュニケーションがとれるようになる

ウ 「総合的な学力」を身に付ける

「総合的な学力」とは、次のような学力を総合したものであると考えた。

学ぼうとする力……興味・関心・意欲などを身に付け、生涯学習し続ける力
学び方としての力……情報収集力・情報分析力・論理的思考力・価値判断力など
学んだ力……知識・技術など
学んだものを表現する力……プレゼンテーション能力・文章表現力など

この「総合的な学力」を身に付けるという目標がどの程度達成できたかを評価するために、授業評価を実施した。この授業評価により、学んだ力（知識・技術）に重点が置かれた授業から、総合的な学力を重視する授業への転換を図ることができると考えた。

詳しくは、P.101の本校3年間体系図を参照していただきたい。

学校教育目標

平和で民主的な国家および社会の有意な形成者として誠実に、豊かな人間性を身につけ未来の社会に力強く対応できる人間形成を目指して、自主的な学習態度 誠実な生活態度 活力に満ちた心身の育成に努め、知・徳・体の調和のとれた全人教育に最善を期する

総合学科の目標

生徒の個性をいかした主体的な学習を通して学ぶことの楽しさや 将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせ、心豊か
 成就感を体験させ、学習に対する意欲や態度を育てる に主体的・創造的に生きていくことのできる資質や能力を育てる

総合学科のシステムをいかした学習

学ぼうとする力
 興味・関心
 生涯学習

総合的な学力

知識・理解・技術 論理的な思考
 学んだ力を表現する力
 プレゼンテーション能力
 誰とでもコミュニケーションがとれる ・人前で、物怖じせず自分の意見が言える

学んだ力 学び方としての力

育てたい生徒像

社会に出て活躍できる人
 自分に自信をつける

総合学科の多様な生徒に対応した キャリアガイダンスの充実

自問自答する機会を増やす
 「これからどう生きるのか」

3年次

キャリアアップ学習

卒業研究
 論理的思考力
 プレゼンテーション能力など
 総合的な学力

行事等

文化祭・体育大会等行事の
 生徒主導化
 リーダーの育成
 ボランティア活動
 朝の読書

キャリアガイダンス

LHR + 面談 + 卒業研究
 学校見学 面談 マナー指導
 小論文指導
 面接指導
 卒論指導で進路指導

2年次

学び方としての力

総合的な学習の時間
 フィールドワーク
 ディベートトレーニング
 小論文トレーニング

行事等

文化祭・体育大会等行事の
 生徒主導化
 リーダーの育成
 ボランティア活動
 朝の読書

上級学校理解

総合的な学習の時間 + LHR + 面談
 学部・学科研究 面談 マナー指導
 学校見学・職場体験 面談
 ロールプレイ(面接)
 キャリアインタビュー 面談
 ガイダンス 面談

1年次

学んだものを表現する力

産業社会と人間
 自己理解
 ・2分間スピーチ
 コミュニケーション能力の育成
 職業理解
 ・講話+発表
 ・職場体験+発表
 プレゼンテーション能力の育成

行事等

文化祭・体育大会等行事の
 生徒主導化
 リーダーの育成
 ボランティア活動
 朝の読書

自己理解・職業理解

産業社会と人間 + LHR + 面談
 オリエンテーション マナー指導
 宿泊セミナー
 自己理解 面談
 ガイダンス 面談
 職業理解 面談
 ・職業別講師講話・職場体験・職場見学
 ライフプラン 面談

2 具体的な取組み

(1) 評価体制

総合学科の授業観・学力観の検証から授業評価が出発しているため、総合学科を推進する立場であるガイダンス部が中心となって取り組んだ。校長からのトップダウンではなく、ガイダンス部からの提案として始まった。

評価方法は、全生徒が全科目について評価することとした。具体的には、各授業担当者が授業時に評価用紙を配布・回収し、各授業担当者が集計を行った。そして、その結果をガイダンス部が集約し、分析を行った。

(2) 評価の実施時期

まず、学力観・育てたい生徒像を設定した14年度の3学期に、第1回目の授業評価を実施した。そして、15年度は、3学期のみの評価の実施ではその授業に反省がフィードバックされないことから、2学期末テスト前及び3学期末テスト前の2回実施することとした。さらに16年度は、年間を見通してちょうど中間時と最後に評価を実施することとし、2学期中間テスト後及び3学期末テスト前に実施する予定である。

(3) 評価項目

すでに示した本校の目標を達成するために、評価項目2の(4)～(6)に以下のような項目を重点項目として取り入れた。

ア この授業のようなことを将来また学んでみたいと思いますか

イ 表現する力(発表・レポートなど)が身に付く授業でしたか

ウ この授業でどんな力が付いたと思いますか

知識 学習の仕方 技術 もの考え方

「この授業のようなことを将来また学んでみたいと思いますか」を取り入れたのは、学ぼうとする力が育成されたかを測るためである。生涯学び続けようとする力こそ、真の学力であると考えます。

「表現する力(発表・レポートなど)が身に付く授業でしたか」については、学んだものを表現する力が育成されたかを測るためである。学んだものを表現できてはじめて学力が付いたと考えたためである。

「この授業でどんな力が付いたと思いますか」については、学習の仕方、ものの考え方への回答を重視した。なぜなら知識重視の学力観を変更したためである。

このように、本校においては、身に付けさせたい学力から系統的に評価項目を設定しているが、各学校においても、育てたい生徒像・学力観を明確にしたうえで、評価項目を設定する必要があると考えます。

(4) 評価結果

評価結果の主なものについては、P.104のグラフのとおりであるが、2の(3)「興味もてる授業」に「はい」「どちらかといえば はい」の肯定的な評価をした生徒は、14年度の63.0%から15年度は69.4%へと増加している。また、(4)の「将来また学びたい」については、43.6%から50.2%に、さらに(5)の「表現力が身に付く授業」については、42.1%から62.7%に増加している。

授業評価アンケート

総合学科の授業をよりよいものにするために、授業評価アンケートを行いたいと思います。この結果を先生方は、真摯に受け止め、授業改善に心がけるつもりです。生徒の皆さんも、これを機会に自分を見つめ直し、真剣に下記の質問に答えてください。(成績にはいっさい関係ありません)

()年()組 (男 女)()番 氏名()
講座名() 授業担当者() 先生)

次の質問について、あなたが2学期の期末考査までの授業を受けて、感じることを次の中から一つ選び、回答欄にあてはまる数字を記入してください。

1 はい 2 どちらかといえば、はい 3 どちらかといえば、いいえ 4 いいえ

- | 1 生徒のみなさんについての質問(自己評価) | 回答欄 |
|---|-----|
| (1) 予習や復習はしっかりやりましたか。 | () |
| (2) 試験前の勉強はしっかりやりましたか。 | () |
| (3) 授業に真剣に取り組みましたか。 | () |
| (4) 課題や提出物をきちんとやりましたか。 | () |
| 2 授業担当者についての質問 | |
| (1) 先生は十分準備し、意欲的に取り組んでくれましたか。 | () |
| (2) 授業は分かりやすかったですか。 | () |
| (3) 授業の内容は興味のもてるものでしたか。 | () |
| (4) この授業のようなことを将来また学んでみたいと思いますか。 | () |
| (5) 表現する力(発表・レポートなど)が身に付く授業でしたか。 | () |
| (6) この授業でどんな力が付いたと思いますか。(複数回答可) | |
| 知識 学習のしかた 技術 ものの考え方 () | |

3 上に回答したほか、この授業で感じたことをなるべく具体的に書いてください。

4 改善した方がよいと思われる点を書いてください。

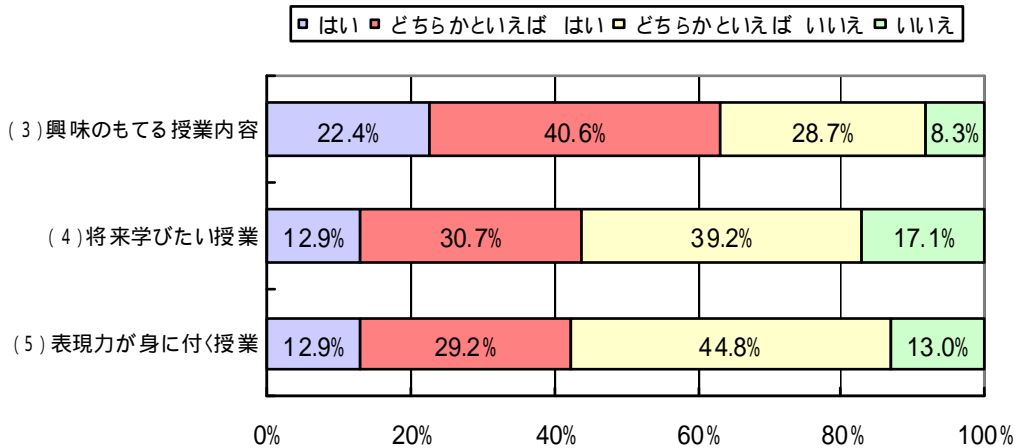
5 授業の内容で、もっと深く学びたかったことや教えてほしかった事を書いてください。

また、(6)の「授業で付いた力」については、「知識」が57.6%から53.3%へ減少し、「学習の仕方」が9.5%から14.7%へ増加している。

これらのことから、本校で育てたい学力観が各教員に浸透し、授業が実際にそれをめざして行われており、生徒もそれを実感しているのではないと思われる。

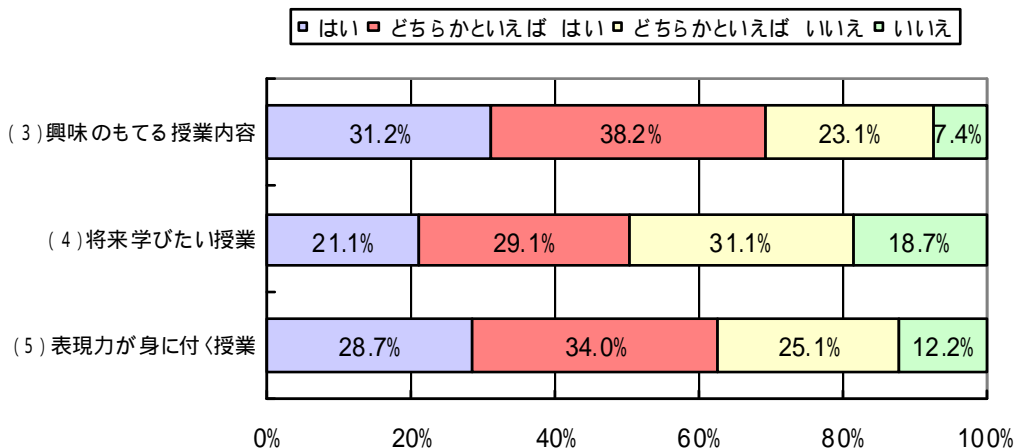
(14年度の結果)

H14年度3学期末授業評価結果(1~3年次生 全科目集計)



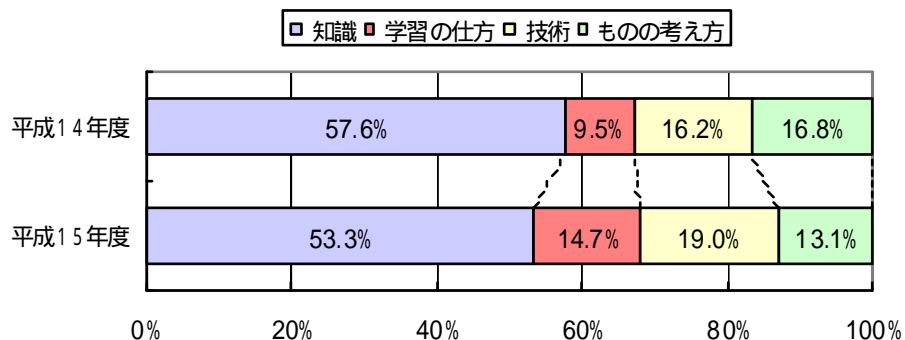
(15年度の結果)

H15年度3学期末授業評価結果(1・2年次生 全科目集計)



(「授業で付いた力」の変化)

2-(6)「授業で付いた力」の年度間比較



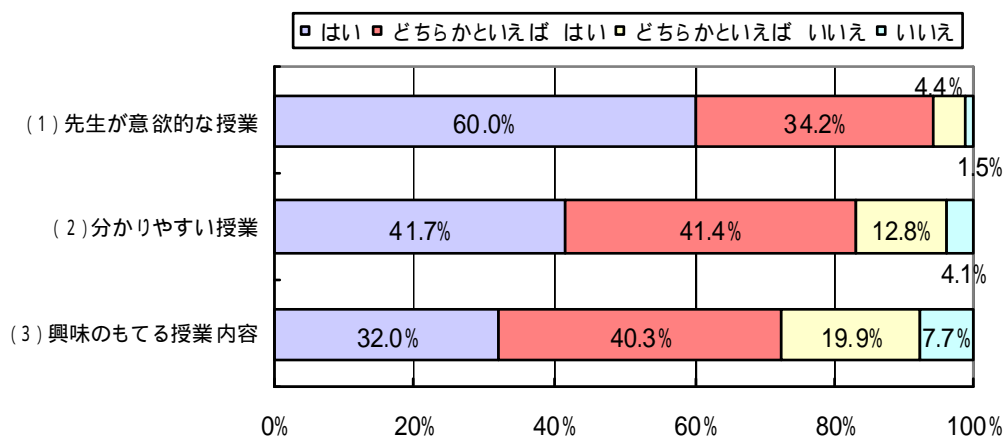
(5) 評価基準

平成16年度から、学校運営3か年計画で、授業に対する生徒の肯定的な評価を80%以上にすると設定した。具体的には、2(1)「先生は十分準備し、意欲的に取り組んでくれましたか」、2(2)「授業は分かりやすかったですか」、2(3)「授業の内容は興味のもてるものでしたか」という項目で、「はい」と「どちらかといえば、はい」と答えた生徒を80%以上になるようにする。

また、2(4)「この授業のようなことを将来また学んでみたいと思いますか」、2(5)「表現する力(発表・レポートなど)が身に付く授業でしたか」、2(6)「この授業でどんな力が付いたと思いますか」(知識 学習の仕方 技術 もの考え方)の重点項目についても、数値目標は設定していないが、それぞれ肯定的な回答の割合を年次的に上げていきたい。

平成16年度2学期中間時点での結果は以下のとおりとなった。学校運営3か年計画で、肯定的な意見80%以上を目標にしたが、現時点では項目2(1)、2(2)は目標を達成している。2(3)は72%であるが、H14、H15年度に比べて、少し増加している。3学期末には目標を達成したい。

H16年度2学期中間授業評価結果(1~3年次生 全科目集計)



(6) 評価結果の公表・情報提供

現在のところ、各学年全体の評価結果のみを公表し、科目ごとの評価結果までは公表していない。科目別の集計結果の公表は現在検討中である。

おもな公表先は、PTA総会・学校新聞(校長作成)で保護者に、また学校評議員会で学校評議員に公表している。地域には、「総合学科通信(P.106参照)」により、近隣中学校(35校)・地域(新聞社等15か所)に公表している。

3 授業評価の実施による成果と課題

(1) 実施による成果

実際に授業評価を行ったことで、教員が個人レベルで自分の授業を見直し、授業改善に役立っていると考えられる。発表やレポート作成、また体験を重視する授業も増え、教員一人ひとりの授業に対する意識が、少しずつではあるが、変化していると思われる。実際にアンケートの結果を見ても感じることができる。

1年次生 職場体験実施 今年度から、アポイント・事前打ち合わせも生徒で・・・



2年次生 キャリアアップ学習 フィールドワーク発表会・面接ロールプレイング



社会に出て自分の足でデータを集めることを通して、オリジナルな主張・根拠の大切さやマナーを身に付けることをねらいとしてフィールドワークを実施しました。左上の写真はそのままの発表会のものです。また、右上の写真は、面接官を体験することで何が面接で大事なのかを理解するためにロールプレイングを行っている模様です。

生徒会による募金活動



新潟県中越地震をうけて、本校でも募金活動を行いました。

全学年 進路講演会



エフエムきらら代表取締役 井上 悟先生に、「夢実現の方程式」という講話で、講演をしていただきました。

授業評価アンケート結果 (全学年全生徒・2学期中間時)

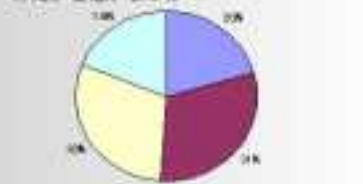
先生は十分準備し、意欲的に取り組んで授業はわかりやすかったですか



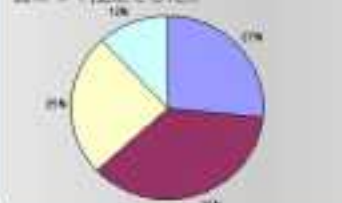
授業の内容は興味のもてるものでしたか



この授業のようなことを将来また学んでみたいと思いますか



表現する力(発表・レポートなど)が身につく授業でしたか



この授業でどんな力がついたと思いますか



(2) これからの課題と改善方針

ア 授業公開週間の設定

教員一人ひとりの個人レベルでの意識の変革は起きていると思われるが、上記の結果を見ると、まだ2年目でもあり、大幅に向上しているとは言えない。各教科での授業参観、授業研究や研修会を行い、授業のノウハウの交換等、さらなる教員個人のスキルアップが必要であると考えます。

平成16年度3学期以降は、授業ノウハウの交換を目的として、「授業公開週間」を設定することとした。これは、各教員が自分の見たい先生の授業を自由に見に行くことができるようにすることである。このような期間を設けることで、お互いに啓発され、授業の質の向上が図られると考える。

イ アンケート用紙の改善

無記名方式

本校では「評価に責任をもたせる」という趣旨から記名方式をとっているが、生徒の本音が出しにくいという声もあり、記名か無記名かについては検討の余地が残る。

評価項目の精選

評価項目を一度設定すると、変更することがむずかしい。変更すると年度間の変化を見ることができないので、最初によく検討して設定する必要がある。

評価基準に中間項目の設定

「はい」「どちらかといえば、はい」「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」の4段階で評価しており、中間項目「どちらでもない」を設定していない。どちらか立場をはっきりさせることを意図して4段階に設定しているのであるが、「分からない」などの項目を設定することも含めて検討が必要である。

集計方法

全科目・全教科で授業評価を実施しているため、評価表配布作業、実施作業、集計作業など膨大な作業量になる。学校評価、授業評価等を実施するに当たり、集計用フォーマットを作成するなど集計作業の効率化、省力化が必要である。

公表

各学年や学校全体でまとめて集計し、公表しているが、各科目ごとには公表していない。生徒には、各教科ごとに集計したものを公表する必要があると考える。学習の主体である生徒に評価結果を返し、よりよい授業づくりにつなげていきたい。

また、結果だけでなく、結果に基づいた改善や新たな取組みも公表する必要がある。

学校生活においては、授業が中心であり、その授業に対する評価を積極的に行うことが学校の改善にとって大変重要であると考えます。

本校では、学校教育目標や重点目標に沿って、「21世紀に必要な学力観」及び「育てたい生徒像」を設定し、それらの実現に向けて実践に取り組むとともに、目標の達成状況についての評価活動に取り組んできた。

今後も、目標の実現に向けて、個人レベルの授業改善だけでなく、よりよい学校づくりに向けて、学校全体で組織的、計画的に学校評価や授業評価に取り組んでいきたい。

「学校評価ガイドブック」と「学校評価実践事例集」は、Webページでも御覧いただけます。

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/gyosei/kyoshoku/ghyouka-index.htm>

「学校評価」に関する情報ページ

学校の評価システムに関する調査研究会議報告書

- ・ [「学校の評価システムに関する調査研究会議」報告書\(概要\)](#)(PDF: 18KB)
- ・ [「学校の評価システムに関する調査研究会議」報告書](#)(PDF: 135KB)

学校評価ガイドブック

- ・ [学校評価ガイドブック「よりよい学校づくりに向けて」](#)

学校評価実践事例集

- ・ [学校評価実践事例集「実」](#)

学校評価ガイドブック「よりよい学校づくりに向けて」

はじめに(PDFファイル: 16KB)

学校評価とは(PDFファイル: 76KB)

- 1 学校評価導入の趣旨
- 2 学校評価導入の背景
- 3 学校評価の目的
- 4 学校評価の基本的な考え方
- 5 P-D-C-Aサイクルに基づいた学校評価システム



これからの学校運営(PDFファイル: 169KB)

- 1 目標の明確化・具体化 PLAN
 - (1) 重点目標(努力目標)の設定
 - (2) 評価の対象(評価領域)
- 2 具体的方策の設定と実践 DO
 - (1) 目標達成に向けた具体的方策の設定
 - (2) 具体的方策の設定までの流れ

学校評価実践事例集 編集委員

大谷 昌之	下関市立長府小学校 教頭
宮川 浩	下関市立吉田小学校 教諭
上野 規子	豊浦町立小串小学校 教頭
渡邊 栄二	小野田市立高千帆中学校 教諭
山本 幸生	小野田市立小野田中学校 教頭
野村 和芳	宇部市立上宇部中学校 教頭
山下 聡子	山口県立德山高等学校 教諭
福本 克己	山口県立柳井高等学校 教諭
平林 徹	山口県立光丘高等学校 教諭



学校評価実践事例集

平成17年3月

山口県教育委員会